

第5次朝霞市総合計画後期基本計画

社会の潮流の整理「個別分野編」

令和元年11月



本資料は、各分野の指標を用いて客観的に社会の潮流を整理したものです。

近隣3市(志木市、和光市、新座市)のほか、総務省の分類による類似団体から埼玉県内の1市(富士見市)との比較を行い、考えられる課題を分野別に挙げています。

目次

1. 調査指標一覧	2		
2. 分析結果(全体)	4		
2-1. 分析結果から考えられる朝霞市の主な課題	5		
3. 分析結果(分野別)	7		
3-1. 安心・安全	9	3-7. 住環境	49
3-2. 出産・子育て	15	3-8. 都市基盤	59
3-3. 高齢者	27	3-9. 産業	66
3-4. 健康・福祉	34	3-10. 就業環境	76
3-7. 教育	40	3-11. 行財政	83
3-6. 文化	45		

1. 調查指標一覽

1. 調査指標一覧

社会情勢等の整理・分析にあたり、分野ごとに指標を網羅的に設定し、統計データを収集・整理し、分析した。

調査指標一覧

No	分野	指標										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1	安心・安全	人口1千人あたり交通事故発生件数 p.10	1千世帯あたり出火件数 p.11	人口1千人あたり刑法犯認知件数 p.12	人口1千人あたり救急救助件数 p.13	住宅の耐震診断実施率 p.14						
2	出産・子育て	合計特殊出生率 p.16	15～49歳女性人口1千人あたり出生数 p.17	自然増減率 p.18	0～5歳人口あたり保育所定員数 p.19	0～5歳人口1千人あたり待機児童数(保育所) p.20	6～11歳人口あたり放課後児童クラブ定員数 p.21	6～11歳人口1千人あたり入所保留者数(放課後児童クラブ) p.22	15～49歳女性就業率 p.23	15～49歳人口1千人あたり婚姻件数 p.24	15～49歳人口有配偶率 p.25	0～18歳人口1万人あたり児童館数 p.26
3	高齢者	高齢夫婦世帯数比率 p.28	高齢単身世帯数比率 p.29	介護保険第1号被保険者数 p.30	要介護(要支援)認定比率 p.31	65歳以上人口1千人あたり老人福祉施設定員 p.32	特別養護老人ホーム入居希望者数 p.33					
4	健康・福祉	人口1万人あたり病院数 p.35	人口1万人あたり一般診療所数 p.36	朝霞市国民健康保険被保険者1人あたりの医療費 p.37	人口1千人あたり生活保護受給者数 p.38	人口1万人あたり障害者手帳所持者数 p.39						
5	教育	児童1千人あたり小学校数 p.41	教員1人あたり小学校児童数 p.42	生徒1千人あたり中学校数 p.43	教員1人あたり中学校生徒数 p.44							
6	文化	人口1万人あたり公民館数 p.46	人口1万人あたり図書館数 p.47	人口1千人あたり外国人市民人数 p.48								
7	住環境	社会増減率 p.50	可住地面積比率 p.51	可住地面積あたり人口密度 p.52	単独世帯割合 p.53	持ち家比率 p.54	空き家率(総数) p.55	空き家率(その他の住宅) p.56	人口1人1日あたり生活系ごみ排出量 p.57	リサイクル率 p.58		
8	都市基盤	人口1千人あたり都市公園数 p.60	都市公園面積 p.61	緑被率等 p.62	水道の基幹管路の耐震適合率 p.63	水道の管路経年化率 p.64	汚水処理人口普及率 p.65					
9	産業	人口1千人あたり事業所数 p.67	第1次産業事業所比率 p.68	耕作面積比率 p.69	第2次産業事業所比率 p.70	製造業事業所あたり製造品出荷額 p.71	第3次産業事業所比率 p.72	小売業売場面積 p.73	小売業事業所あたり年間商品販売額 p.74	観光入込客数 p.75		
10	就業環境	昼夜間人口比率 p.77	就業率 p.78	第1次産業就業者比率 p.79	第2次産業就業者比率 p.80	第3次産業就業者比率 p.81	納税義務者1人あたり課税対象所得 p.82					
11	行財政	財政力指数 p.84	歳入に占める地方税の割合 p.85	人口1人あたり地方債現在残高 p.86	実質公債費比率 p.87	経常収支比率 p.88	実質収支比率 p.89	人口1千人あたり市職員数 p.90				

2. 分析結果(全体)

2-1. 分析結果から考えられる朝霞市の主な課題(1)

分野ごとの指標の調査・分析結果を踏まえ、市が抱える主要な課題の検討を行った。

分野	分析結果	参照先	考えられる課題
安心・安全	■ 人口1千人あたり刑法犯認知件数が比較自治体の中で高い。	p.12	<p>防犯対策の強化が求められる。</p> <p>全ての待機児童の解消には至っていないため、今後とも待機児童対策を進めていく必要がある。</p>
出産・子育て	■ 合計特殊出生率が高い。	p.16	
出産・子育て	■ 15～49歳女性人口1千人あたり出生数が高い。	p.17	
出産・子育て	■ 0～5歳人口あたり保育所定員数が高い。	p.19	
出産・子育て	■ 待機児童数が0ではない。	p.20	
高齢者	■ 介護保険第1号被保険者数が比較自治体の中で高い。	p.30	<p>高齢者の健康づくりが重要である。</p>
高齢者	■ 要介護(要支援)認定比率が高い。	p.31	
健康・福祉	■ 人口1万人あたり病院数が比較自治体の中で低い。	p.35	<p>地域内に病院数が少ないが、整備については、「埼玉県地域医療構想」に基づき整備等されてきた経緯があることから、今後も、埼玉県や朝霞地区医師会と調整や連携を進めていくことが課題である。</p>
健康・福祉	人口1万人あたり障害者手帳所持者数が増加している。	p.39	<p>障害者の増加に伴い、サービスの提供の多様化や充実が必要であると考えられる。</p>

2-1. 分析結果から考えられる朝霞市の主な課題(2)

分野	分析結果	参照先	考えられる課題
教育	■ 児童1千人あたり小学校数、生徒1千人あたり中学校数からは、規模が大きい小学校が多い傾向にあると考えられる。	p.41 p.43	<p>今後の推移をとらえながら、引き続き適切な対応が必要である。</p> <p>また、引き続き補助教員や支援員を配置し、きめ細かな対応を図っていくことが求められる。</p>
教育	■ 教員1人あたり小学校児童数、教員1人あたり中学校生徒数からは、きめ細かな対応を図っていくことが求められる。	p.42 p.44	
住環境	■ 単独世帯割合が高い。	p.53	<p>市内に長期間定住している人が少ない可能性があり、今後人口の定着を図るには、様々な住宅ニーズの把握が必要と考えられる。</p>
住環境	■ 空き家(その他の住宅)は増加傾向にある。	p.56	<p>空き家は適正な管理がされないと住環境に悪影響を及ぼすおそれがあることから、対策の検討が必要である。</p>
都市基盤	■ 水道の管路経年化率が高い。	p.63 p.64	<p>管路の更新の推進が必要と考えられる。</p>
都市基盤	■ 汚水処理人口普及率は比較自治体の平均と同程度の水準にある。	p.65	<p>下水道管の計画的な更新が必要と考えられる。。</p>
産業	■ 総人口に対する事業所数は、比較自治体の平均を上回っているが、経年比較では減少傾向にある。	p.67	<p>市内事業所数は減少傾向にあり、特に第2次産業においては産業全体から見た事業者比率の内訳としても減少傾向にあることから、減少の傾向が顕著であることがうかがえる。</p> <p>また、昼夜間人口比率が低いことから、通勤や通学で昼間に市外に出る市民が多く、市内での雇用の受け皿が少ない可能性がある。</p>
産業	■ 産業全体から見た事業者比率の内訳としては、第1次産業及び第3次産業が増加傾向にあり、第2次産業が減少傾向にある。	p.68 p.70 p.72	
就業環境	■ 本市の昼夜間人口比率は、県平均89.47%を大きく下回り、82.55%となっている。	p.77	
行財政	■ 経常収支比率が高い。	p.88	<p>より一層の財政運営の効率化が必要である。</p>

3. 分析結果(分野別)

3-0. 表の見方

国や県が実施している社会統計に基づく指標を一覧化しています。

値が低い方が望ましい指標は、「注」にて※を付しています。

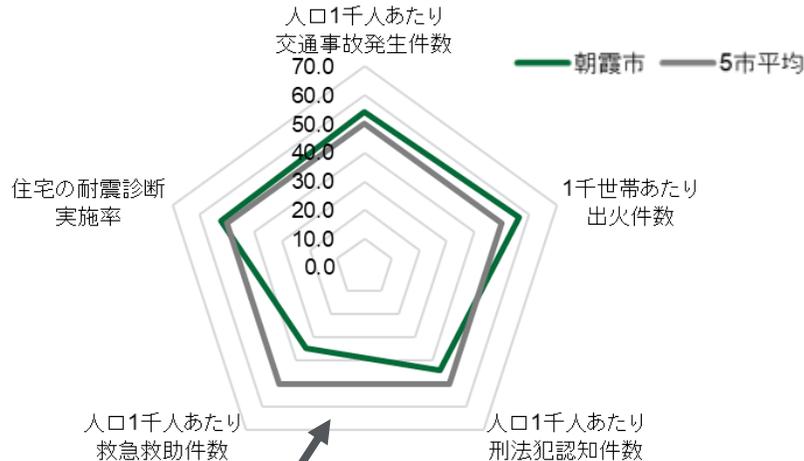
「朝霞市順位」及び「偏差値」では、5市(比較自治体4市+朝霞市)内の朝霞市順位及び偏差値を算出しています。

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	新座市	富士見市	和光市
1	人口1千人あたり交通事故発生件数	件	※	2.38	2.46	3	54.1	2.27	2.73	2.28	2.66
2	1千世帯あたり出火件数	件	※	0.019	0.021	2	56.5	0.017	0.023	0.021	0.026
3	人口1千人あたり刑法犯認知件数	件	※	7.8	7.2	4	44.3	5.9	8.3	7.7	6.4
4	人口1千人あたり救急救助件数	件	※	138.0	42.8	2	34.8	76.0	0.0	0.0	0.0
5	住宅の耐震診断実施率	%		11.8	11.1	2	52.3	8.3	10.9	8.2	16.2

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

近隣自治体である志木市・和光市・新座市のほか、総務省分類に基づく人口及び産業構造等の類似している埼玉県内の自治体の中から富士見市を比較自治体として設定し、指標数値を掲載しています。

レーダーチャート



「レーダーチャート」では、5市(比較自治体4市+朝霞市)内における朝霞市及び5市平均の偏差値をチャートで表しています。

分析コメント

- 「人口1千人あたり交通事故発生件数」、「1千世帯あたり出火件数」、「住宅の耐震診断実施率」は比較自治体の平均よりも高い偏差値を示している。
- 「人口1千人あたり刑法犯認知件数」、「人口1千人あたりの救急救助件数」は比較自治体の平均よりも低い偏差値を示している。
- 「人口1千人あたり刑法犯認知件数」は、埼玉県平均より値が低いものの、比較自治体の中では比較的高い水準にあることから、**防犯対策の強化**が求められる。

「分析コメント」では、自治体間比較(比較自治体および埼玉県内)から読み取れる朝霞市の現状についてコメントを付しています。

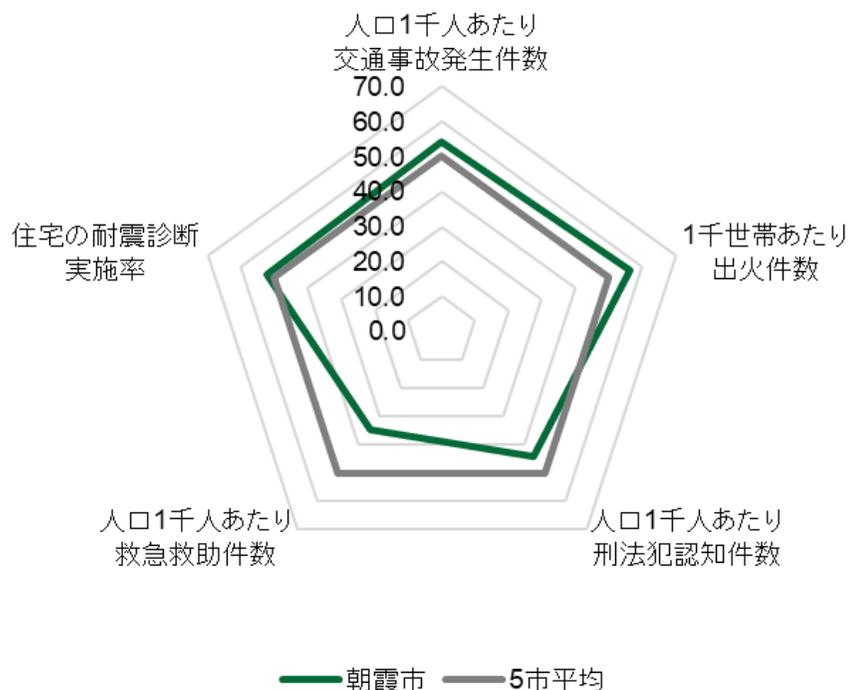
3-1. 安心・安全

分析結果総論

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市 順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	新座市	富士見市	和光市
1	人口1千人あたり交通事故発生件数	件	※	2.38	2.46	3	54.1	2.27	2.73	2.28	2.66
2	1千世帯あたり出火件数	件	※	0.019	0.021	2	56.5	0.017	0.023	0.021	0.026
3	人口1千人あたり刑法犯認知件数	件	※	7.8	7.2	4	44.3	5.9	8.3	7.7	6.4
4	人口1千人あたり救急救助件数	件	※	138.0	42.8	2	34.8	76.0	0.0	0.0	0.0
5	住宅の耐震診断実施率	%		11.8	11.1	2	52.3	8.3	10.9	8.2	16.2

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

レーダーチャート



分析コメント

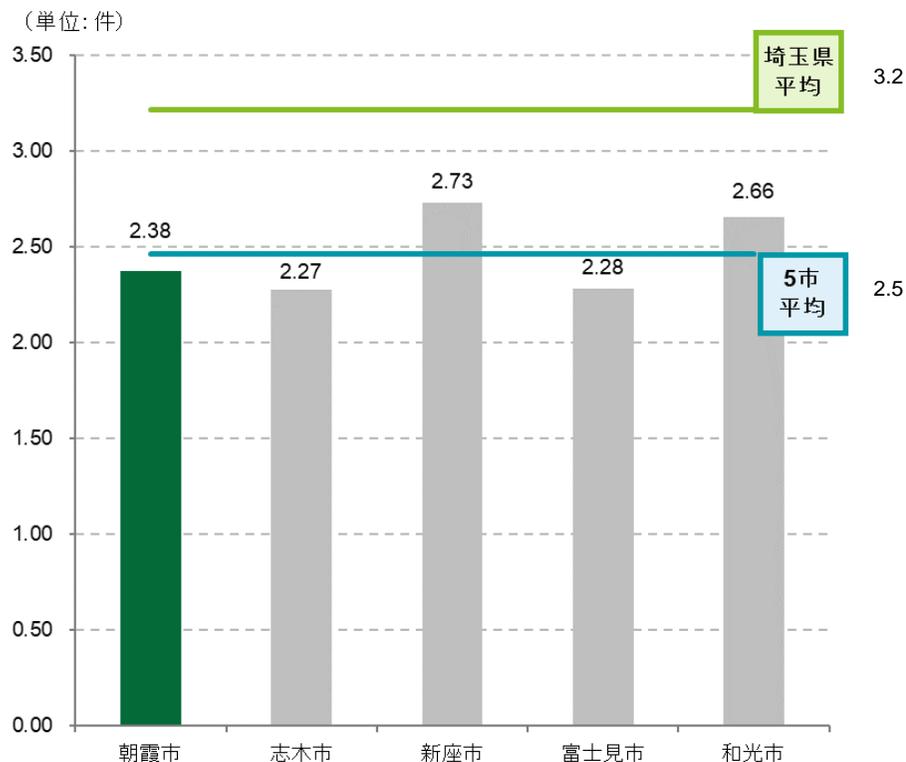
- 「人口1千人あたり交通事故発生件数」、「1千世帯あたり出火件数」、「住宅の耐震診断実施率」の偏差値は比較自治体の平均よりも高い。
- 「人口1千人あたり刑法犯認知件数」、「人口1千人あたりの救急救助件数」の偏差値は比較自治体の平均よりも低い。
- 「人口1千人あたり刑法犯認知件数」の数値は埼玉県平均より低いものの、比較自治体の中では比較的高い水準にあることから、防犯対策の強化が求められる。

3-1-1. 人口1千人あたり交通事故発生件数

総人口に対する交通事故発生件数は、比較自治体及び埼玉県平均を下回る水準であるため、朝霞市の交通安全は、埼玉県において相対的に確保されていると考えられる。

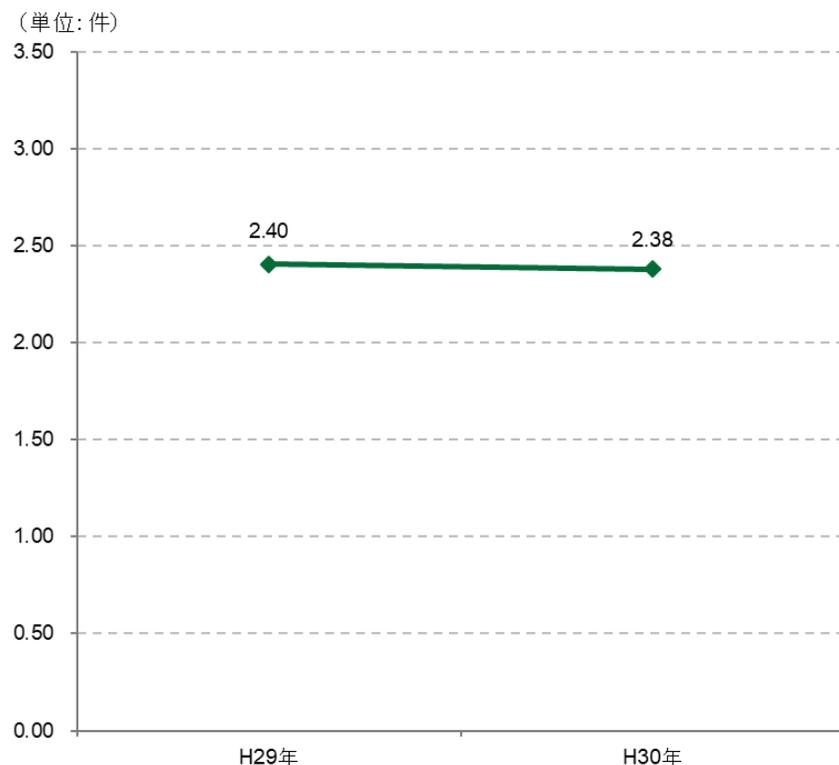
自治体間比較(平成30年)

- 朝霞市は新座市、和光市に次いで3番目に高い水準にある。
- 5市平均(2.5件)、埼玉県平均(3.2件)をともに下回っている。



経年比較

- 過去2回分を比較すると、横ばいで推移している。

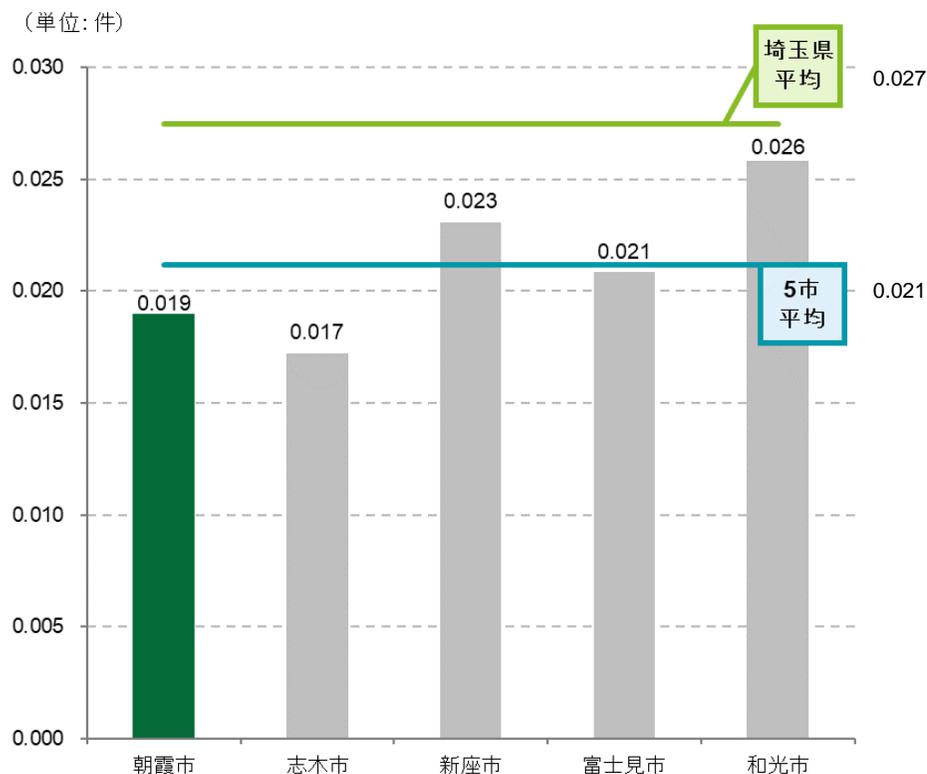


3-1-2. 1千世帯あたり出火件数

総世帯数に対する出火件数は、比較自治体や埼玉県平均を下回る水準であるため、朝霞市の住宅火災件数は、埼玉県において相対的に少ないと考えられる。

自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は志木市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(0.021件)、埼玉県平均(0.027件)をともに下回っている。



経年比較

- 単年度データのため、経年比較はない。

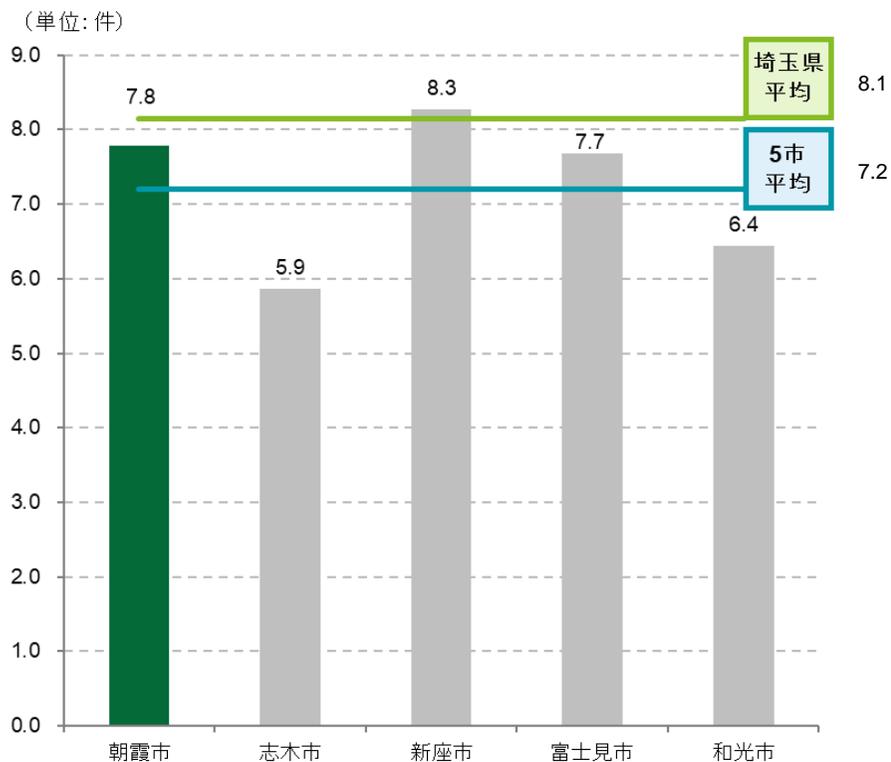
単年度データのため経年比較なし

3-1-3. 人口1千人あたり刑法犯認知件数

総人口に対する刑法犯認知件数は、比較自治体及び埼玉県平均と同じ水準にあるため、朝霞市の刑法犯罪の発生件数は、埼玉県において標準的な水準にあると考えられる。

自治体間比較(平成30年)

- 朝霞市は新座市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(7.2件)は上回っているが、埼玉県平均(8.1件)は下回っている。



経年比較

- 単年度データのため、経年比較はない。

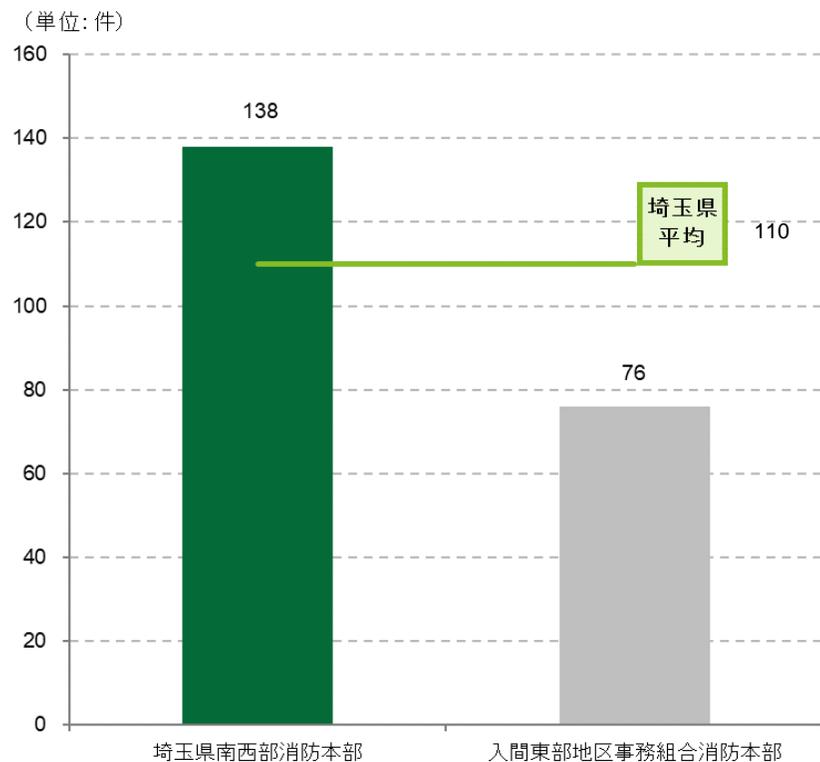
単年度データのため経年比較なし

3-1-4. 人口1千人あたり救急救助件数

総人口に対する救急救助件数は、埼玉県平均を上回っており、朝霞市の救急救助件数は埼玉県において相対的に多いと考えられる。

自治体間比較(平成29年)

- 入間東部地区事務組合消防本部を上回っている。
- 埼玉県平均(110件)を上回っている。



経年比較

- 単年度データのため、経年比較はない。

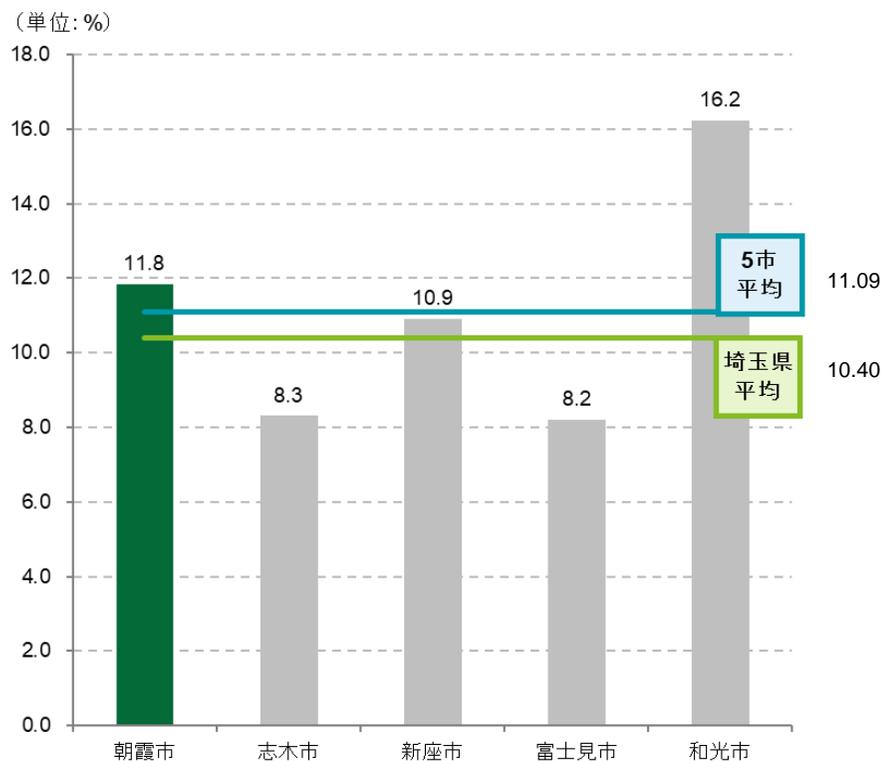
単年度データのため経年比較なし
また、消防年報は消防本部ごとで数値がまとめられているため、自治体ごとの数値取得は不可能

3-1-5. 住宅の耐震診断実施率

総住宅数に占める住宅耐震診断数の比率は、比較自治体及び埼玉県平均を上回っており、朝霞市内の地震に対する備えを行っている住宅の割合は、埼玉県において相対的に高いと考えられる。

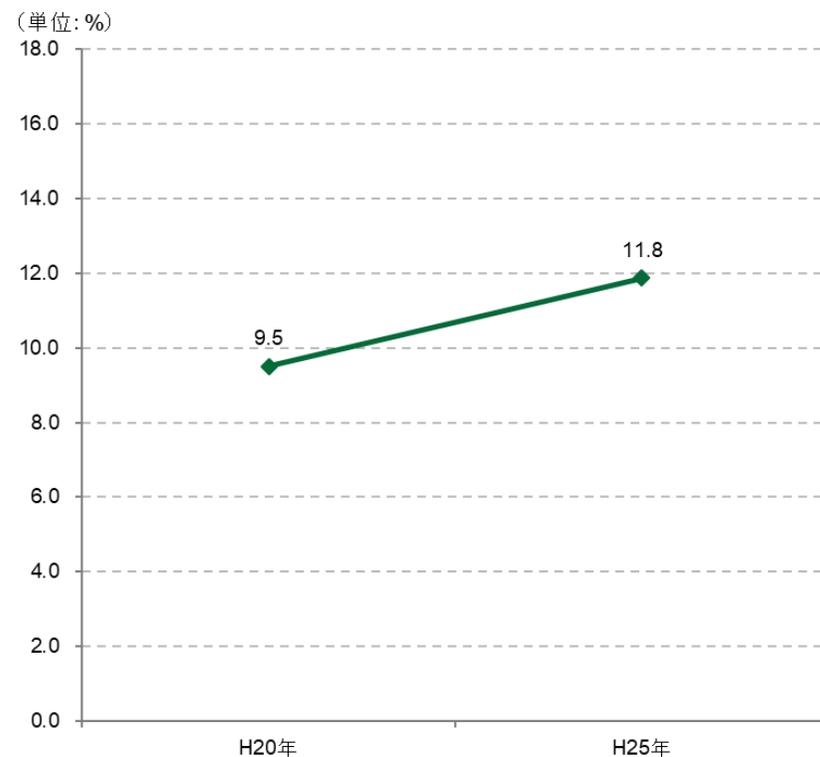
自治体間比較(平成25年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(11.09%)、埼玉県平均(10.40%)をともに上回っている。



経年比較

- 過去2回分を比較すると、増加傾向で推移している。



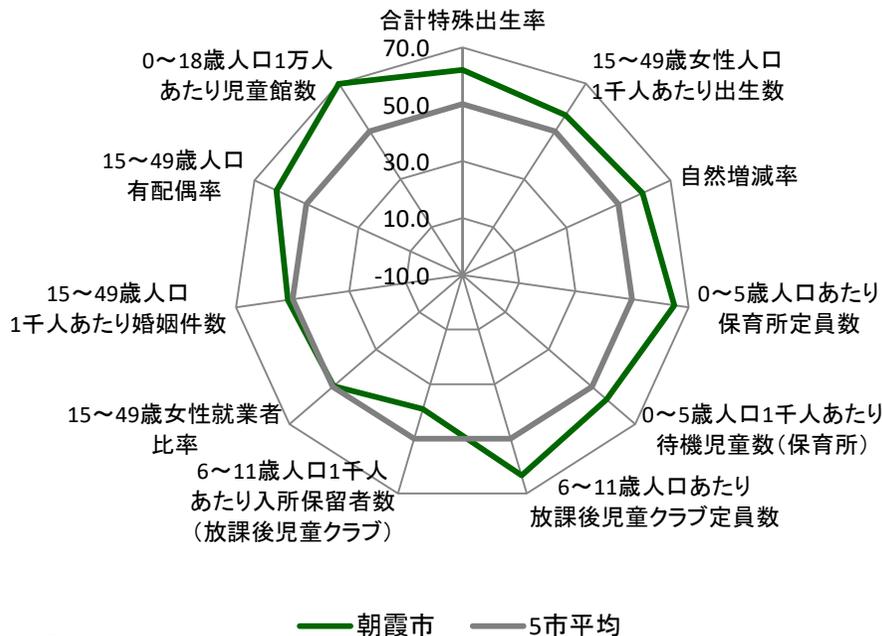
3-2. 出産・子育て

分析結果総論

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	和光市	新座市	富士見市
1	合計特殊出生率	—		1.43	1.34	1	62.1	1.41	1.32	1.26	1.30
2	15～49歳女性人口1千人あたり出生数	人		40.0	37.9	2	56.8	39.8	40.5	33.8	35.6
3	自然増減率	%		0.29	0.11	2	59.3	0.05	0.35	-0.09	-0.05
4	0～5歳人口あたり保育所定員数	人		0.319	0.281	1	64.9	0.291	0.241	0.281	0.276
5	0～5歳人口1千人あたり待機児童数(保育所)	人	※	5.5	7.3	2	56.7	11.0	8.2	8.2	3.3
6	6～11歳人口あたり放課後児童クラブ定員数	人		0.204	0.161	1	63.5	0.169	0.179	0.140	0.112
7	6～11歳人口1千人あたり入所保留者数(放課後児童クラブ)	人	※	17.3	9.4	4	39.0	6.2	18.3	0	5.4
8	15～49歳女性就業者比率	%		45.6	45.6	3	49.6	44.7	46.0	45.2	46.6
9	15～49歳人口1千人あたり婚姻件数	件		9.5	9.3	3	51.7	9.5	11.1	7.7	8.9
10	15～49歳人口有配偶率	%		38.7	37.4	1	61.5	37.2	38.4	36.9	35.9
11	0～18歳人口1万人あたり児童館数	施設		2.06	0.53	1	69.9	0.08	0.28	0.07	0.16

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

レーダーチャート



分析コメント

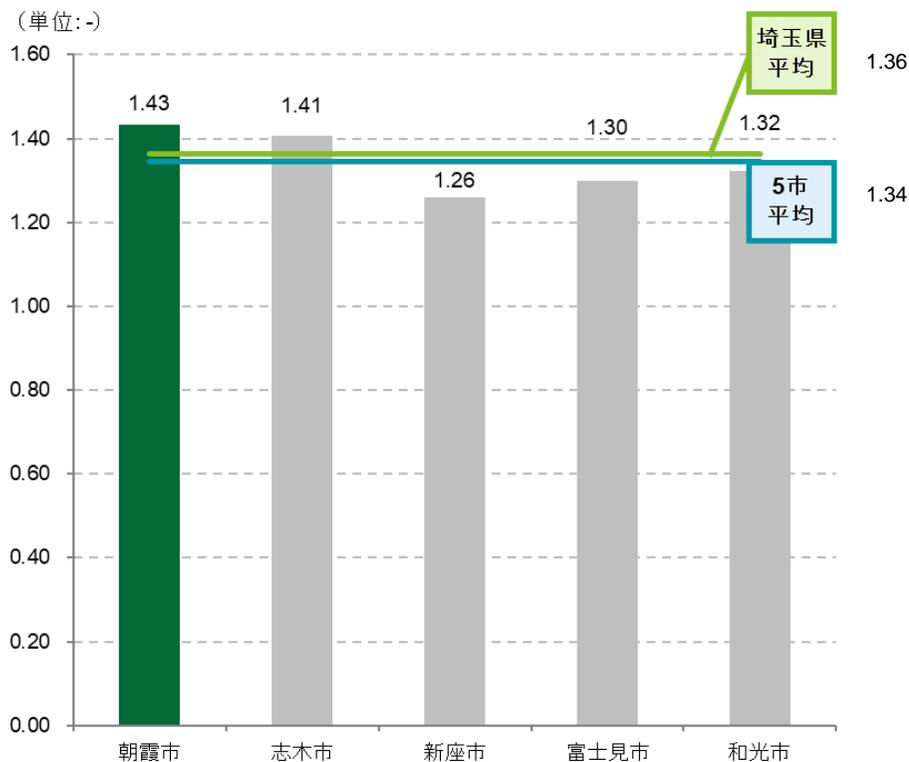
- 「合計特殊出生率」、「15～49歳女性人口1千人あたり出生数」、「自然増減率」、「0～5歳人口あたり保育所定員数」、「0～5歳人口あたり保育所定員数」、「0～5歳人口1千人あたり待機児童数(保育所)」、「6～11歳人口あたり放課後児童クラブ定員数」、「15～49歳人口有配偶率」の偏差値は、比較自治体の平均よりも高く、特に「合計特殊出生率」、「0～5歳人口あたり保育所定員数」、「15～49歳人口有配偶率」、「0～18歳人口1万人あたり児童館数」の数値は比較自治体の中で最も高い水準となっている。
- 「15～49歳女性就業者比率」、「15～49歳人口1千人あたり婚姻件数」の偏差値は比較自治体の平均と同程度である。
- 「0～5歳人口あたり保育所定員数」は比較自治体の中で優れている一方で、「0～5歳人口1千人あたり待機児童数(保育所)」が一定数存在している。
- 全ての待機児童の解消には至っていないため、今後とも待機児童対策を進めていく必要がある。

3-2-1. 合計特殊出生率

朝霞市の合計特殊出生率は、比較自治体及び埼玉県平均を上回っており、朝霞市の合計特殊出生率は、埼玉県において相対的に高いと考えられる。

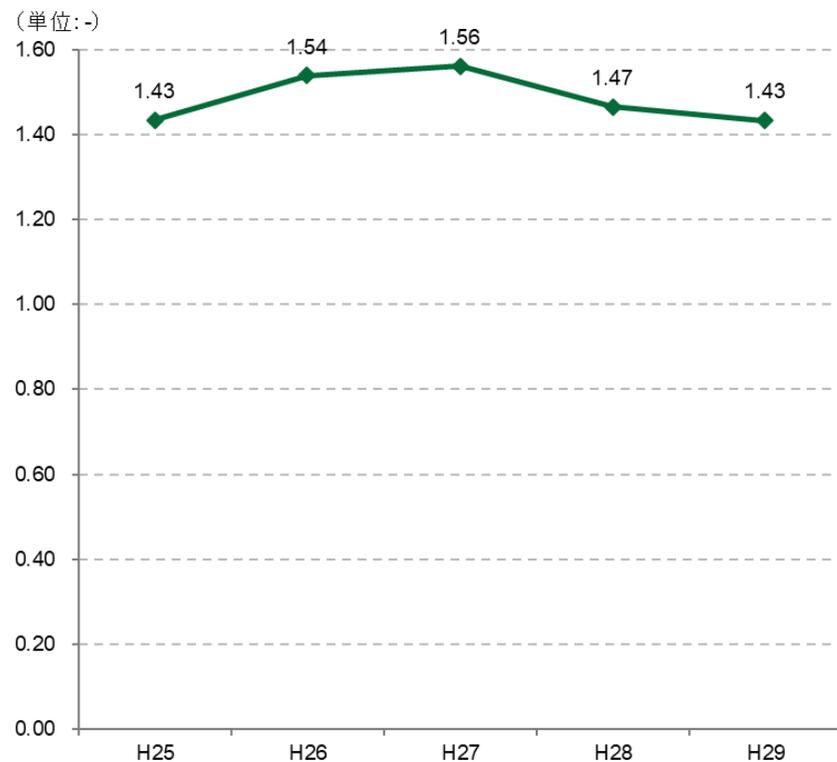
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は最も高い水準にある。
- 5市平均(1.34)、埼玉県平均(1.36)をともに上回っている。



経年比較

- 平成27年まで増加傾向で推移していたが、平成28年に減少傾向に転じている。



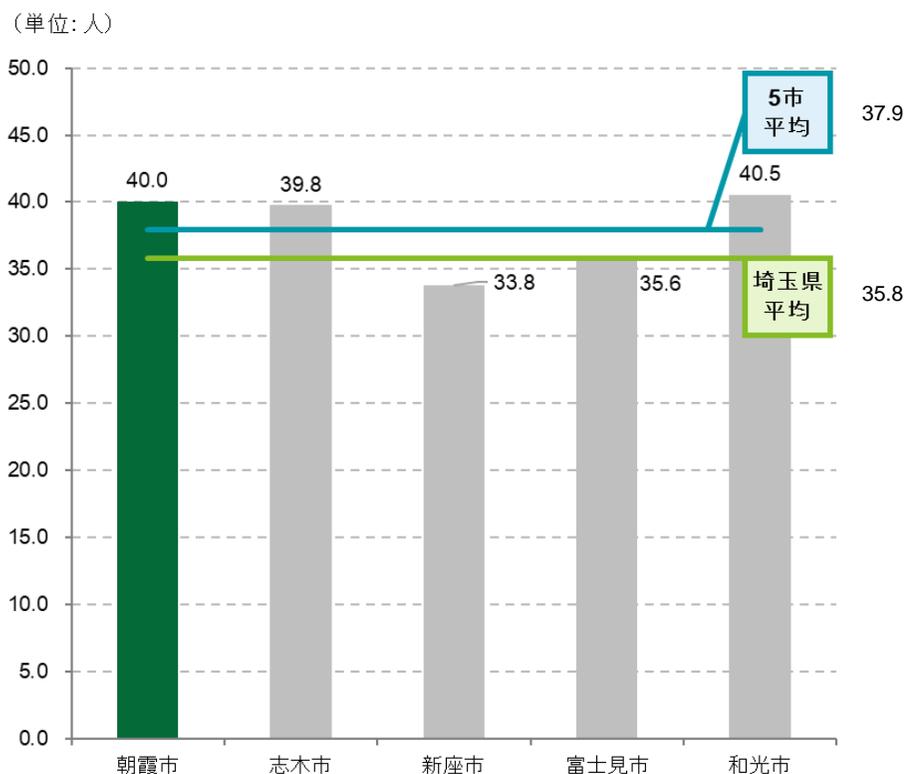
出所:埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」

3-2-2. 15～49歳女性人口1千人あたり出生数

15～49歳女性人口に対する出生数は、比較自治体及び埼玉県平均を上回っているため、朝霞市で毎年出生する子どもの数は、埼玉県において相対的に多いと考えられる。

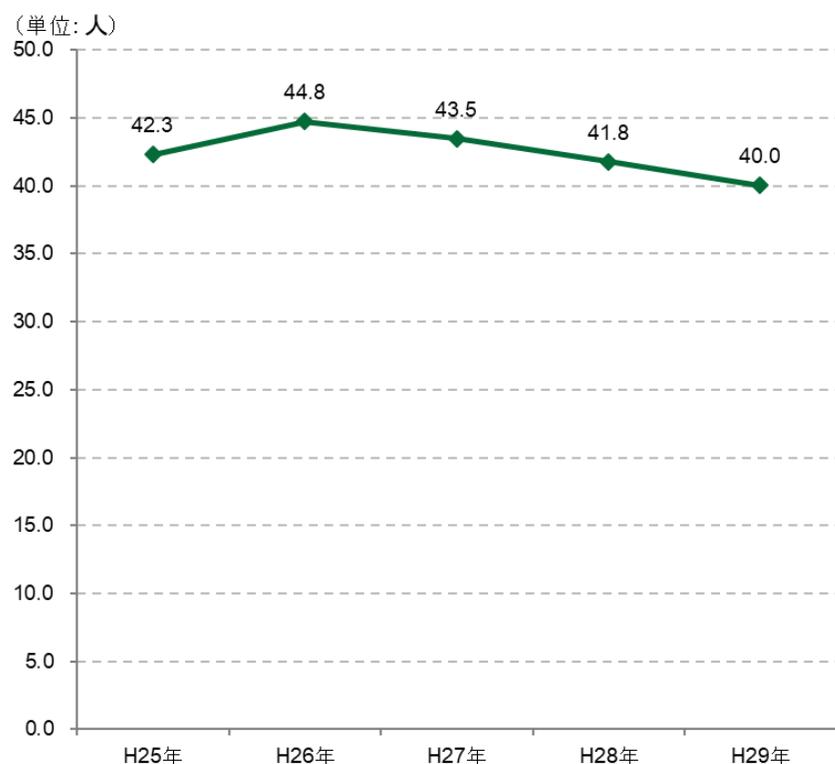
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(37.9人)、埼玉県平均(35.8人)をとともに上回っている。



経年比較

- 平成26年までは増加傾向で推移していたが、平成27年に減少傾向に転じている。



出所: 埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」

3-2-3. 自然増減率

総人口に占める自然増減数(出生数－死亡数)の比率は、比較自治体及び埼玉県平均の中で高い水準にあり、また平成30年に増加傾向に転じている。

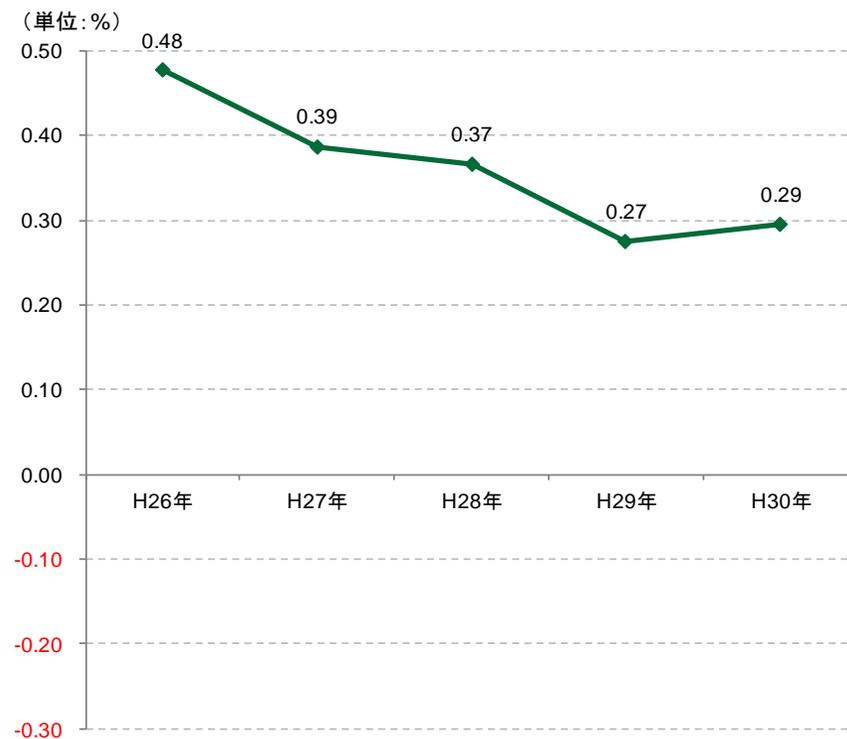
自治体間比較(平成30年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(0.11%)、埼玉県平均(-0.21%)をとともに上回っている。



経年比較

- 平成29年までは減少傾向で推移していたが、平成30年に増加傾向に転じている。

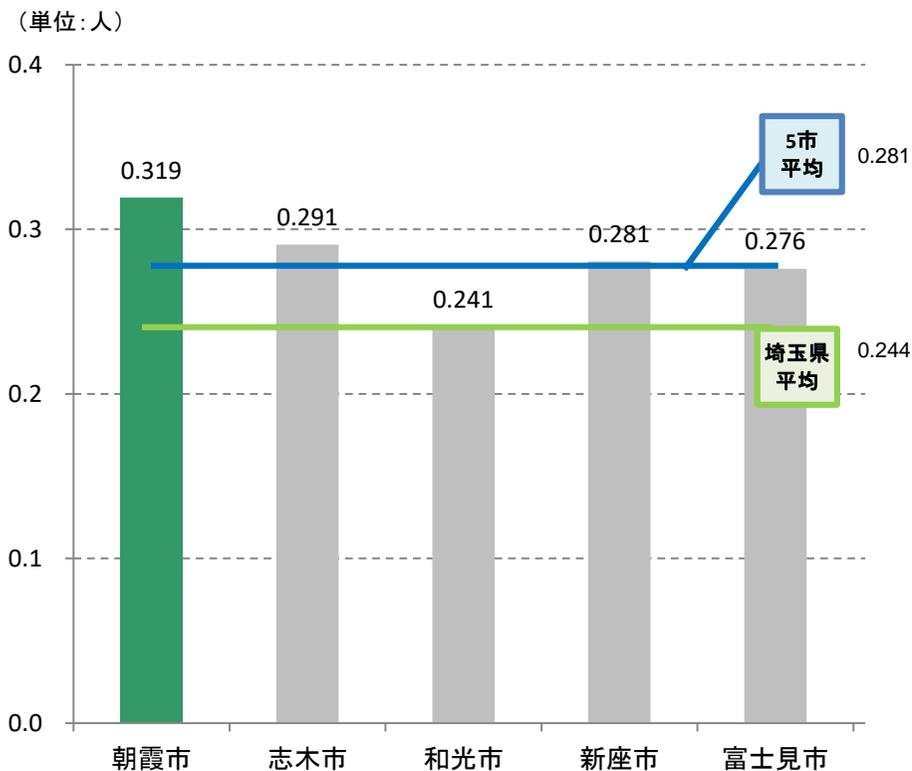


3-2-4. 0～5歳人口あたり保育所定員数

0～5歳人口に対する保育所定員の数は、比較自治体及び埼玉県平均を上回る水準であるため、朝霞市の保育の場は、埼玉県において相対的に整備されていると考えられる。

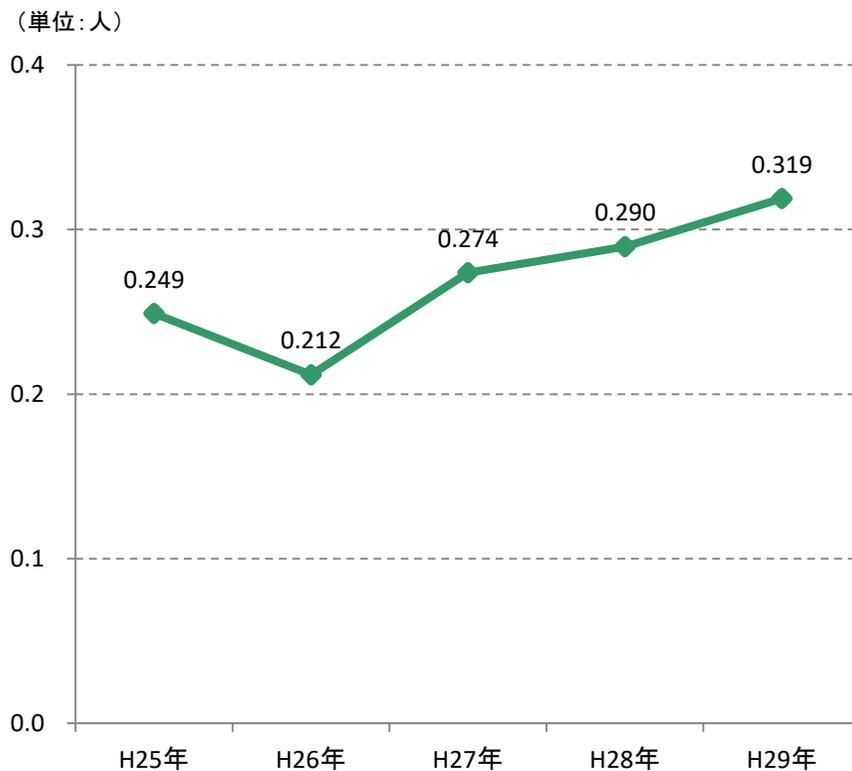
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は最も高い水準にある。
- 5市平均(0.281人)、埼玉県平均(0.244人)をともに上回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、H26年を除き増加傾向で推移している。



出所:厚生労働省「社会福祉施設等調査」

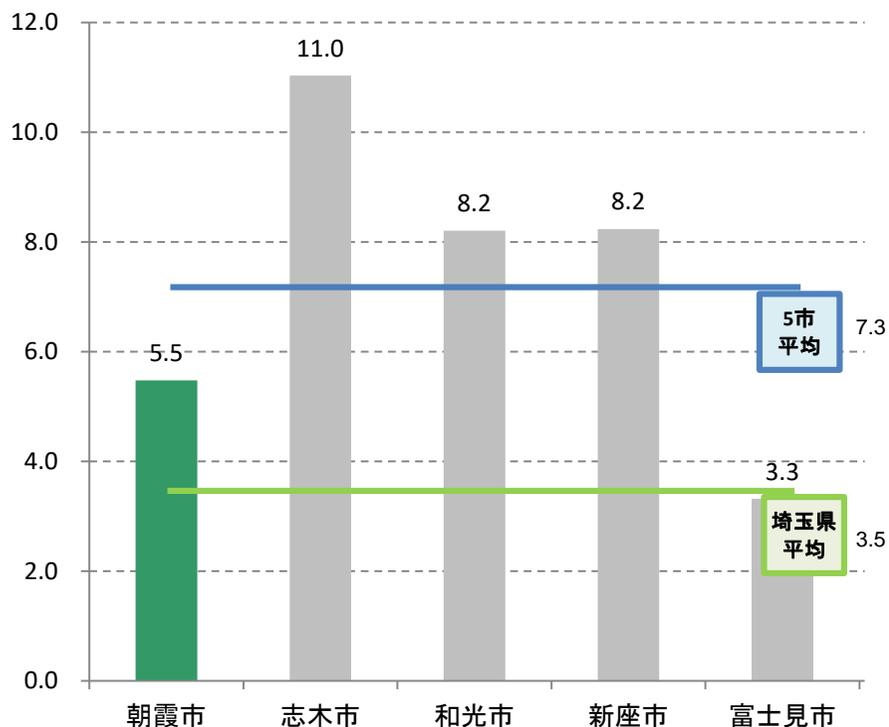
3-2-5. 0～5歳人口1千人あたり待機児童数(保育所)

朝霞市の保育所等の待機児童数は、埼玉県平均を上回る水準であるものの待機児童対策により減少傾向にあることから、引き続き積極的な待機児童対策が必要であると考えられる。

自治体間比較(令和元年)

- 朝霞市は富士見市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(7.3人)を下回るが、埼玉県平均(3.5人)を上回っている。

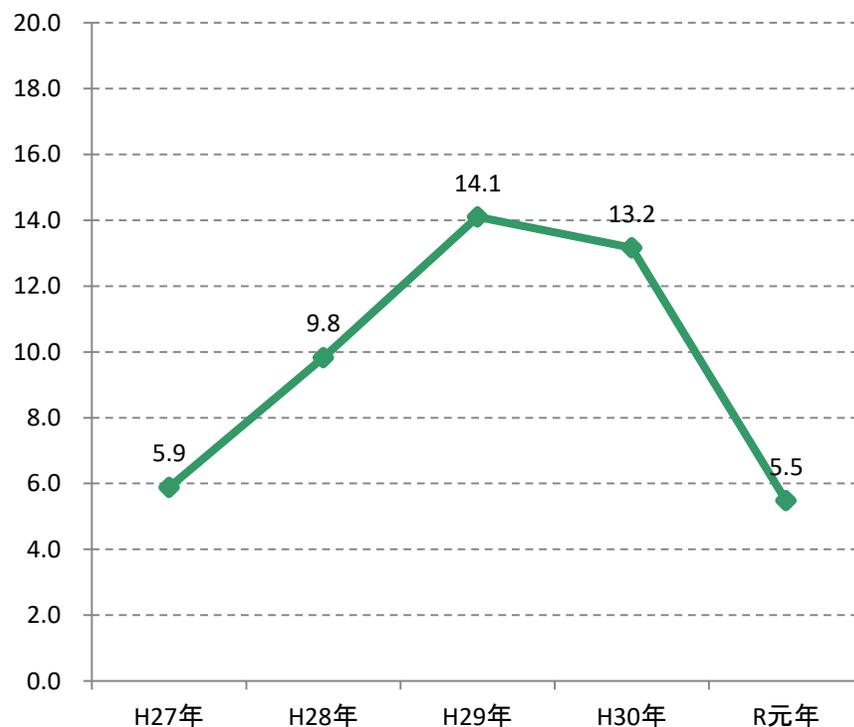
(単位:人)



経年比較

- 増加傾向にあったものの、H30年から減少に転じている。

(単位:人)



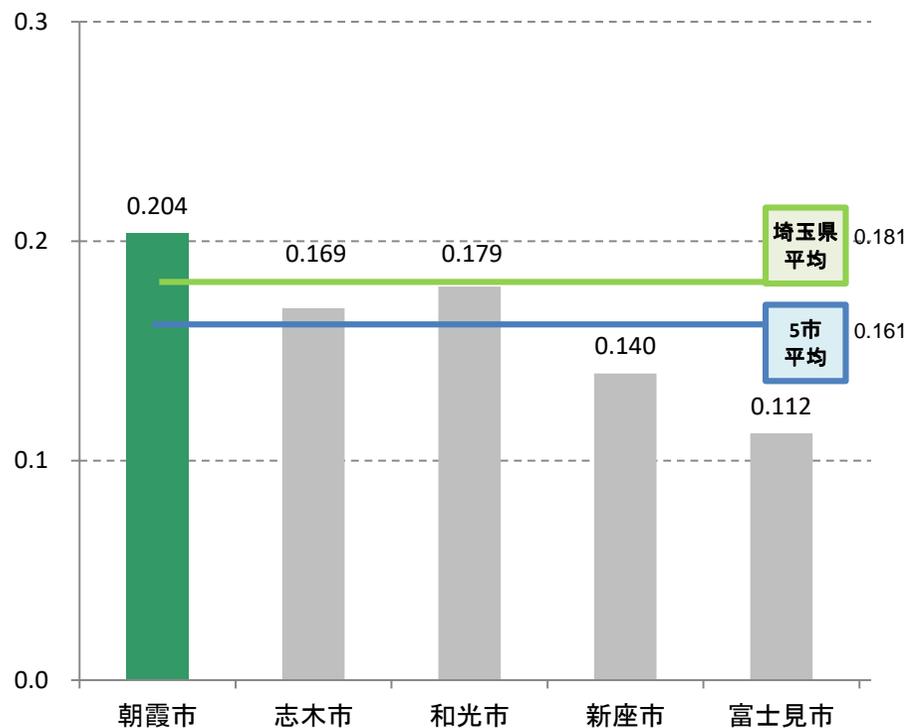
3-2-6. 6～11歳人口あたり放課後児童クラブ定員数

6～11歳人口に対する放課後児童クラブの定員の数は、比較自治体及び埼玉県平均を上回る水準であるため、朝霞市の保育の場は、埼玉県において相対的に整備されていると考えられる。

自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は最も高い水準にある。
- 5市平均(0.161人)、埼玉県平均(0.181人)をともに上回っている。

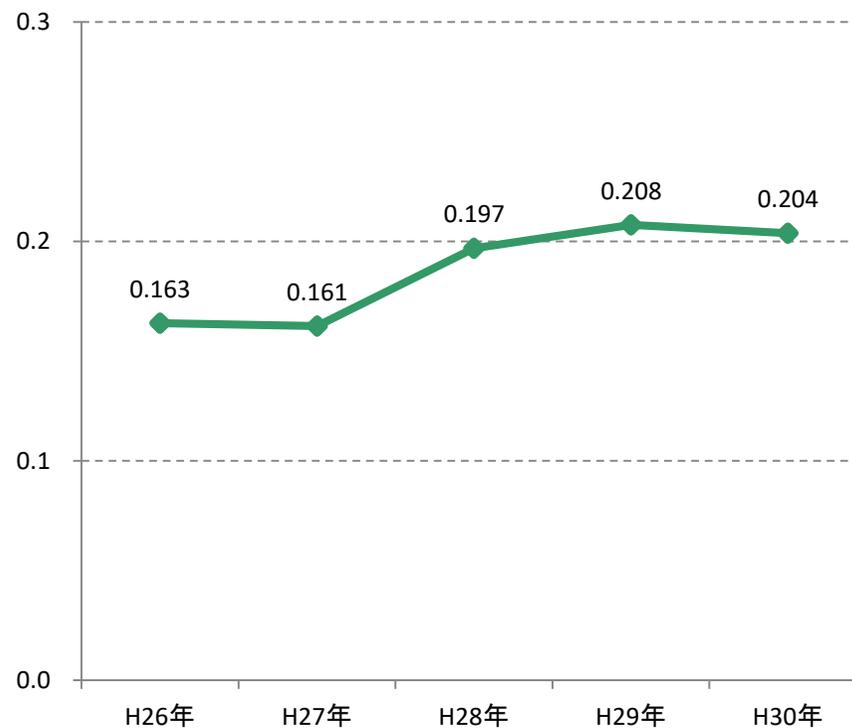
(単位:人)



経年比較

- 過去5回分を比較すると、増加から横ばいの傾向で推移している。

(単位:人)



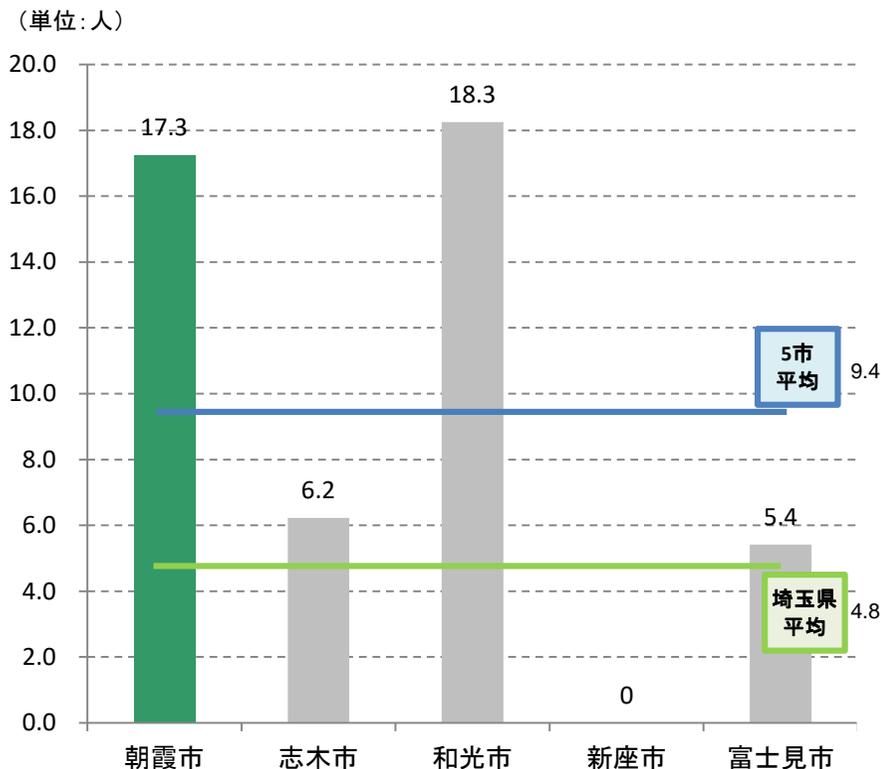
出所:埼玉県「放課後児童クラブの設備及び運営の状況調査」

3-2-7. 6～11歳人口1千人あたり入所保留者数(放課後児童クラブ)

朝霞市の放課後児童クラブの入所保留者数は、比較自治体及び埼玉県平均を上回る水準であり、経年では減少傾向にあったもののH30年に増加に転じていることから、引き続き積極的な放課後児童クラブの整備が必要であると考えられる。

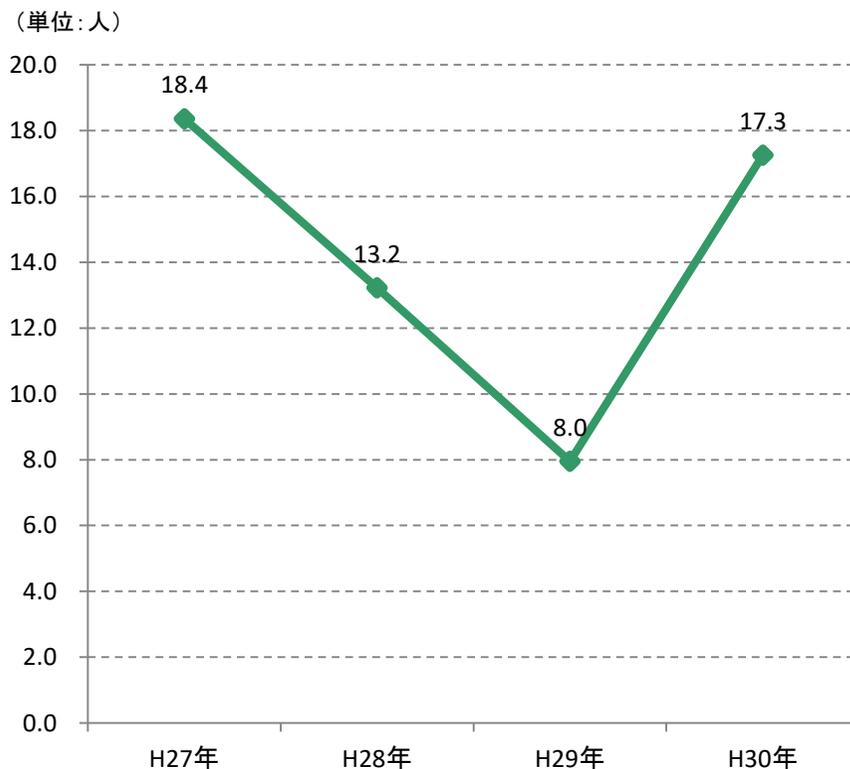
自治体間比較(平成30年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(9.4人)、埼玉県平均(4.8人)をとともに上回っている。



経年比較

- 減少傾向にあったもののH30年に増加に転じている。

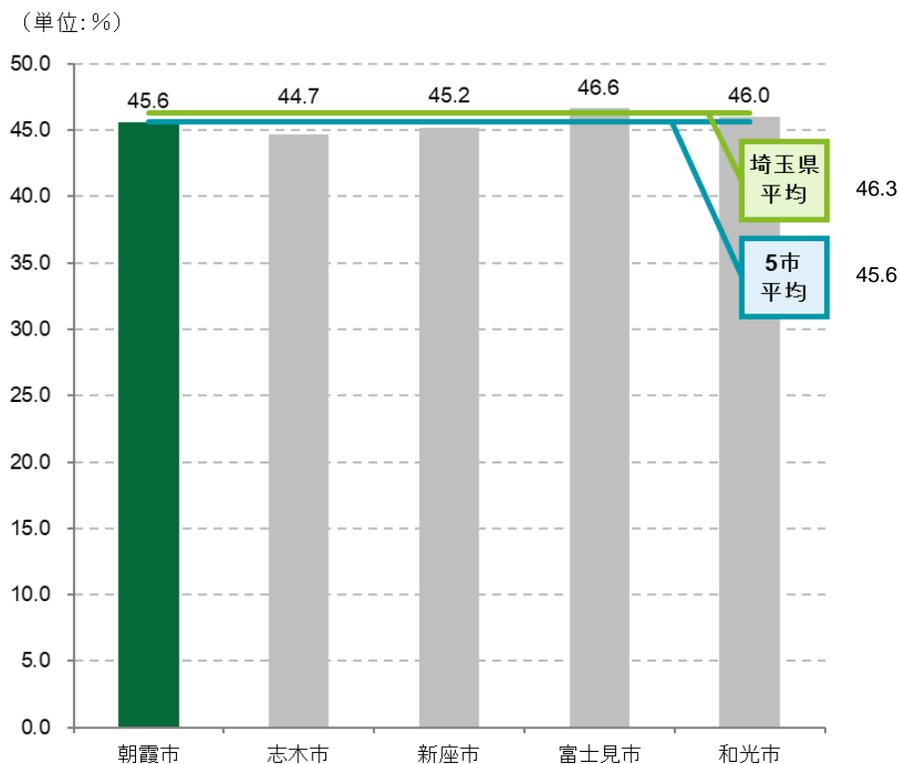


3-2-8. 15～49歳女性就業者比率

15～49歳女性人口に占める女性就業者の数は、比較自治体及び埼玉県平均と同じ水準のため、朝霞市の女性の社会進出は、埼玉県において標準的な進展だと考えられる。

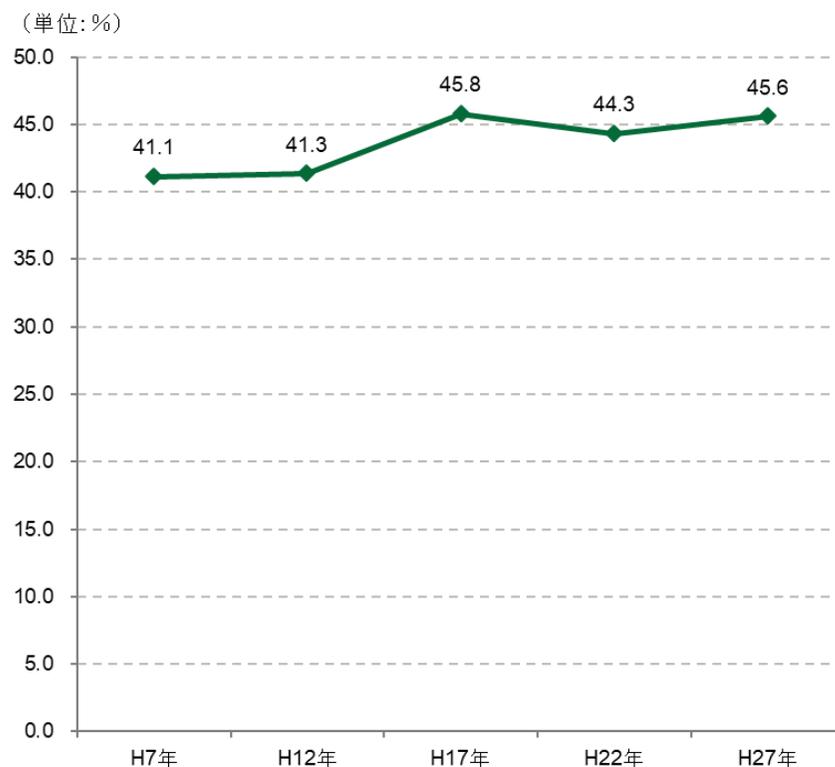
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は富士見市、和光市に次いで3番目に高い水準にある。
- 5市平均(45.6%)と同じだが、埼玉県平均(46.3%)を下回っている。



経年比較

- 平成22年に減少したものの、平成27年には増加している。

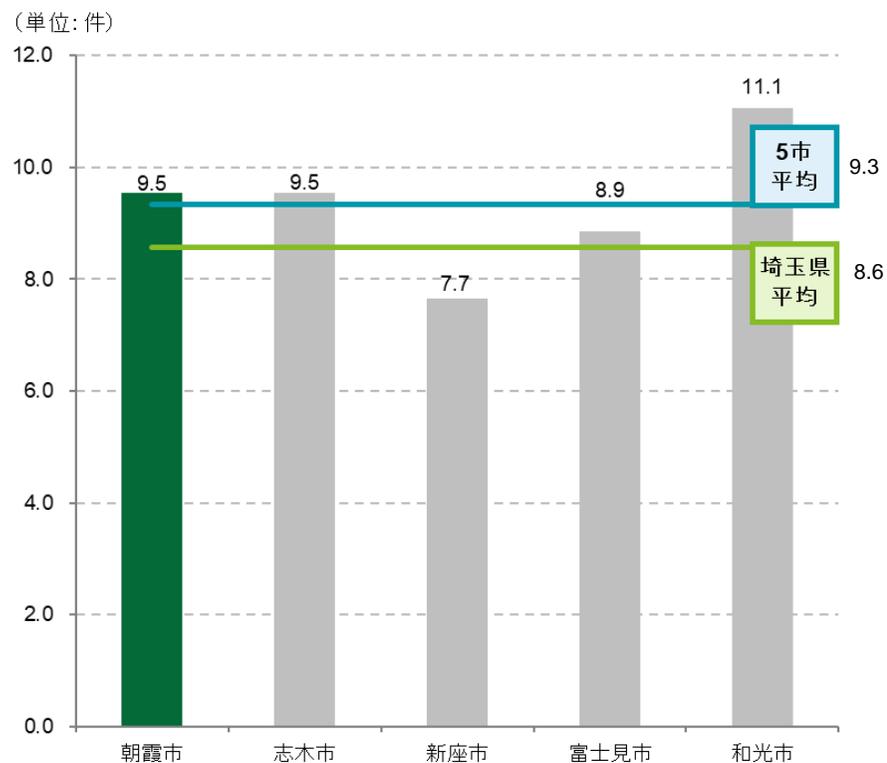


3-2-9. 15～49歳人口1千人あたり婚姻件数

15～49歳人口に対する婚姻件数は、比較自治体及び埼玉県平均を上回っているが、減少傾向で推移している。経年の推移から朝霞市の婚姻件数は今後さらに減少する可能性があると考えられる。

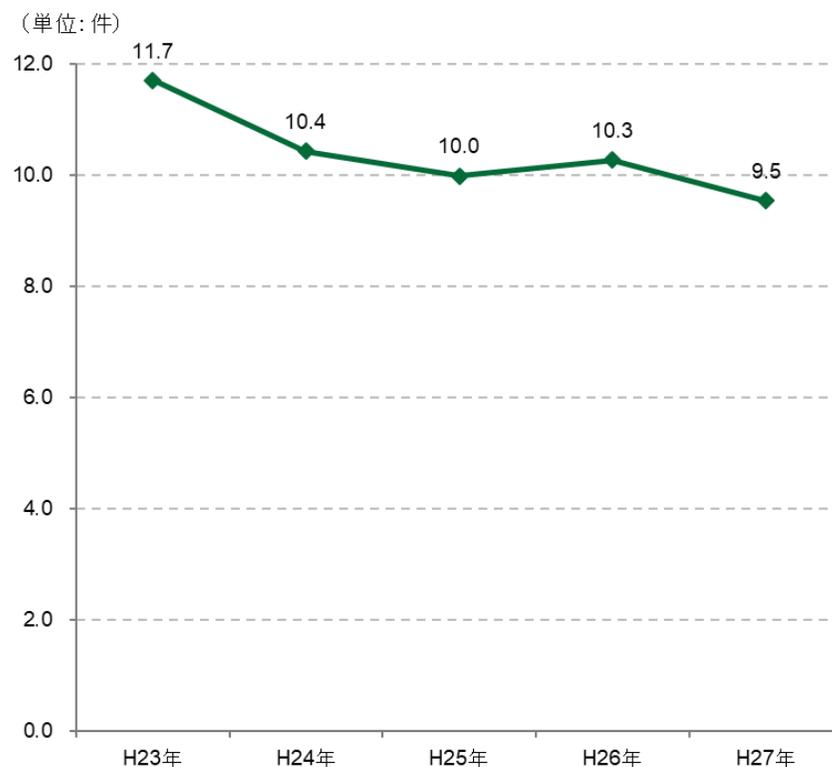
自治体間比較(平成28年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(9.3件)、埼玉県平均(8.6件)をとともに上回っている。



経年比較

- 平成26年に増加したものの、平成27年には減少している。



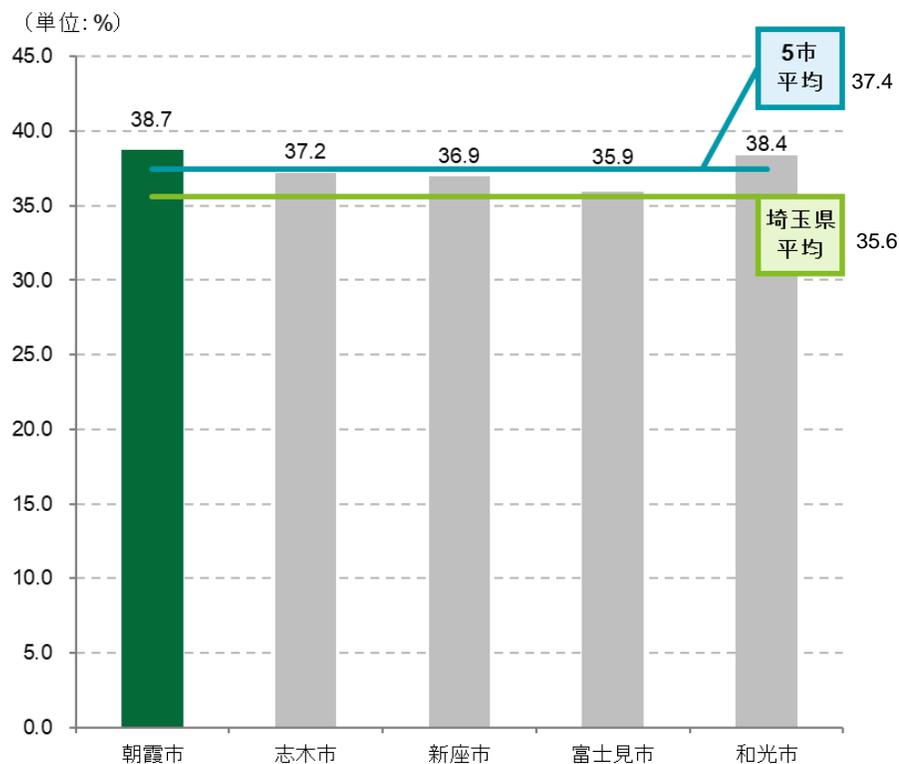
出所:厚生労働省「人口動態調査」

3-2-10. 15～49歳人口有配偶率

15～49歳人口に占める有配偶者数は、比較自治体及び埼玉県平均を上回っているが、横ばいで推移している。

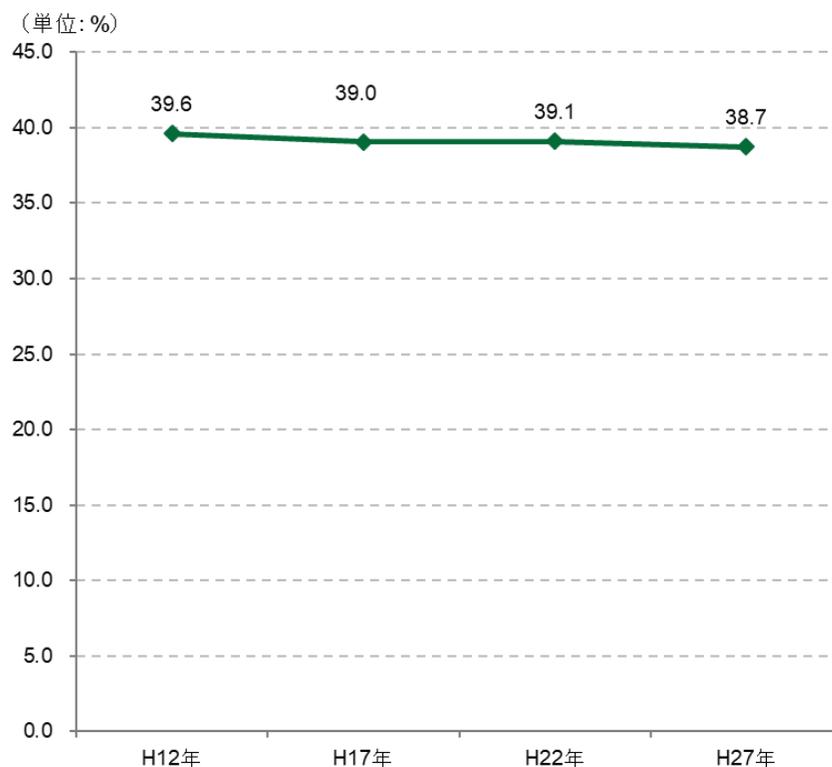
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は最も高い水準にある。
- 5市平均(37.4%)、埼玉県平均(35.6%)をともに上回っている。



経年比較

- 過去4回分を比較すると、横ばいで推移している。



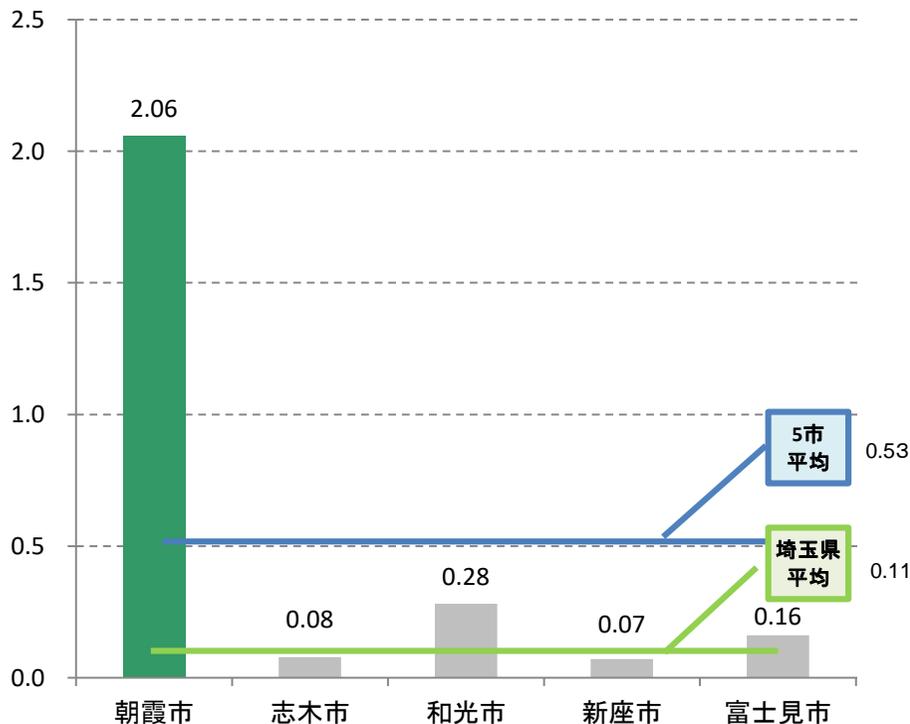
3-2-11. 0～18歳人口1万人あたり児童館数

児童館設置状況は、比較自治体及び埼玉県平均をいずれも上回っているが、横ばいで推移している。

自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は最も高い水準にある。
- 5市平均(0.53施設)、埼玉県平均(0.11施設)をとともに上回っている。

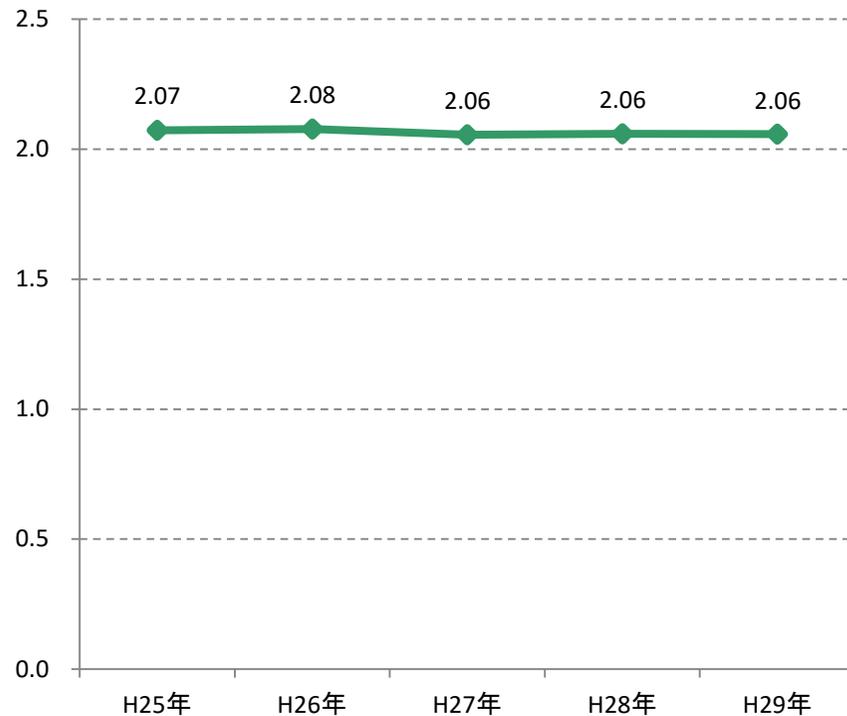
(単位:施設)



経年比較

- 過去4回分を比較すると、横ばいで推移している。

(単位:施設)



出所:埼玉県「児童館・児童センター設置運営状況」

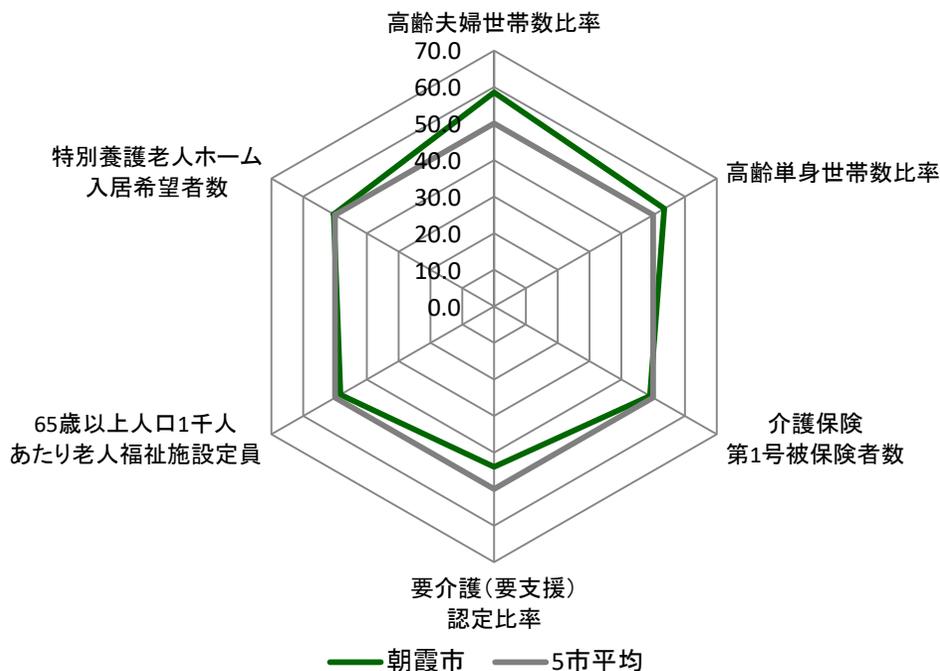
3-3. 高齢者

分析結果総論

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	和光市	新座市	富士見市
1	高齢夫婦世帯数比率	%	※	8.0	9.9	2	58.5	11.7	7.2	11.9	10.6
2	高齢単身世帯数比率	%	※	8.3	8.7	2	53.5	9.0	6.7	9.7	9.9
3	介護保険第1号被保険者数	人	※	26,173	25,148	3	49.0	17,778	14,380	40,858	26,549
4	要介護(要支援)認定比率	%	※	15.9	14.3	4	43.9	14.2	9.9	16.0	15.6
5	65歳以上人口1千人あたり老人福祉施設定員	人		12.3	13.3	4	48.3	21.5	4.3	13.1	15.4
6	特別養護老人ホーム入居希望者数	人	※	125	127.8	3	50.4	35	72	187	220

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

レーダーチャート



分析コメント

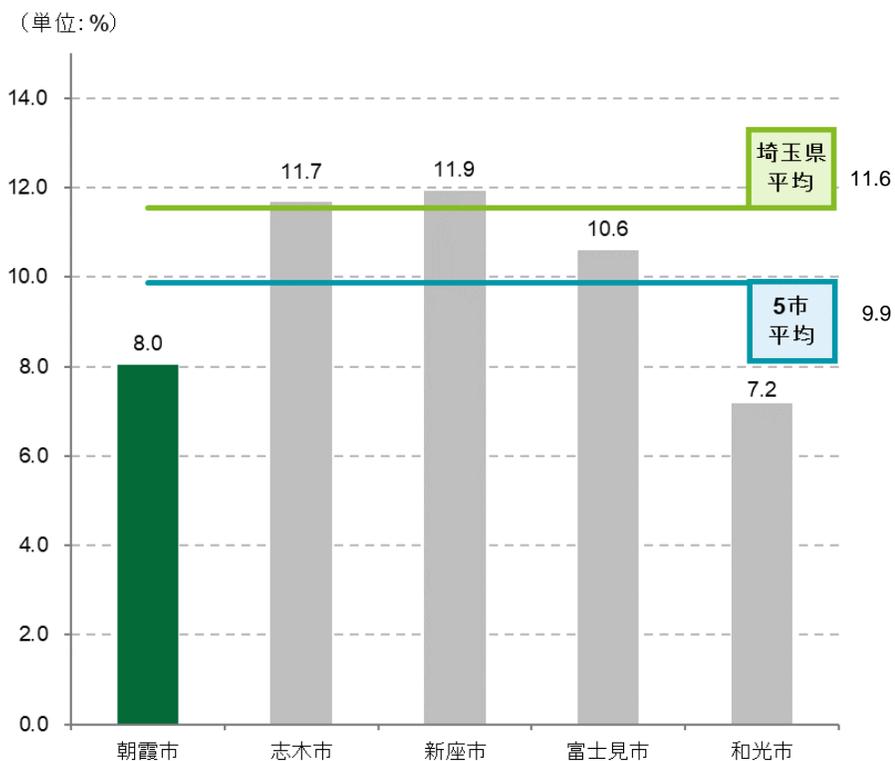
- 「高齢夫婦世帯数比率」、「高齢単身世帯数比率」の偏差値は比較自治体の平均よりも高い。
- 「介護保険第1号被保険者数」、「65歳以上人口1千人あたり老人福祉施設定員」、「特別養護老人ホーム入居希望者数」の偏差値は比較自治体の平均と同程度である。
- 「要介護(要支援)認定比率」の偏差値は比較自治体の平均より低い。
- 「介護保険第1号被保険者数」の数値が平均よりやや高く、「要介護(要支援)認定比率」の数値が、比較自治体と比べ高いことから、高齢者の健康づくりが課題になると考えられる。

3-3-1. 高齢夫婦世帯数比率

全世帯に占める高齢夫婦(夫と妻が65歳以上)世帯の比率は、比較自治体及び埼玉県平均を下回る水準にあるが、増加傾向で推移しており、朝霞市の高齢夫婦世帯の割合は、今後も増加すると考えられる。

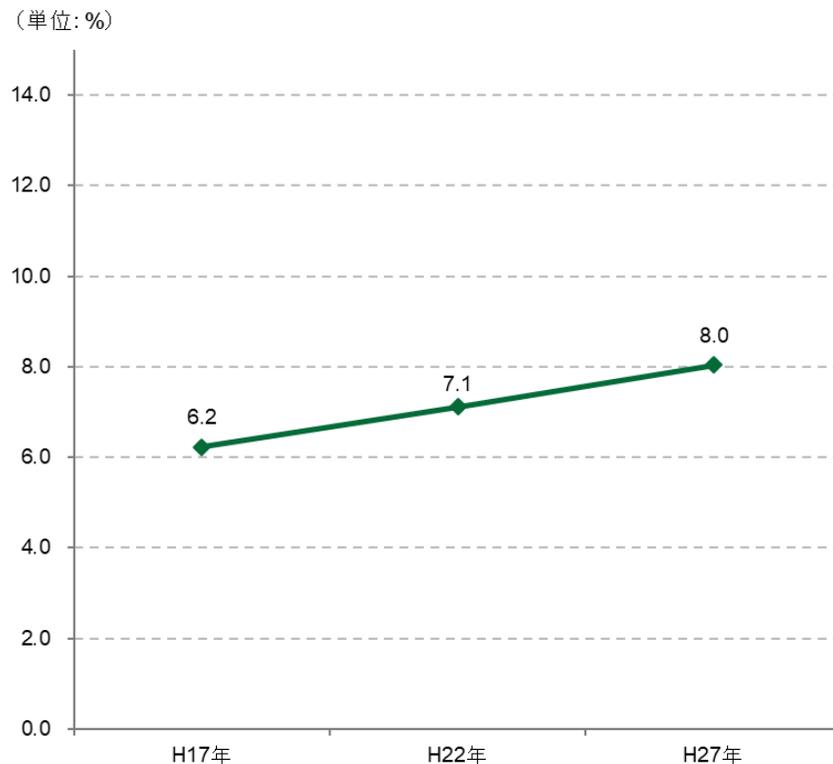
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(9.9%)、埼玉県平均(11.6%)をとともに下回っている。



経年比較

- 過去3回分を比較すると、増加傾向で推移している。

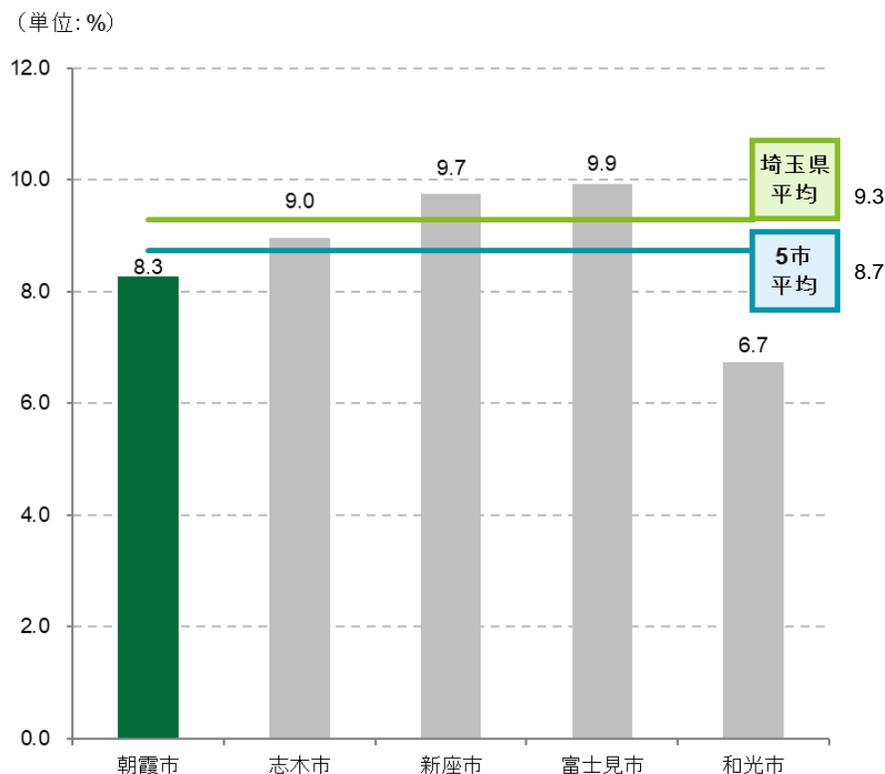


3-3-2. 高齢単身世帯数比率

全世帯に占める高齢単身世帯の比率は、比較自治体及び埼玉県平均を下回る水準にあるが、増加傾向で推移しているため、朝霞市の単身高齢者は、前頁の高齢夫婦世帯の割合と同様に増加すると考えられる。

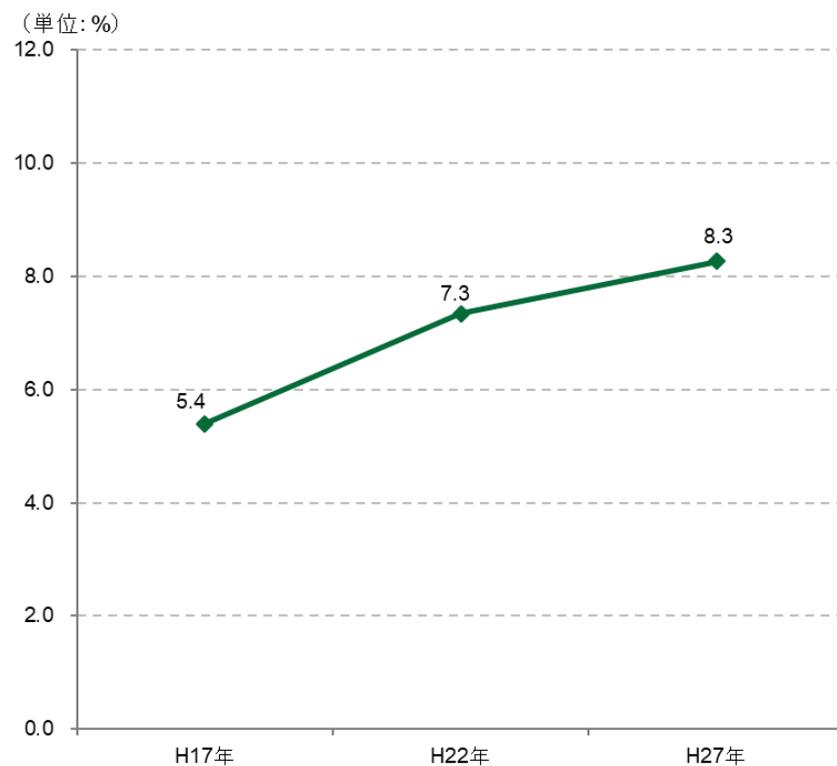
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(8.7%)、埼玉県平均(9.3%)をともに下回っている。



経年比較

- 過去3回分を比較すると、増加傾向で推移している。

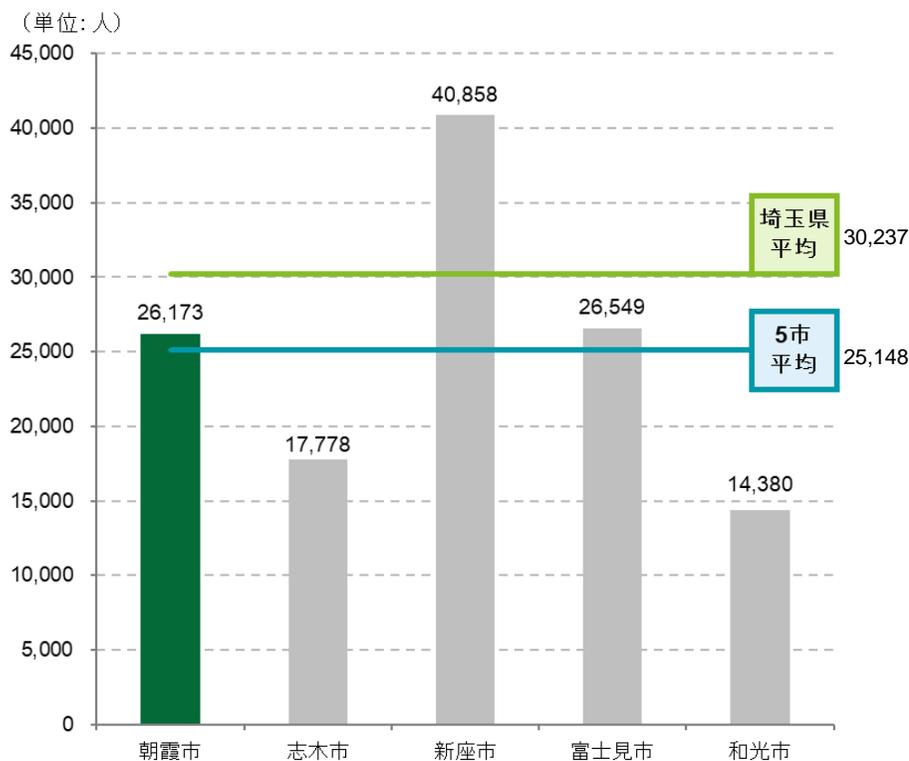


3-3-3. 介護保険第1号被保険者数

介護保険第1号被保険者数は、埼玉県平均を下回る水準にあるものの、増加傾向にあり、朝霞市の要介護(要支援)認定者は今後も増加すると考えられる。

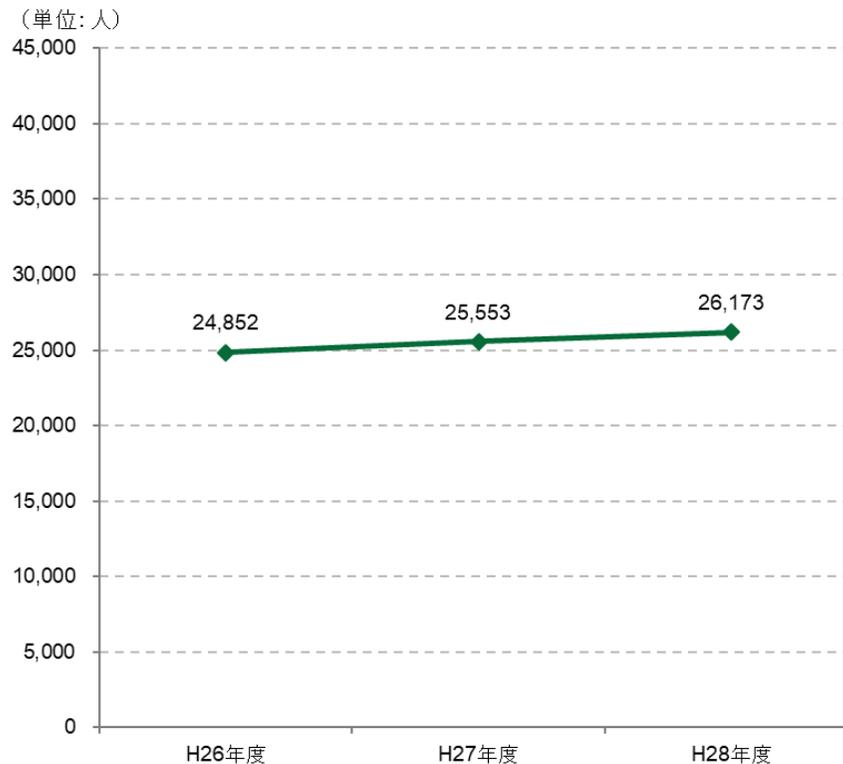
自治体間比較(平成28年)

- 朝霞市は新座市、富士見市に次いで3番目に高い水準にある。
- 5市平均(25,148人)は上回っているが、埼玉県平均(30,237人)は下回っている。



経年比較

- 過去3回分を比較すると、増加傾向で推移している。

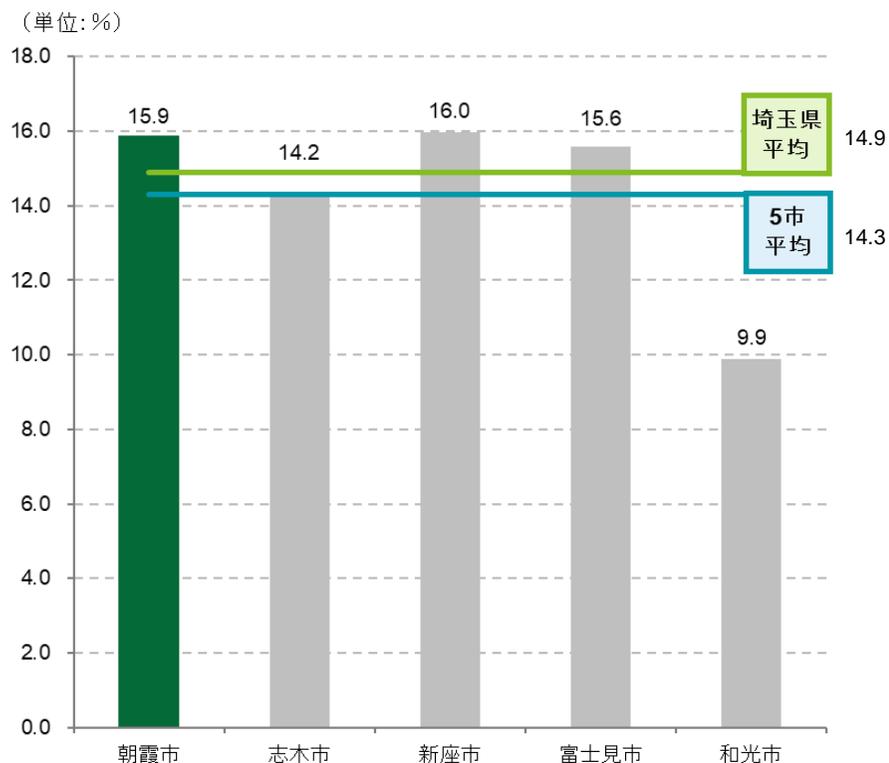


3-3-4. 要介護(要支援)認定比率

65歳以上人口に占める要介護(要支援)認定者の比率は、比較自治体及び埼玉県平均を上回る水準にあり、前頁の介護保険第1号被保険者数が増加傾向にあるため、朝霞市の要介護(要支援)認定者の割合は、今後増加することが懸念される。

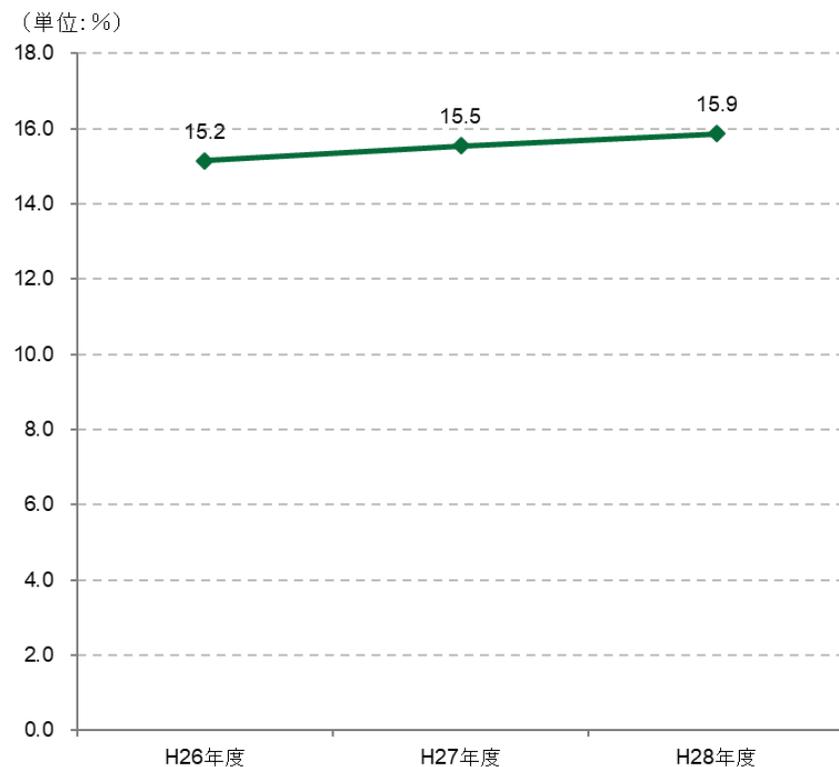
自治体間比較(平成28年)

- 朝霞市は新座市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(14.3%)、埼玉県平均(14.9%)をとともに上回っている。



経年比較

- 過去3回分を比較すると、増加傾向で推移している。

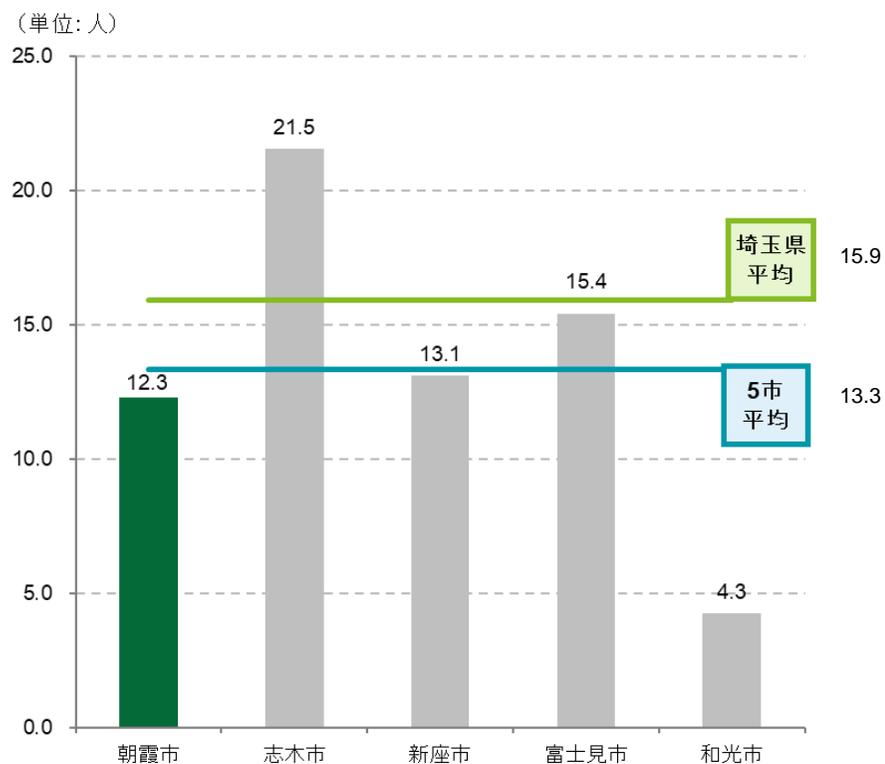


3-3-5. 65歳以上人口1千人あたり老人福祉施設定員

65歳以上人口1千人あたり老人福祉施設定員は、比較自治体及び埼玉県平均を下回る水準にあるが、高齢者は増加傾向にあるため、朝霞市の65歳以上人口1千人あたり老人福祉施設定員割合は今後も減少していくと考えられる。

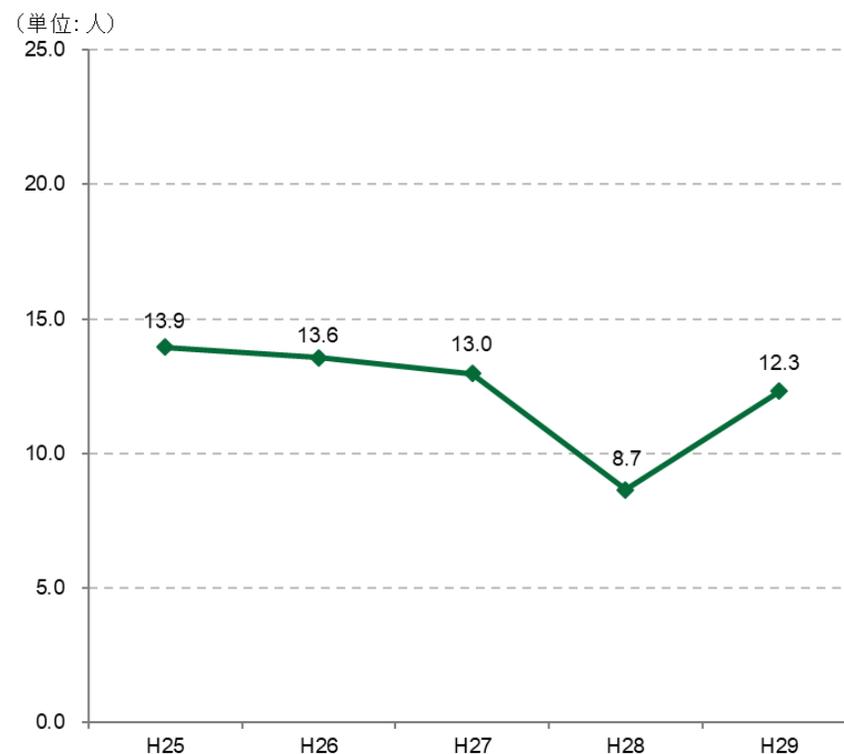
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(13.3人)、埼玉県平均(15.9人)をともに下回っている。



経年比較

- H29年に増加したものの減少傾向で推移している。



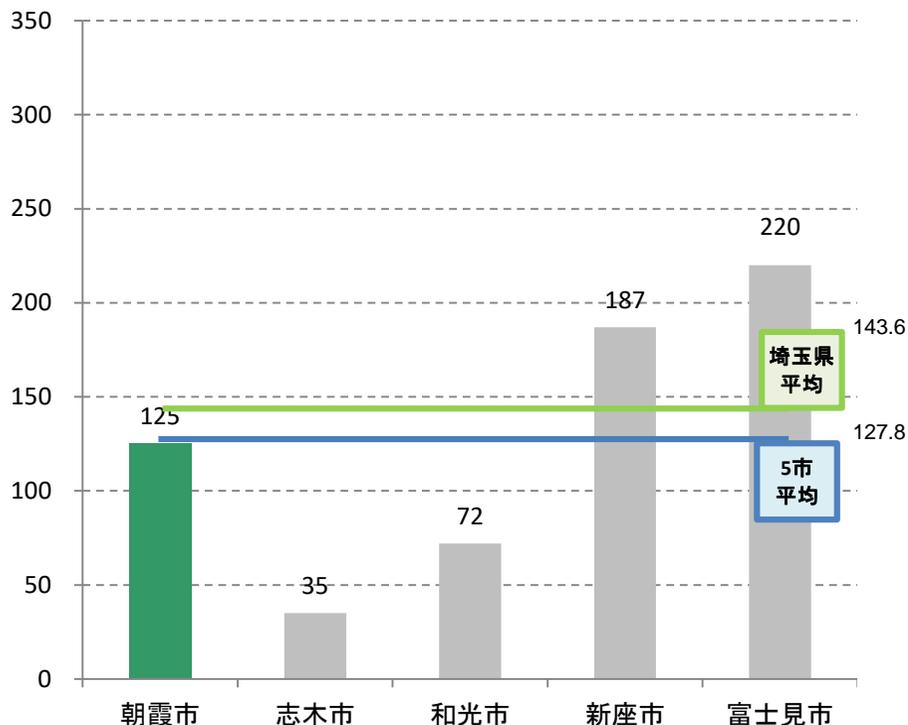
3-3-6. 特別養護老人ホーム入居希望者数

朝霞市の特別養護老人ホームの入所希望者は、減少傾向で推移し、平成28年度に100人を切ったが、平成29年度は増加している。また、平成25年度を100とした場合の増減割合では、県全体では、57.95%、朝霞市は45.45%となり、志木市92.3%、新座市68.75%、富士見市 82.4%、和光市62.5%と比較して、減少割合が大きくなっている。

自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は志木市、和光市に次いで3番目に低い水準にある。
- 5市平均(127.8人)とほぼ同じだが、埼玉県平均(143.6人)を下回っている。

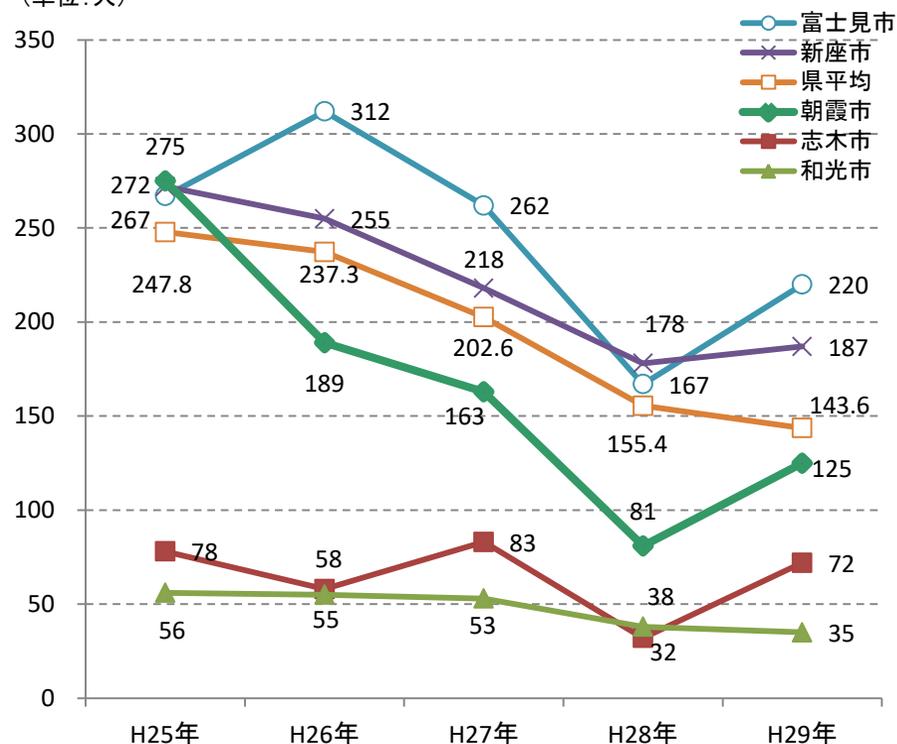
(単位:人)



経年比較

- 過去5年間で比較すると、平成29年度に増加したが、減少傾向で推移している。

(単位:人)



出所:「埼玉県特別養護老人ホーム入所希望者調査」

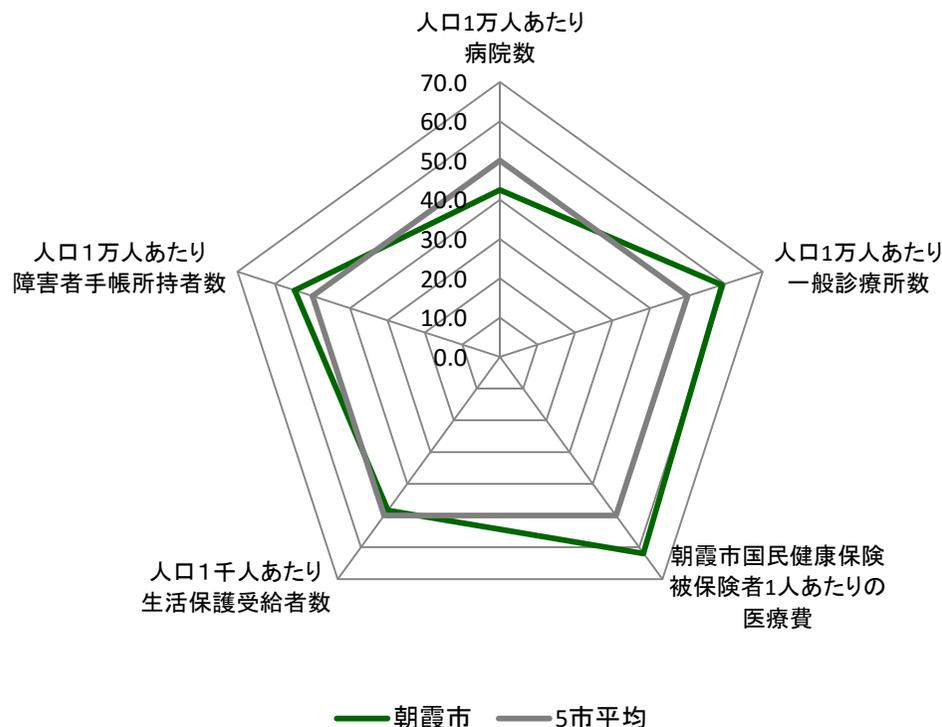
3-4. 健康・福祉

分析結果総論

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	和光市	新座市	富士見市
1	人口1万人あたり病院数	施設		0.29	0.40	4	42.5	0.26	0.61	0.36	0.45
2	人口1万人あたり一般診療所数	施設		5.27	4.67	2	59.2	4.6	4.0	4.1	5.4
3	朝霞市国民健康保険被保険者1人あたりの医療費	円	※	307,577	318,920	1	61.9	314,929	315,374	324,667	332,052
4	人口1千人あたり生活保護受給者数	人	※	13.6	13.0	3	48.3	10.2	8.7	17.4	15.3
5	人口1万人あたり障害者手帳所持者数	人	※	338.7	354.5	2	54.7	373.2	296.1	385.3	379.2

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

レーダーチャート



分析コメント

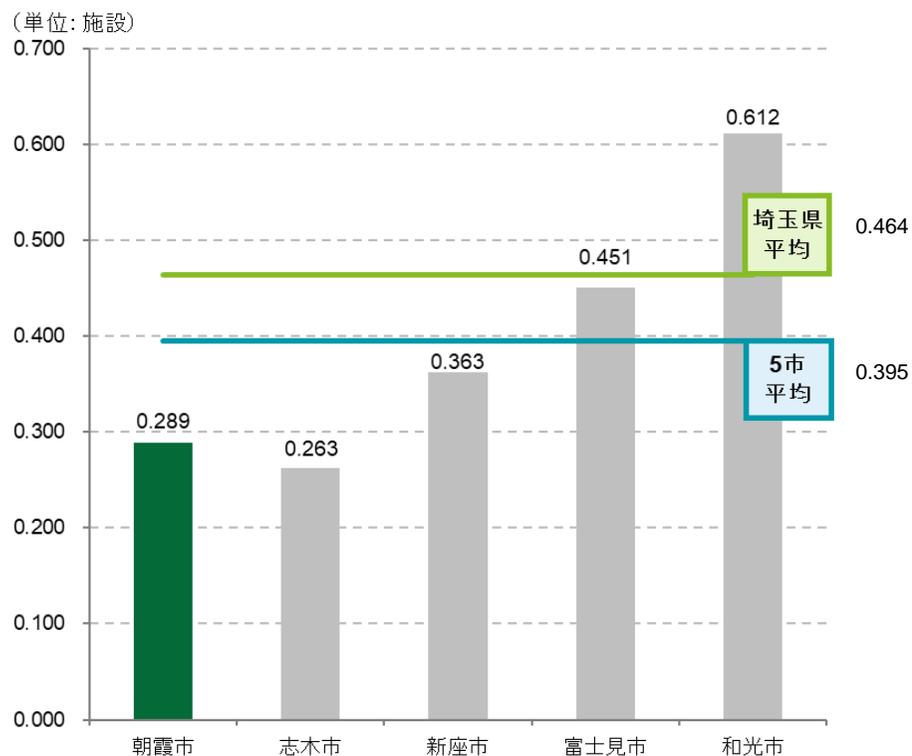
- 「人口1万人あたり一般診療所数」、「朝霞市国民健康保険被保険者1人あたりの医療費」、特に「朝霞市国民健康保険被保険者1人あたりの医療費」、「人口1万人あたり障害者手帳所持者数」の偏差値は比較自治体平均よりも高い。
- 「人口1千人あたり生活保護受給者数」は比較自治体の平均と同程度である。
- 「人口1万人あたり病院数」の数値が、比較自治体の中で低い水準にあることから、今後も、埼玉県や朝霞地区医師会と調整や連携を進めていくことが課題である。
- 「人口1万人あたり障害者手帳所持者数」の数値が増加しており、障害者の増加に伴い、サービスの提供の多様化や充実が求められる。

3-4-1. 人口1万人あたり病院数

総人口に対する病院の数は、比較自治体及び埼玉県平均を大きく下回る水準であるため、朝霞市の入院を要する医療の場は、埼玉県において相対的に少ないと考えられる。

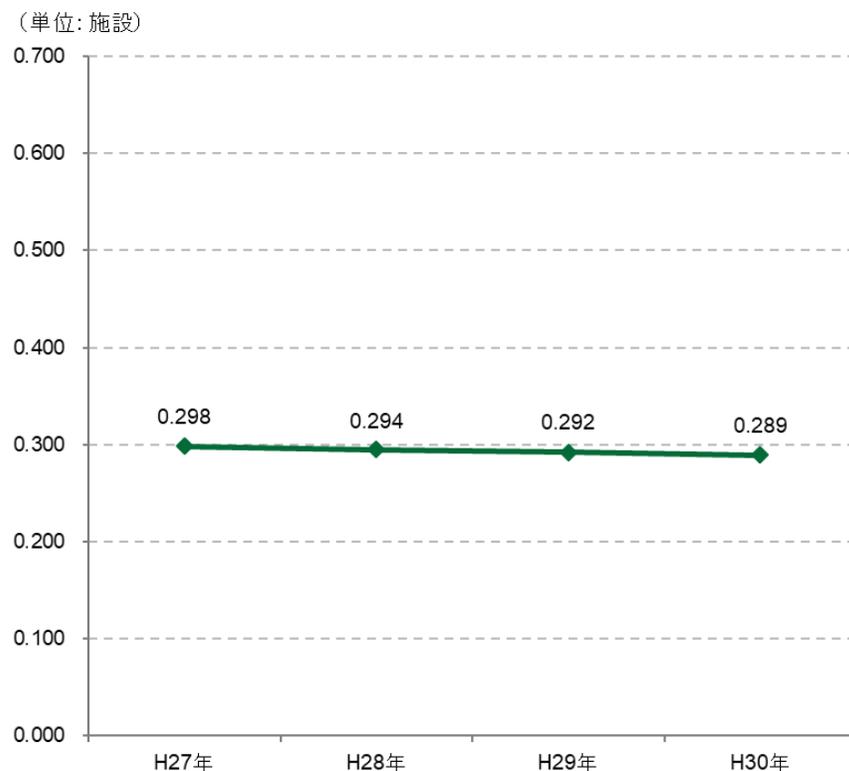
自治体間比較(平成30年)

- 朝霞市は志木市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(0.395施設)、埼玉県平均(0.464施設)をともに下回っている。



経年比較

- 過去4回分を比較すると、減少傾向で推移している。

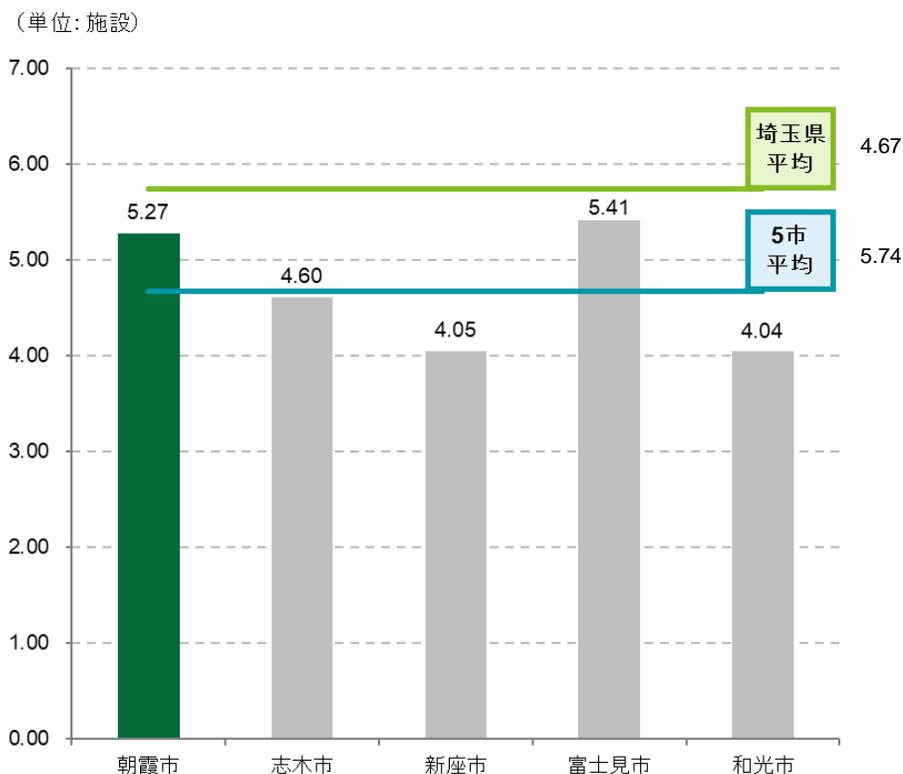


3-4-2. 人口1万人あたり一般診療所数

総人口に対する一般診療所の数は、比較自治体及び埼玉県平均と同じ水準であるため、朝霞市の日々の健康を守る医療の場は、埼玉県において標準的な水準で整備されていると考えられる。

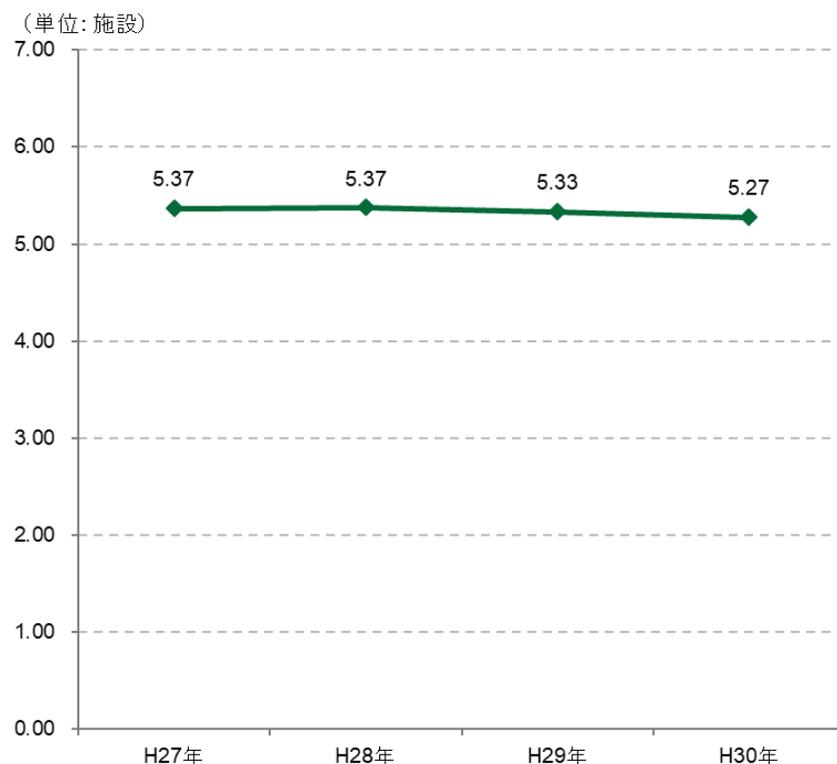
自治体間比較(平成30年)

- 朝霞市は富士見市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(4.67施設)は上回っているが、埼玉県平均(5.74施設)は下回っている。



経年比較

- 過去4回分を比較すると、減少傾向で推移している。

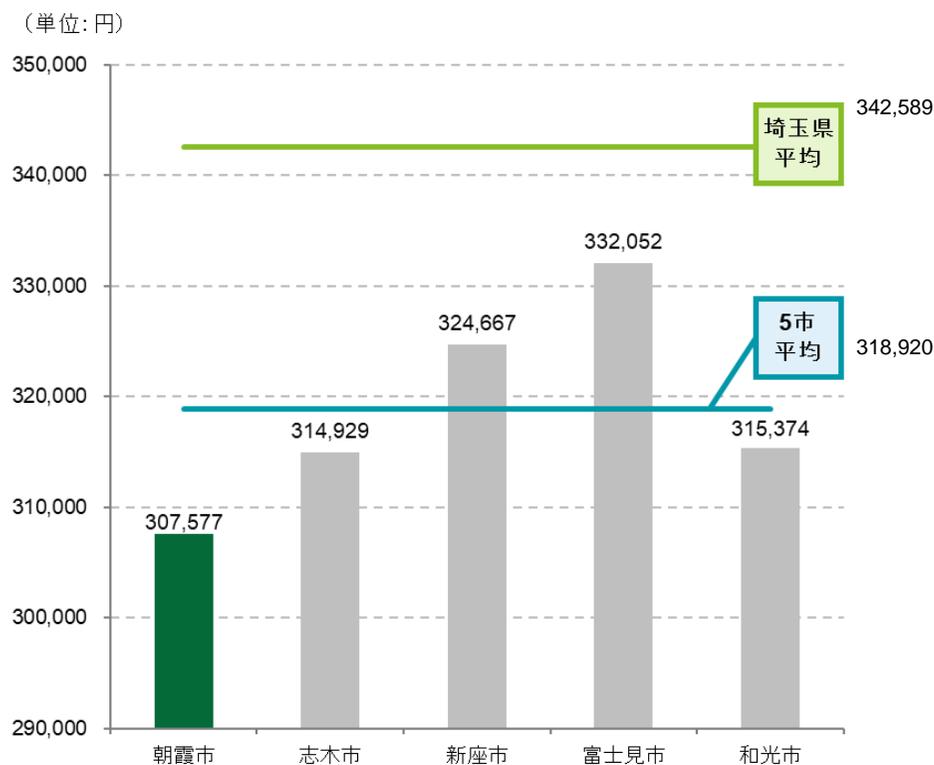


3-4-3. 朝霞市国民健康保険被保険者1人あたりの医療費

1人あたりの医療費は、比較自治体及び埼玉県を大きく下回る水準であるが、加入者の高齢化や医療技術の高度化などにより、今後も増加し続けることが懸念される。

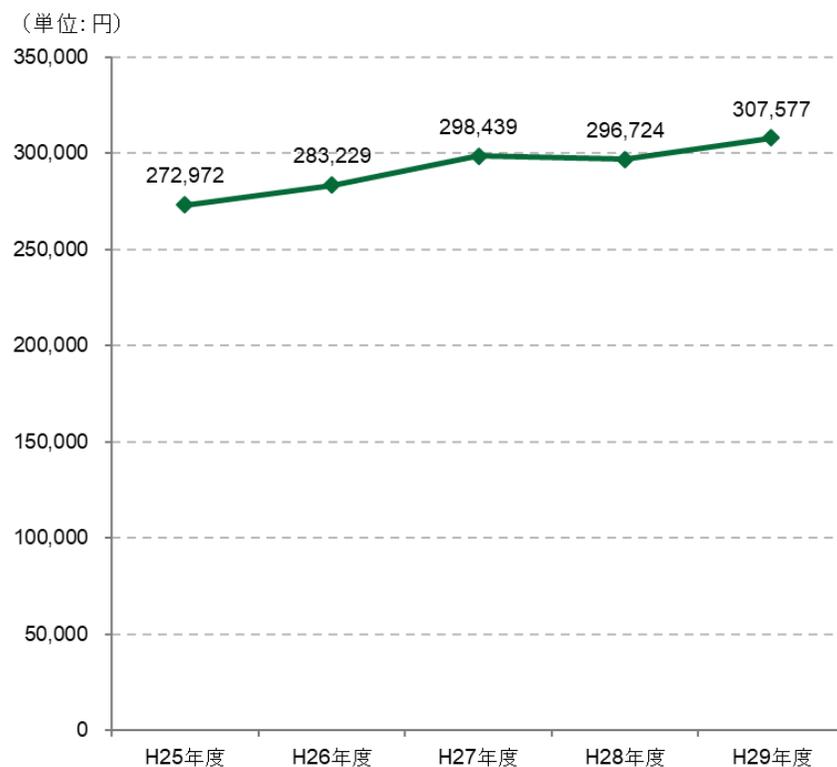
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は最も低い水準にある。
- 5市平均(318,920円)、埼玉県平均(342,589円)をともに下回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、増加傾向で推移している。



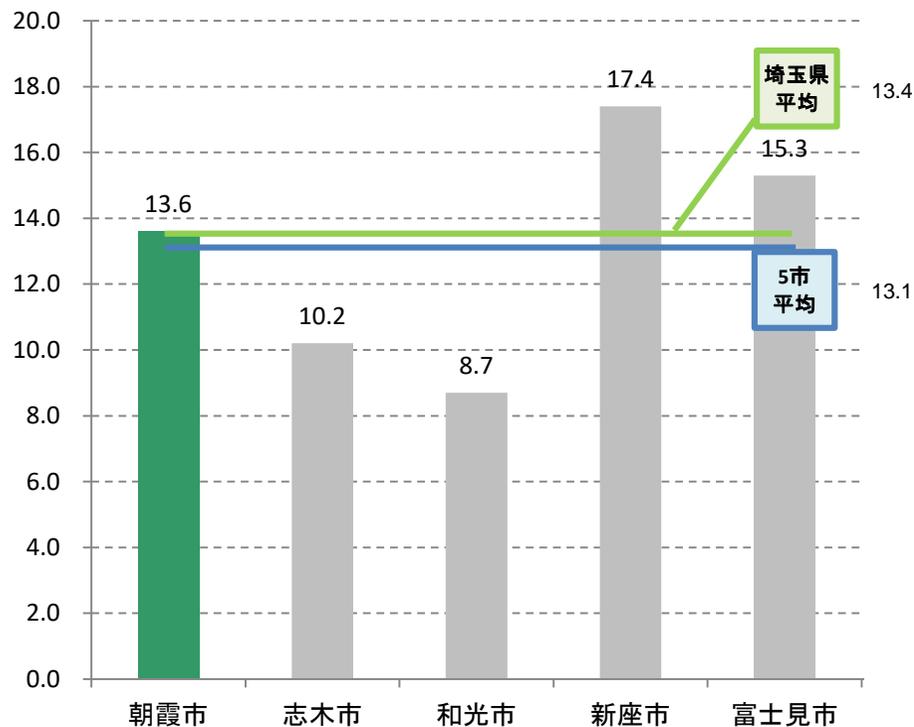
3-4-4. 人口1千人あたり生活保護受給者数

総人口に対する生活保護受給者数は埼玉県平均とほぼ同じか、若干上回る水準で推移している。今後、増加傾向となった場合には財政負担の増加も懸念される。

自治体間比較(平成29年)

- 他自治体と比較すると、朝霞市は新座市・富士見市に次いで3番目に高い水準である。
- 5市平均(13.0)および埼玉県平均(13.3)を上回っている。

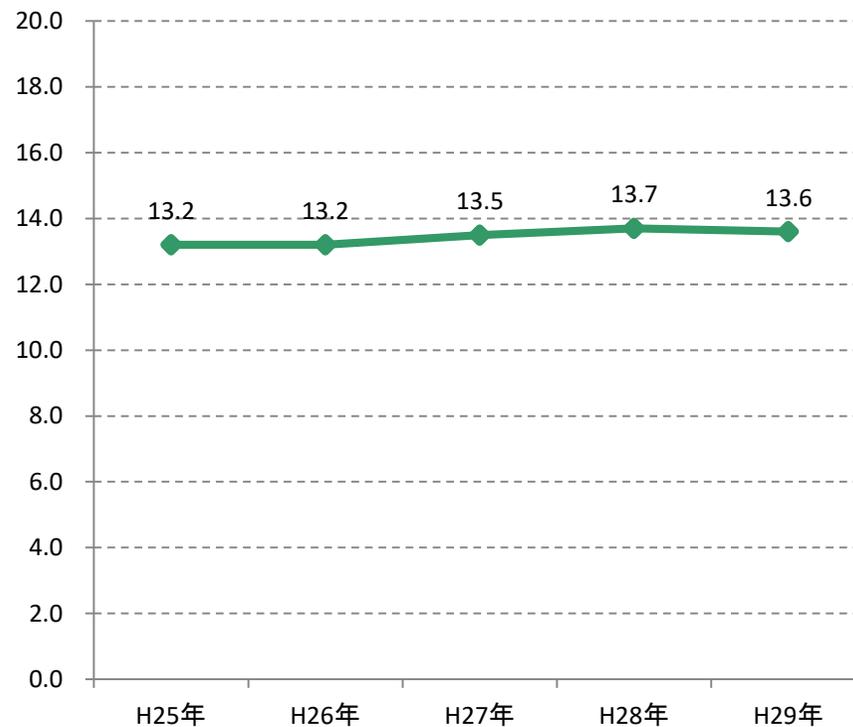
(単位:人)



経年比較

- 過去5年間では増加傾向にあるが、ほぼ横ばいで推移している。

(単位:人)



出所:「埼玉県 保護率の推移(各年度月平均)」

3-4-5. 人口1万人あたり障害者手帳所持者数

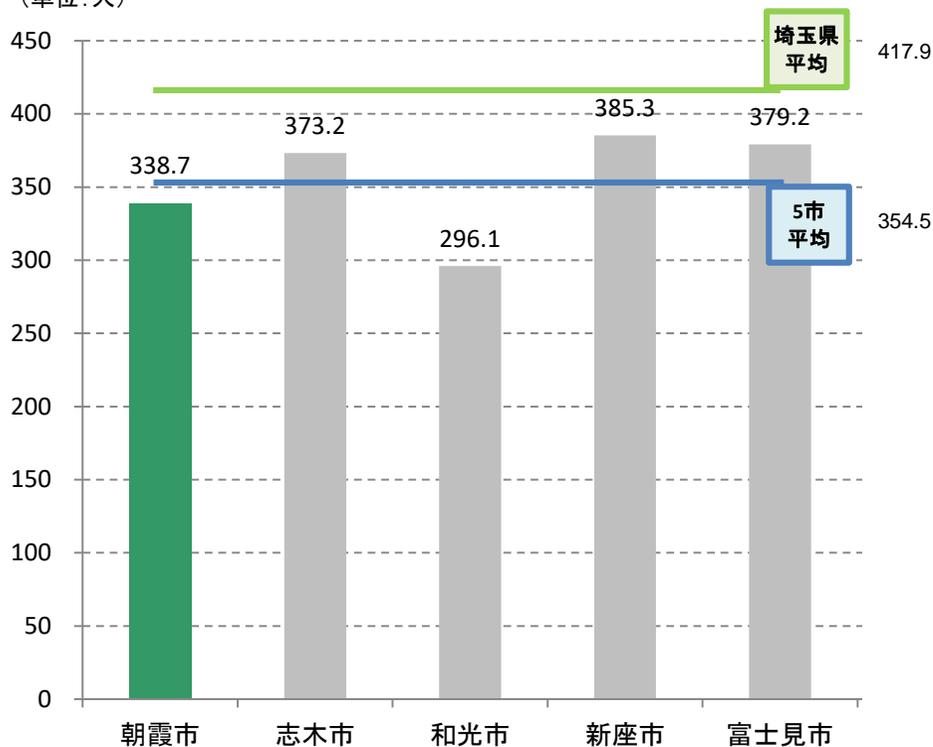
総人口に対する障害者手帳所持者数は、埼玉県平均(417.9人)より少なく、近隣市とほぼ同水準である。

※障害者手帳は、身体障害者・療育・精神障害者保健福祉の3手帳である。

自治体間比較(平成29年)

- 他自治体と比較すると、朝霞市の障害者手帳所持者数はやや少ない状況である。
- 5市平均(354.5人)、埼玉県平均(417.9人)をとともに下回っている。

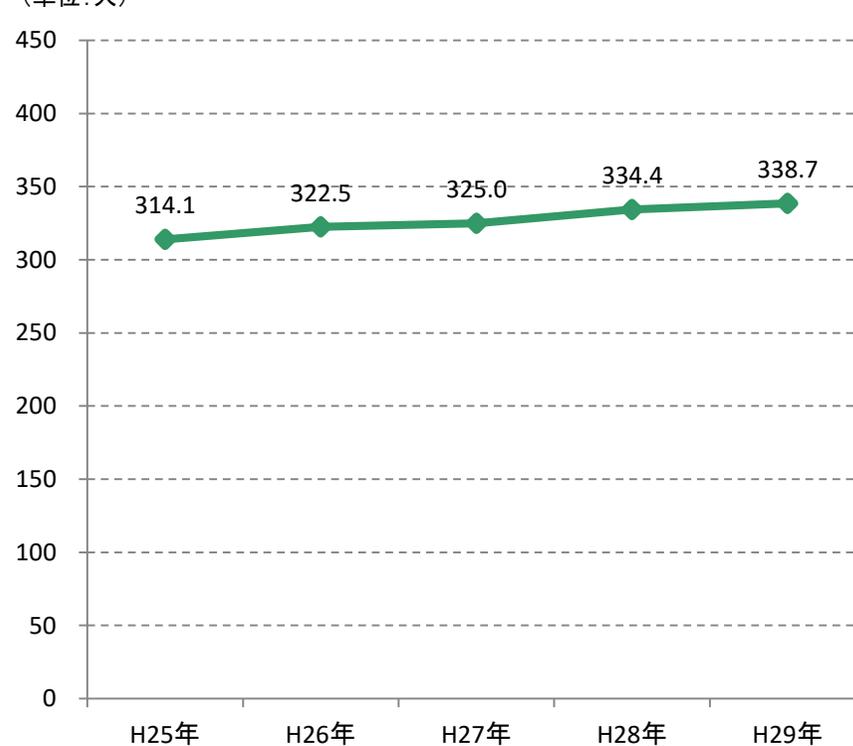
(単位:人)



経年比較

- 過去5年分を比較すると、障害者数は増加している。

(単位:人)



出所:「各市統計資料」

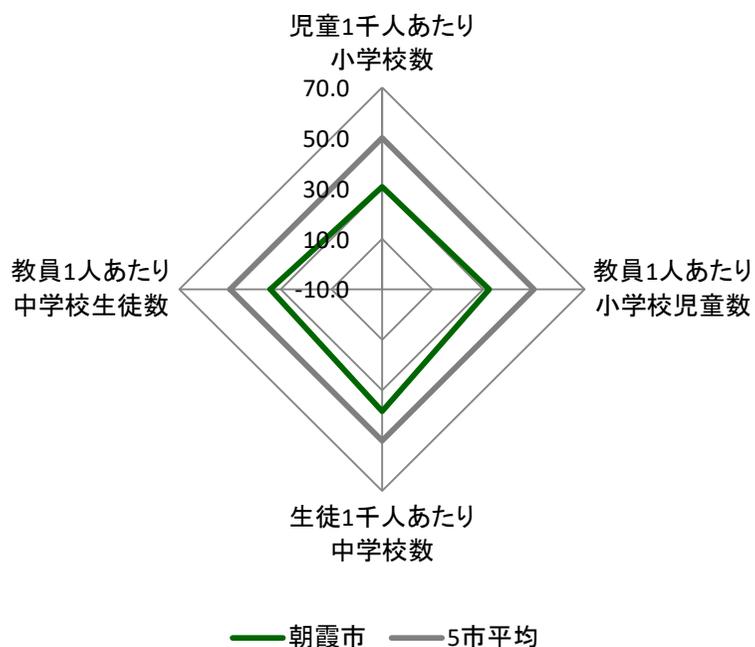
3-5. 教育

分析結果総論

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	和光市	新座市	富士見市
1	児童1千人あたり小学校数	校		1.36	1.86	—	—	2.03	2.07	1.89	1.94
2	教員1人あたり小学校児童数	人	※	22.0	19.6	—	—	19.0	19.1	19.3	18.8
3	生徒1千人あたり中学校数	校		1.55	1.93	—	—	2.34	1.75	1.71	2.28
4	教員1人あたり中学校生徒数	人	※	18.1	16.5	—	—	15.8	15.9	16.8	15.8

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

レーダーチャート



分析コメント

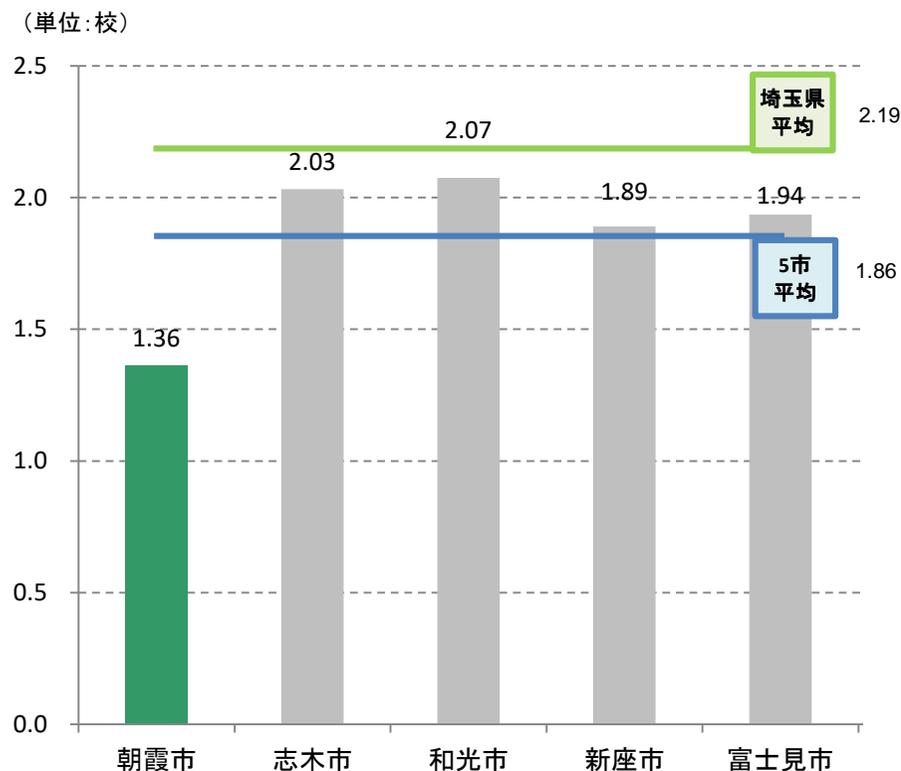
- 「児童1千人あたり小学校数」、「生徒1千人あたり中学校数」からすると、朝霞市には規模が大きい小学校が多い傾向にあると考えられる。今後の推移をとらえながら、引き続き適切な対応が必要である。
- 「教員1人あたり小学校児童数」、「教員1人あたり中学校生徒数」は、国及び県で基準が決まっており、児童数及び生徒数に応じて学級数が決まり、学級数に応じて教員を配置している。朝霞市は引き続き補助教員や支援員を配置し、きめ細かな対応を図っていく必要がある。

3-5-1. 児童1千人あたり小学校数

児童1千人あたりの小学校の数からすると、朝霞市には規模が大きい小学校が多い傾向にあると考えられる。今後の推移をとらえながら、引き続き適切な対応が必要である。

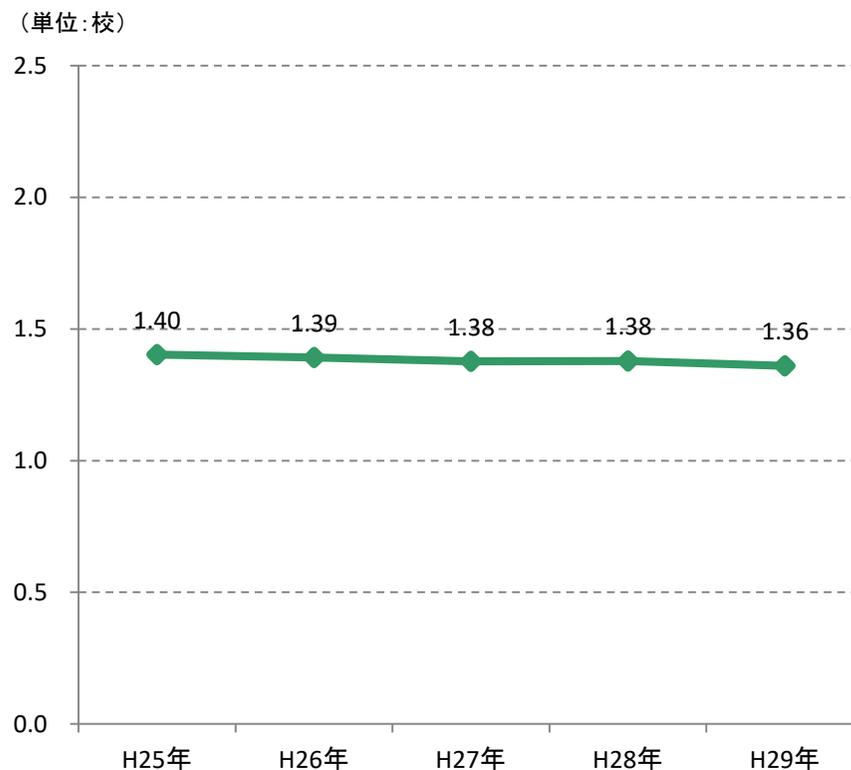
自治体間比較(平成30年)

■ 5市平均(1.86校)、埼玉県平均(2.19校)をともに下回っている。



経年比較

■ 過去5回分を比較すると、減少傾向で推移している。

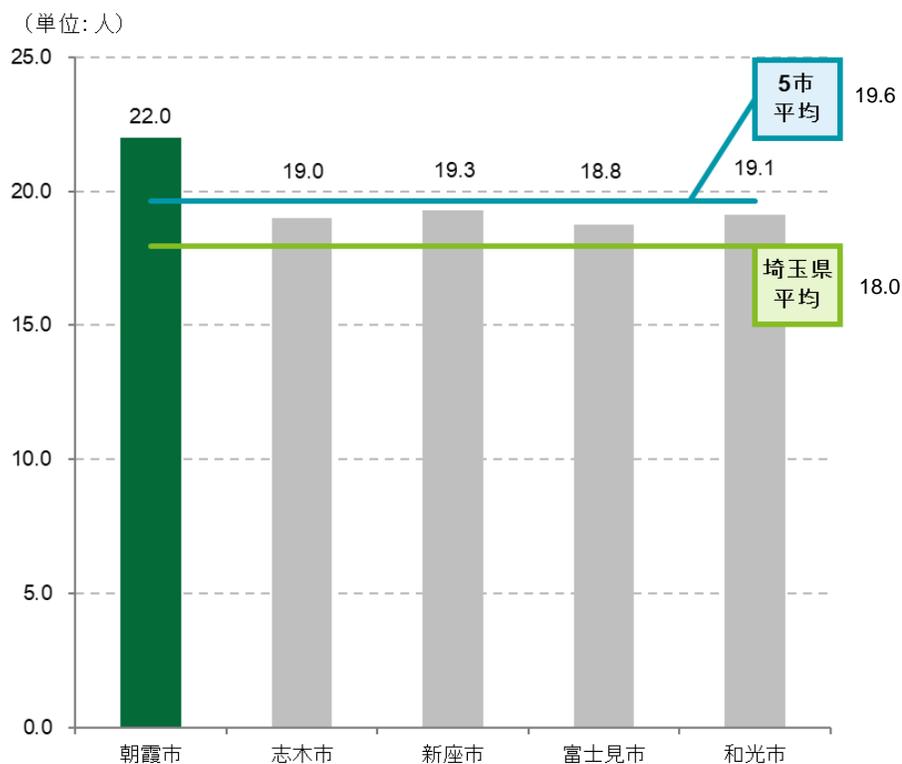


3-5-2. 教員1人あたり小学校児童数

小学校の一学級当たりの児童数は、国及び県で基準が決まっており、児童数に応じて学級数が決まり、学級数に応じて教員を配置している。朝霞市は引き続き補助教員や支援員を配置し、きめ細かな対応を図っていくことが必要である。

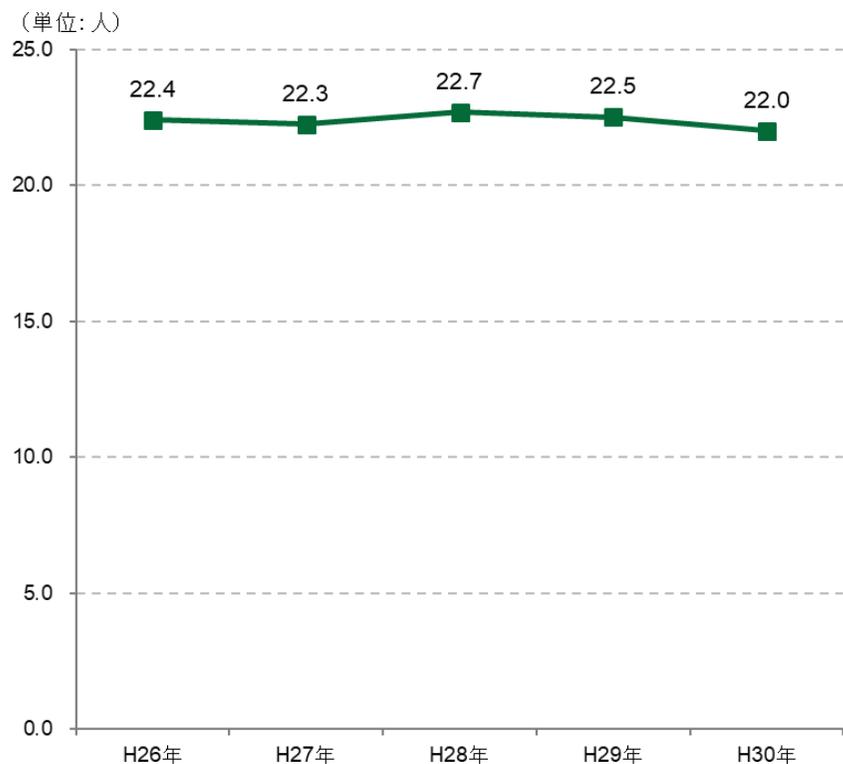
自治体間比較(平成30年)

■ 5市平均(19.6人)、埼玉県平均(18.0人)をともに上回っている。



経年比較

■ 過去5回分を比較すると、減少傾向で推移している。

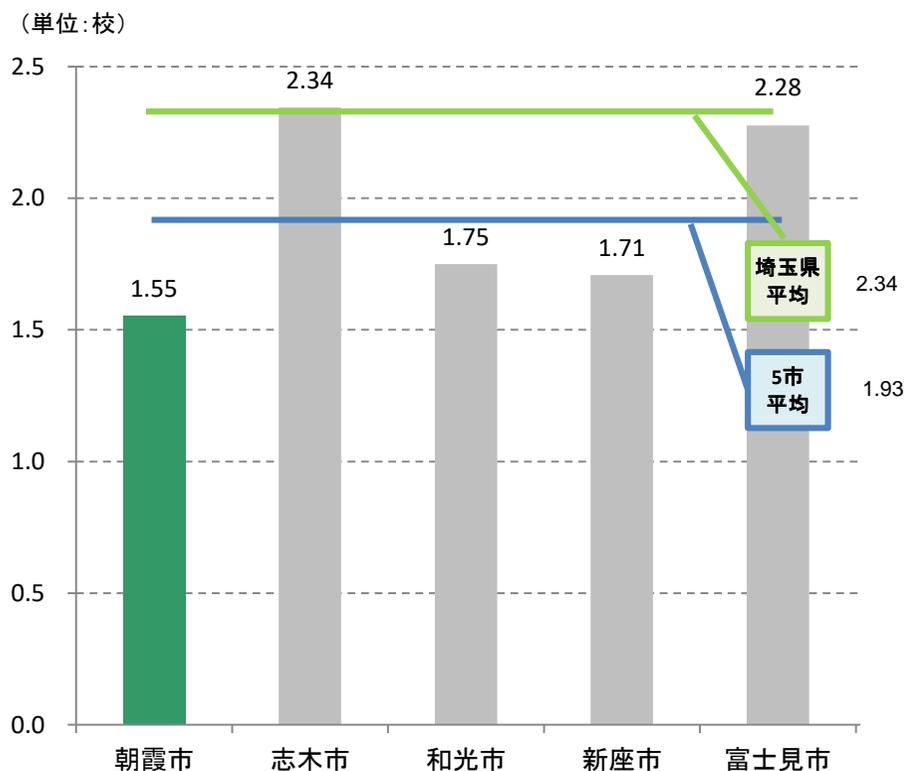


3-5-3. 生徒1千人あたり中学校数

生徒1千人あたりの中学校の数からすると、朝霞市には規模が大きい中学校が多い傾向にあると考えられる。今後の推移をとらえながら、引き続き適切な対応が必要である。

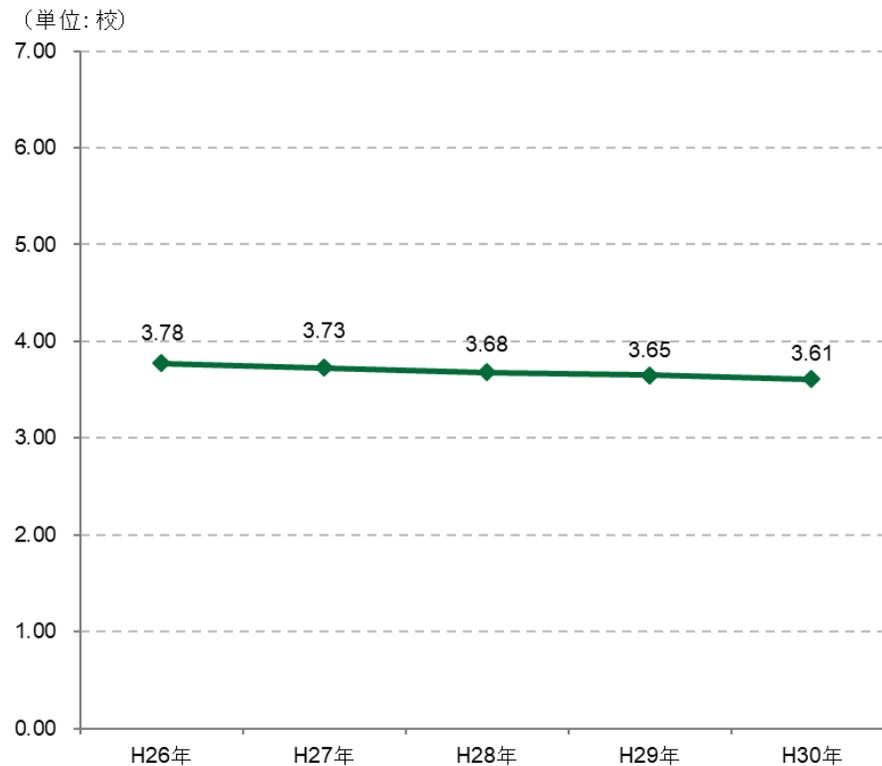
自治体間比較(平成30年)

■ 5市平均(1.93校)、埼玉県平均(2.34校)をともに下回っている。



経年比較

■ 過去5回分を比較すると、減少傾向で推移している。



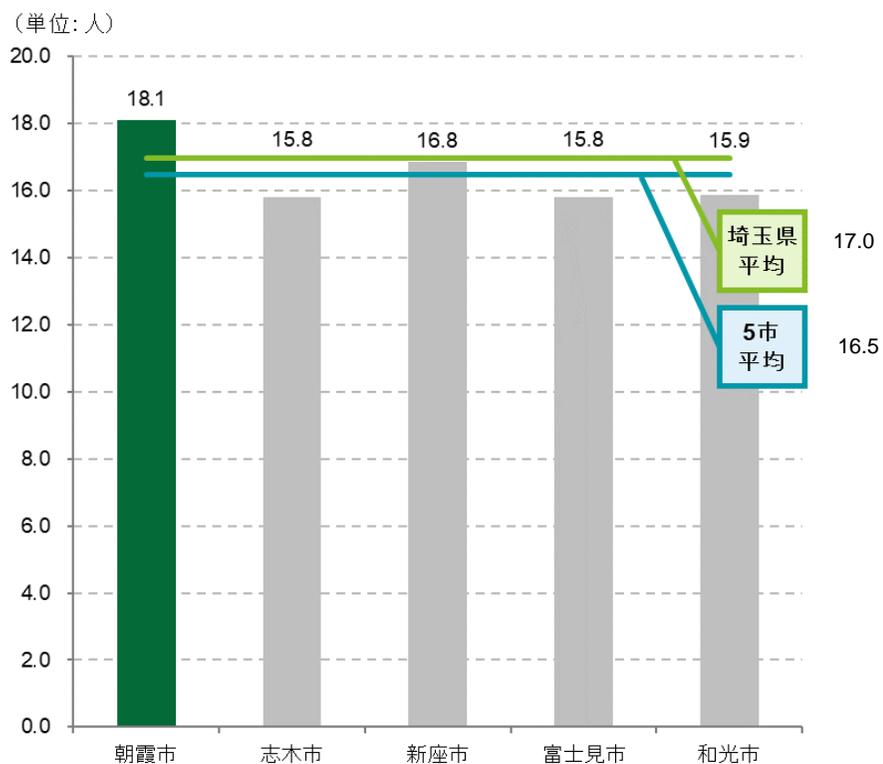
出所:「学校基本調査」

3-5-4. 教員1人あたり中学校生徒数

中学校の一学級当たりの生徒数は、国及び県で基準が決まっており、生徒数に応じて学級数が決まり、学級数に応じて教員を配置している。朝霞市は引き続き補助教員や支援員を配置し、きめ細かな対応を図っていくことが必要である。

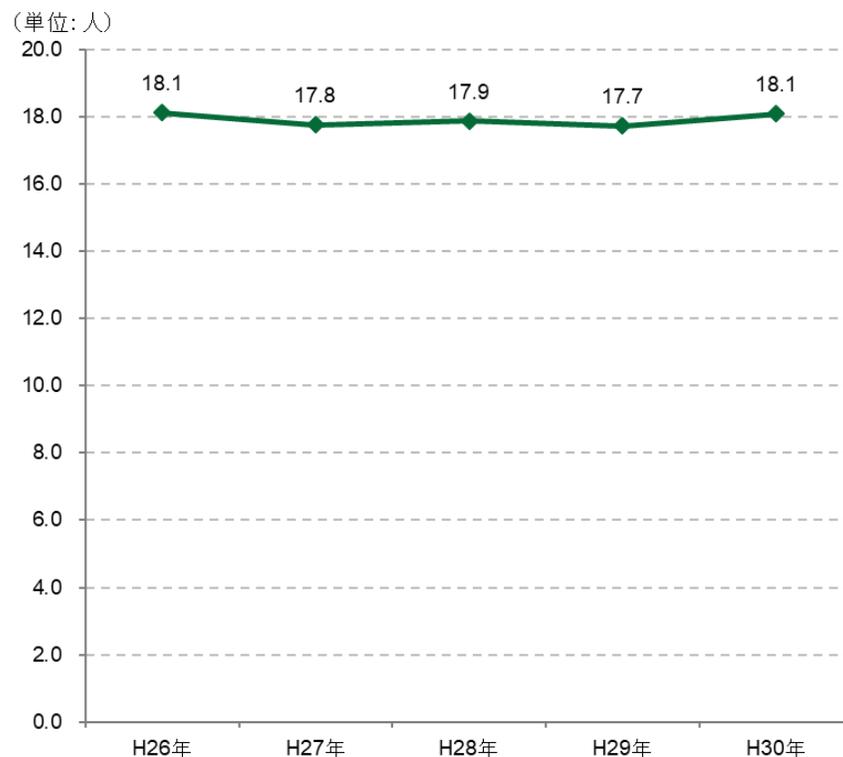
自治体間比較(平成30年)

■ 5市平均(16.5人)、埼玉県平均(17.0人)をともに上回っている。



経年比較

■ 過去5回分を比較すると、横ばいで推移している。



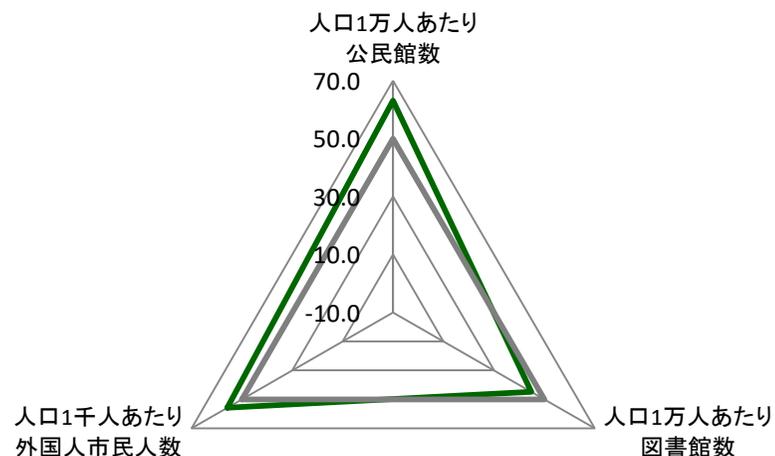
3-6. 文化

分析結果総論

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	和光市	新座市	富士見市
1	人口1万人あたり公民館数	施設		0.45	0.37	1	63.1	0.27	0.38	0.37	0.37
2	人口1万人あたり図書館数	施設		0.149	0.189	3	44.9	0.272	0.125	0.123	0.275
3	人口1千人あたり外国人市民人数	人		27.4	25.0	2	55.8	25.0	30.4	20.2	22.1

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

レーダーチャート



分析コメント

- 「人口1万人あたり公民館数」、「人口1千人あたり在住外国人人数」は比較自治体の平均を上回っており、特に「人口1万人あたり公民館数」の偏差値は比較自治体の平均よりも高い。
- 「人口1万人あたり図書館数」の偏差値は比較自治体の平均よりも低い。

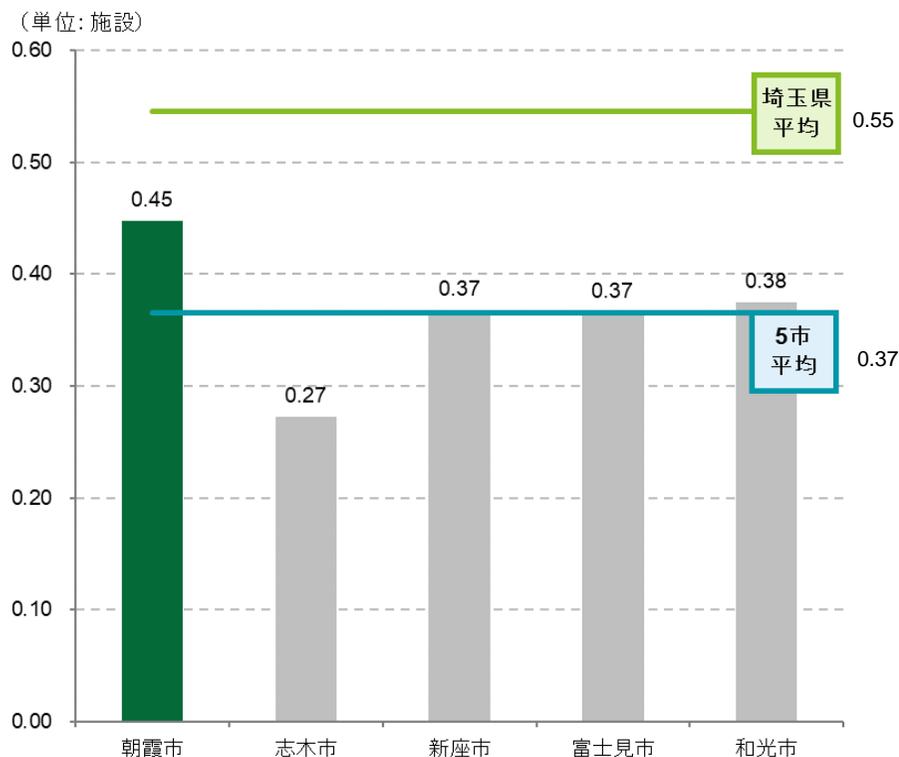
— 朝霞市 — 5市平均

3-6-1. 人口1万人あたり公民館数

総人口に対する公民館の数は、埼玉県平均を下回っているため、朝霞市の地域コミュニティの拠点は、埼玉県において相対的に少ないと考えられる。

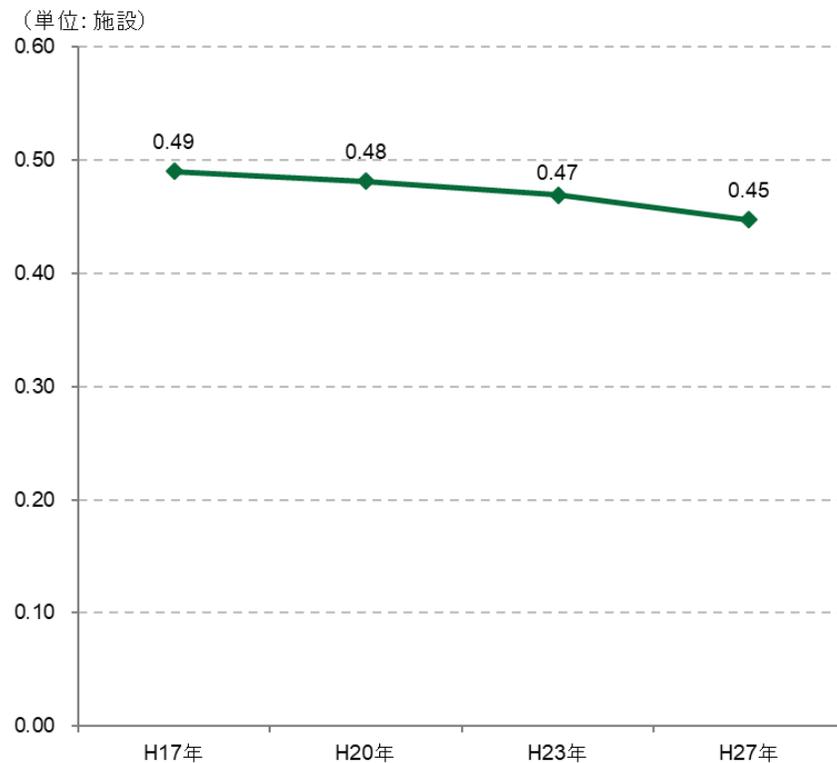
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は最も高い水準にある。
- 5市平均(0.37施設)は上回っているが、埼玉県平均(0.55施設)は下回っている。



経年比較

- 過去4回分を比較すると、減少傾向で推移している。

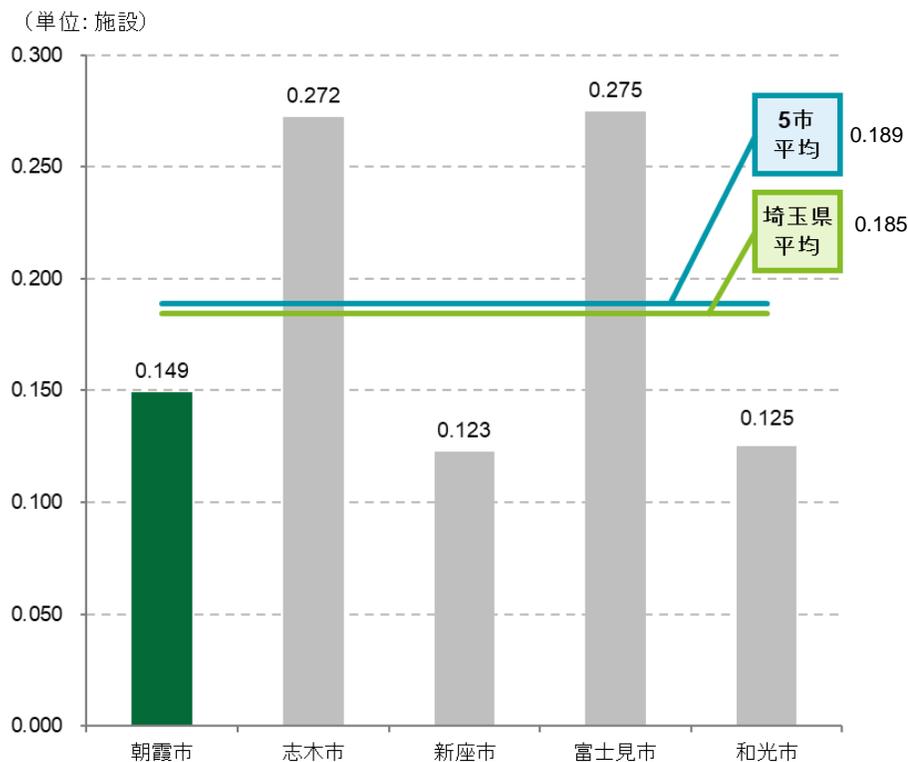


3-6-2. 人口1万人あたり図書館数

総人口に対する図書館の数は、比較自治体及び埼玉県平均を下回っているため、朝霞市の図書館は、埼玉県において相対的に少ないと考えられる。

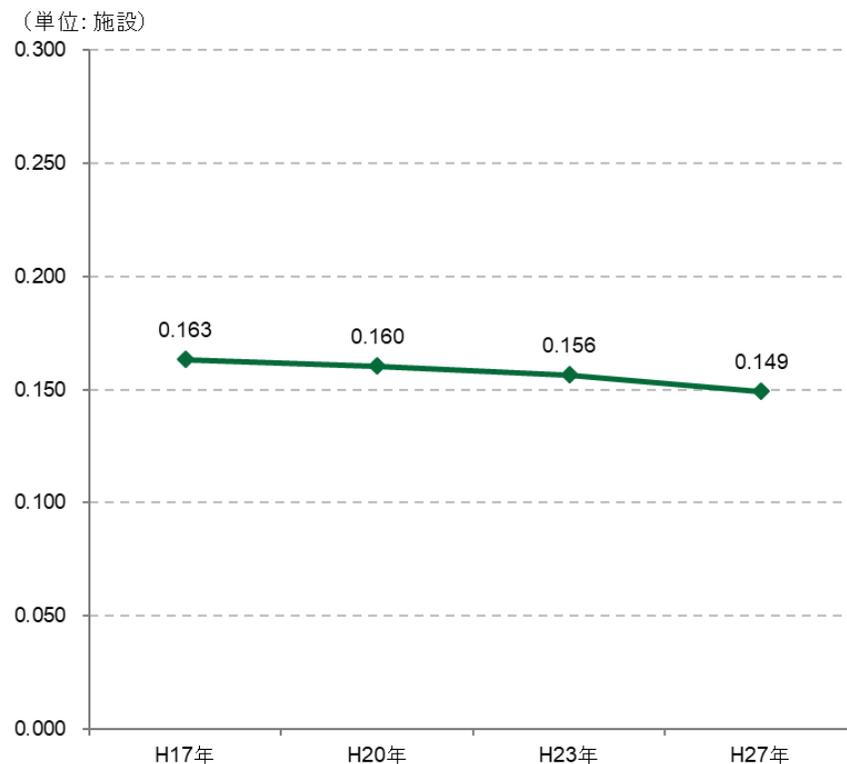
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は富士見市、志木市に次いで3番目に高い水準にある。
- 5市平均(0.189施設)、埼玉県平均(0.185施設)をともに下回っている。



経年比較

- 過去4回分を比較すると、減少傾向で推移している。

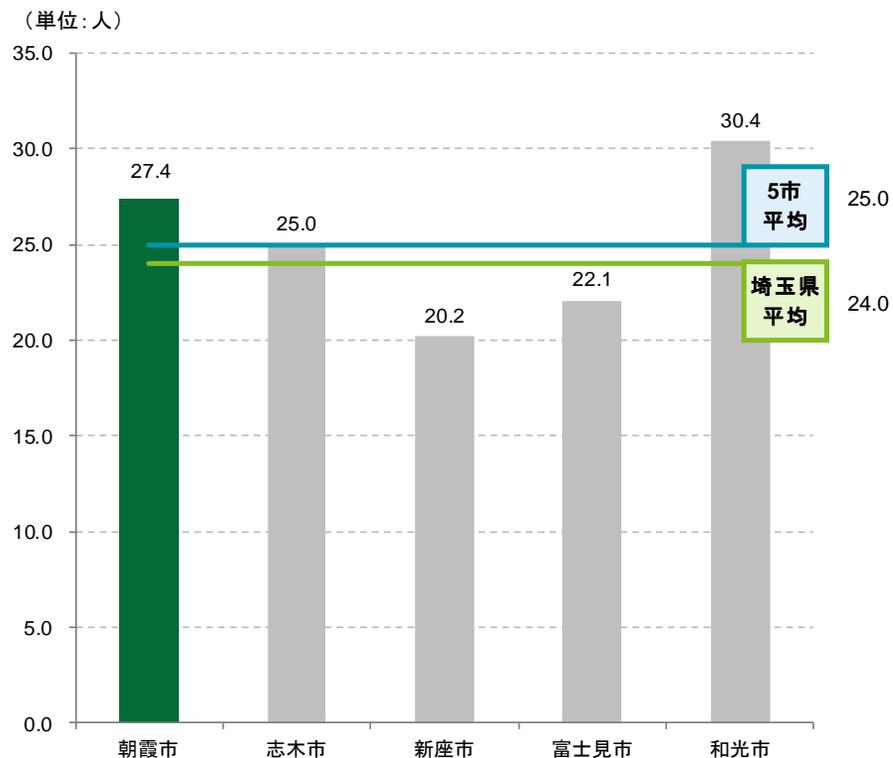


3-6-3. 人口1千人あたり外国人市民人数

総人口に対する外国人市民の割合は、比較自治体及び埼玉県平均を上回る水準にあるため、朝霞市の外国人市民の割合は、埼玉県内において相対的に高いと考えられる。

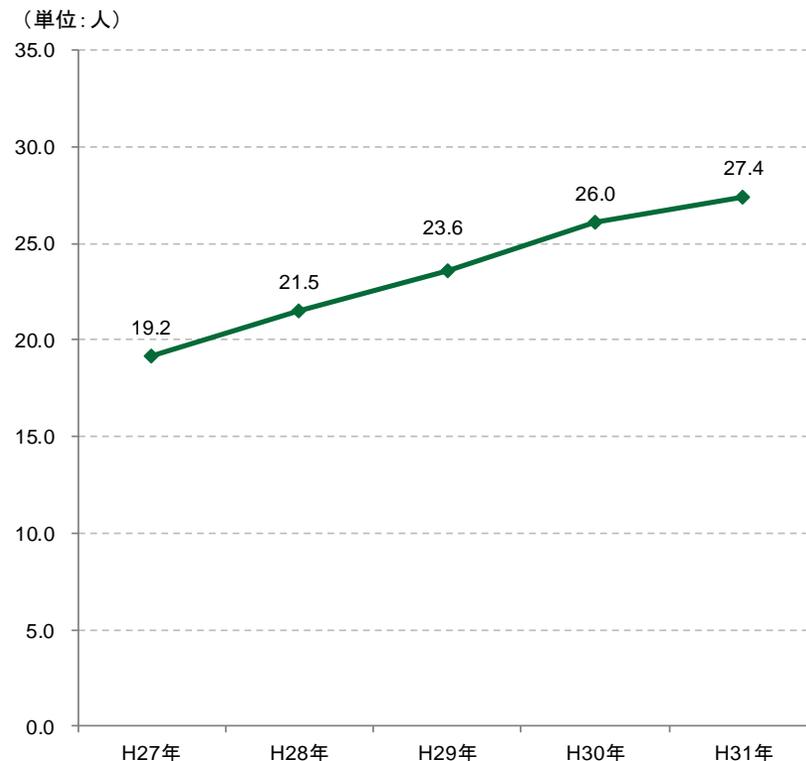
自治体間比較(平成31年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(25.0人)、埼玉県平均(24.0人)をとともに上回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、増加傾向で推移している。



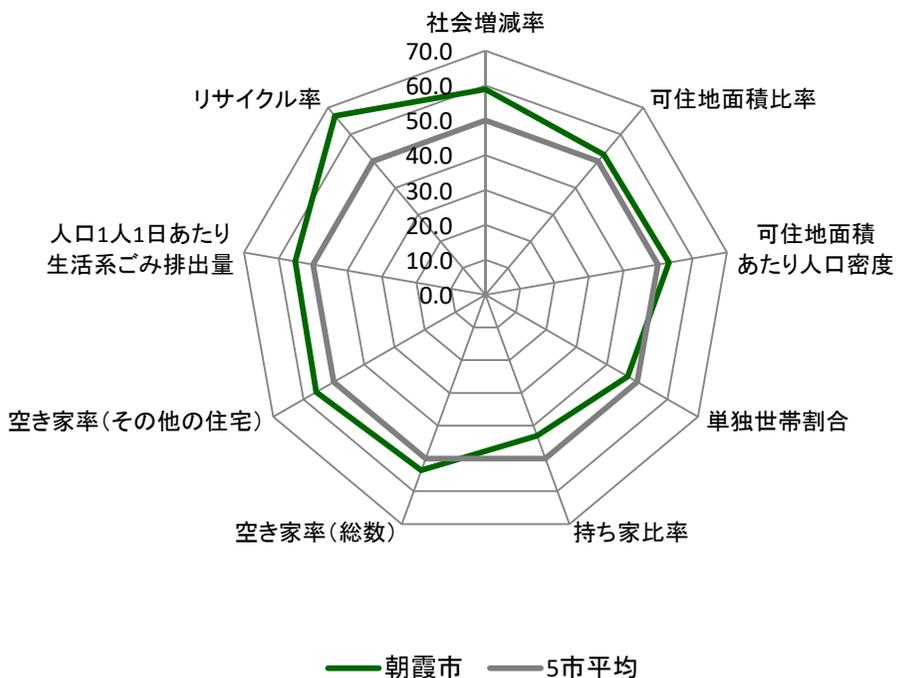
3-7. 住環境

分析結果総論

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	和光市	新座市	富士見市
1	社会増減率	%		0.83	0.47	2	58.9	0.27	0.95	0.00	0.30
2	可住地面積比率	%		99.1	98.4	4	52.5	100.0	99.6	93.9	99.6
3	可住地面積あたり人口密度	人/ha		75.0	71.9	3	53.2	80.3	73.5	75.8	54.9
4	単独世帯割合	%	※	36.4	35.0	4	46.9	31.3	41.1	30.1	36.3
5	持ち家比率	%		49.4	55.6	4	43.1	62.2	43.8	66.1	56.8
6	空き家率(総数)	%	※	9.25	9.11	4	47.1	9.24	8.89	8.32	9.84
7	空き家率(その他の住宅)	%	※	2.69	2.93	2	55.8	2.79	2.51	3.69	2.97
8	人口1人1日あたり生活系ごみ排出量	g/人日	※	610	615	2	55.1	611	630	624	601
9	リサイクル率	%		34.1	28.2	1	66.9	28.1	27.6	26.2	25.2

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

レーダーチャート



分析コメント

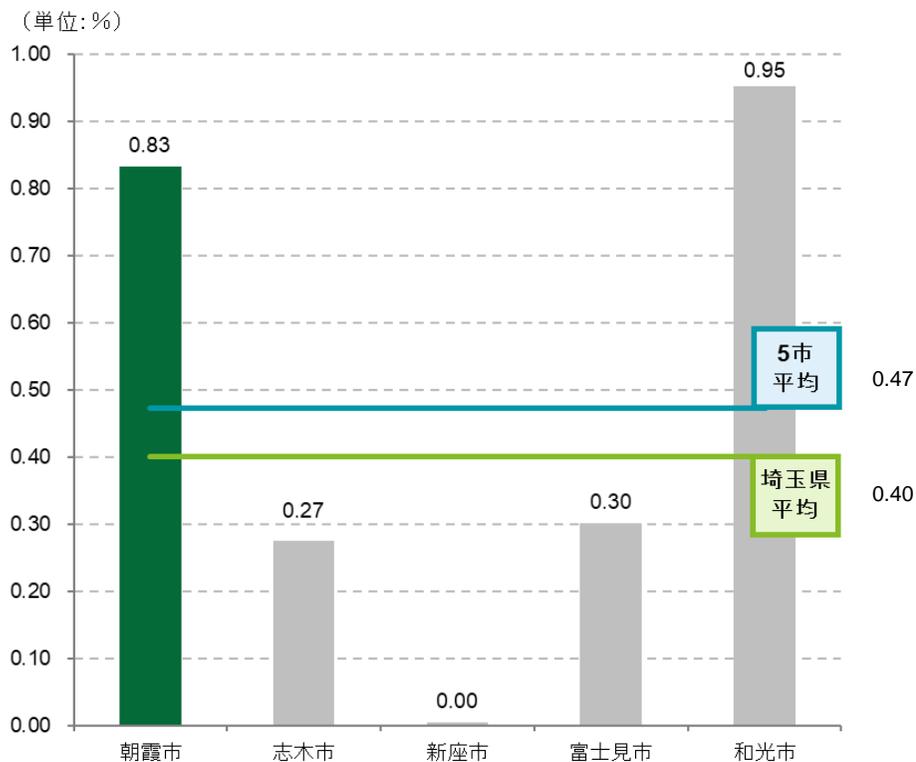
- 「社会増減率」、「可住地面積比率」、「可住地面積あたり人口密度」、「空き家率(その他の住宅)」、「人口1人1日あたり生活系ごみ排出量」、「リサイクル率」の偏差値は比較自治体の平均よりも高く、特に「リサイクル率」の数値は比較自治体の中で最も高い水準となっている。
- 「単独世帯割合」、「持ち家比率」、「空き家率(総数)」の偏差値は比較自治体の平均よりも低い。
- 「単独世帯割合」の数値が比較自治体の中で高い水準にあることや、「持ち家比率」の数値が比較自治体の中で低い水準にあることから、今後人口の定着を図るには、様々な住宅ニーズの把握が必要と考えられる。
- 「空き家率(その他の住宅)」の数値は増加傾向にあり、空き家は適正な管理がされないと住環境に悪影響を及ぼすおそれがあることから、空き家対策の検討が必要である。

3-7-1. 社会増減率

総人口に占める社会増減数(転入者数－転出者数)は、比較自治体及び埼玉県平均と比較して高い水準にあるため、朝霞市の社会移動による増加率が、埼玉県において相対的に高いと考えられる。

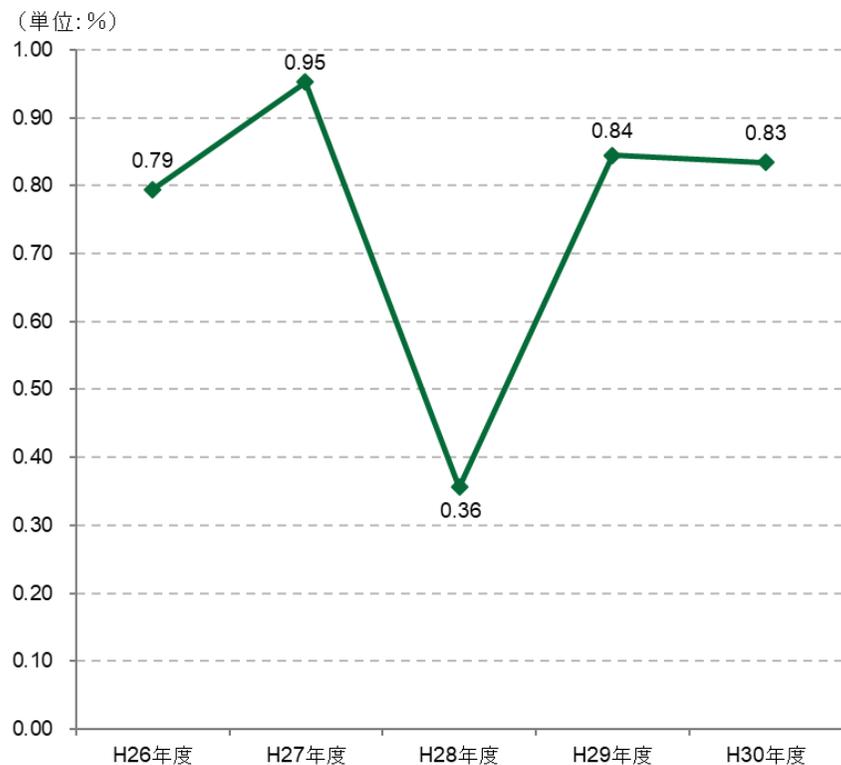
自治体間比較(平成30年)

- 朝霞市は和光市について2番目に高い水準にある。
- 5市平均(0.47%)、埼玉県平均(0.40%)をともに上回っている。



経年比較

- 平成28年度に減少したものの、平成30年度には平成26年度と同じ水準まで増加している。

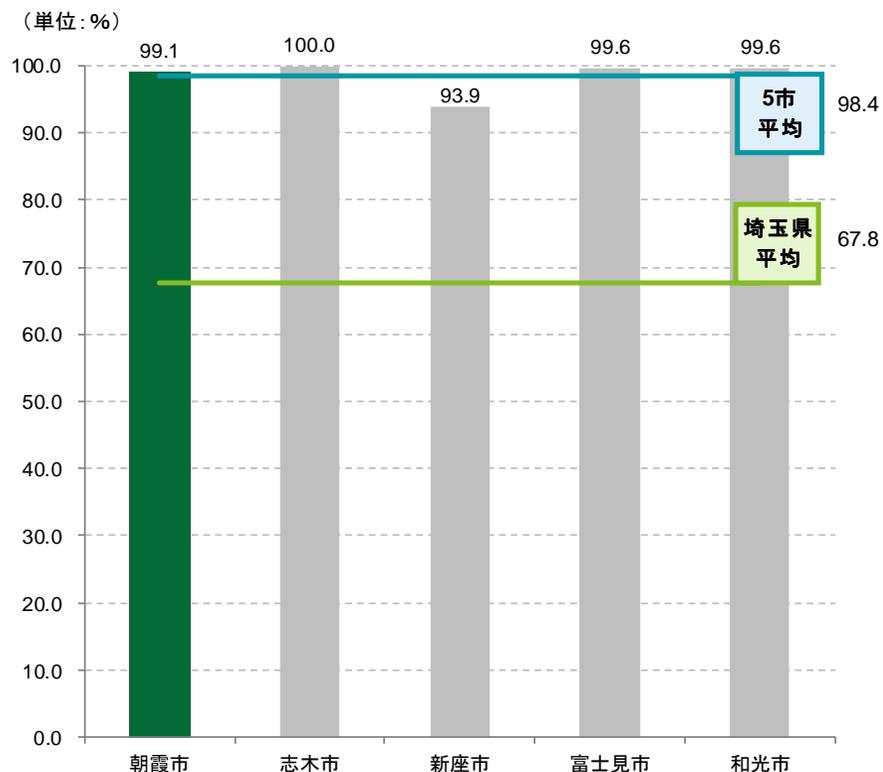


3-7-2. 可住地面積比率

総面積に占める可住地面積は、埼玉県平均より高い水準であり、朝霞市の林野面積及び湖沼面積を除いた面積の割合は、埼玉県において相対的に多いと考えられる。

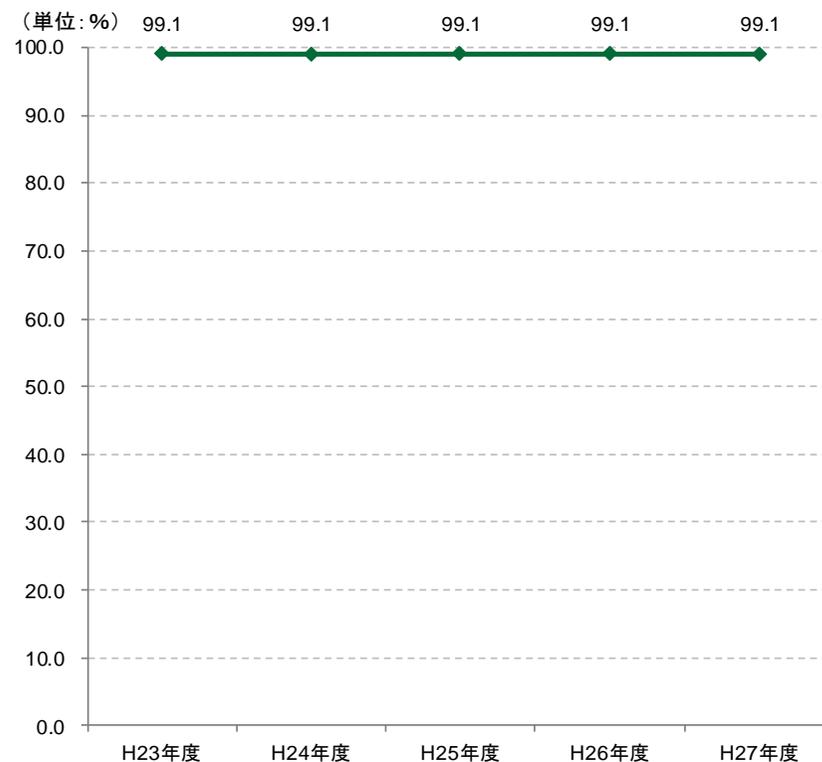
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は新座市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(98.4%)、埼玉県平均(67.8%)をともに上回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、横ばいで推移している。



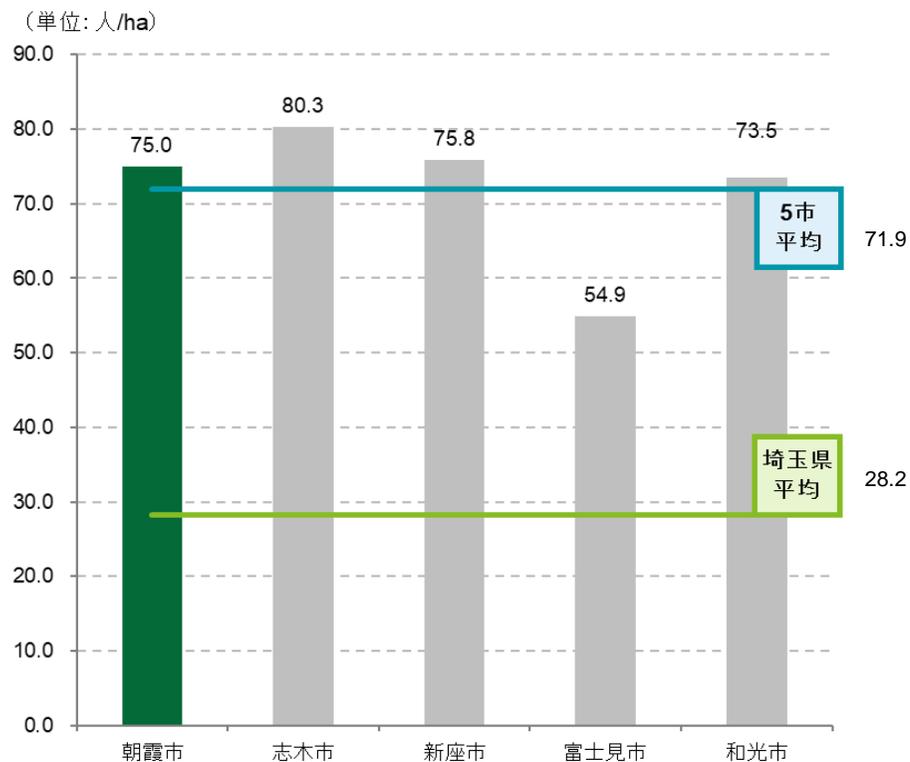
出所: 国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」

3-7-3. 可住地面積あたり人口密度

可住地面積に対する総人口の割合は、比較自治体及び埼玉県平均を上回っているため、朝霞市の人口密度は、埼玉県において相対的に高いと考えられる。

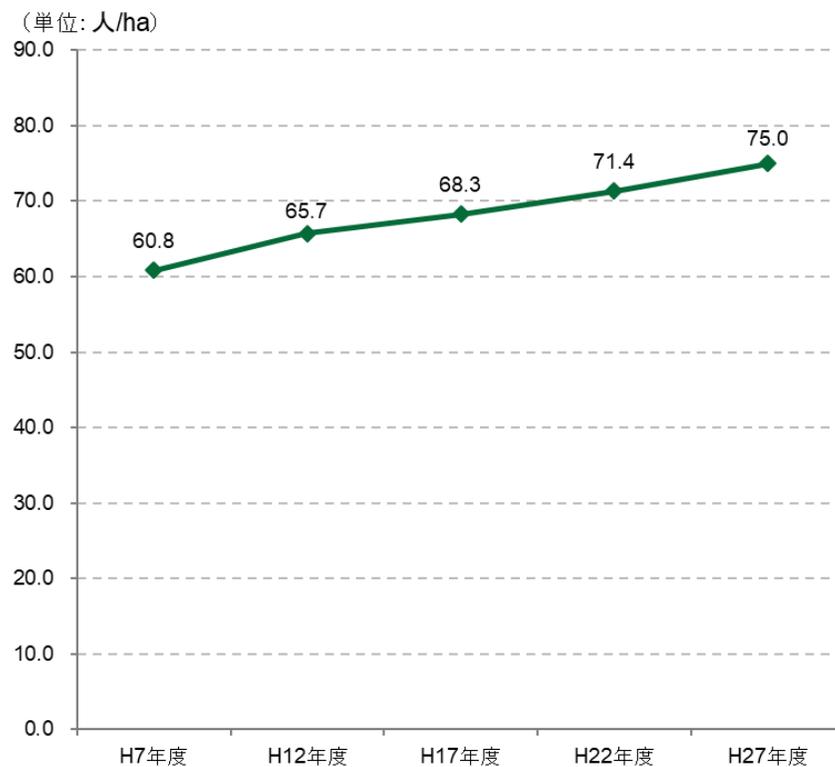
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は富士見市、和光市に次いで3番目に低い水準にある。
- 5市平均(71.9人/ha)、埼玉県平均(28.2人/ha)をともに上回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、増加傾向で推移している。

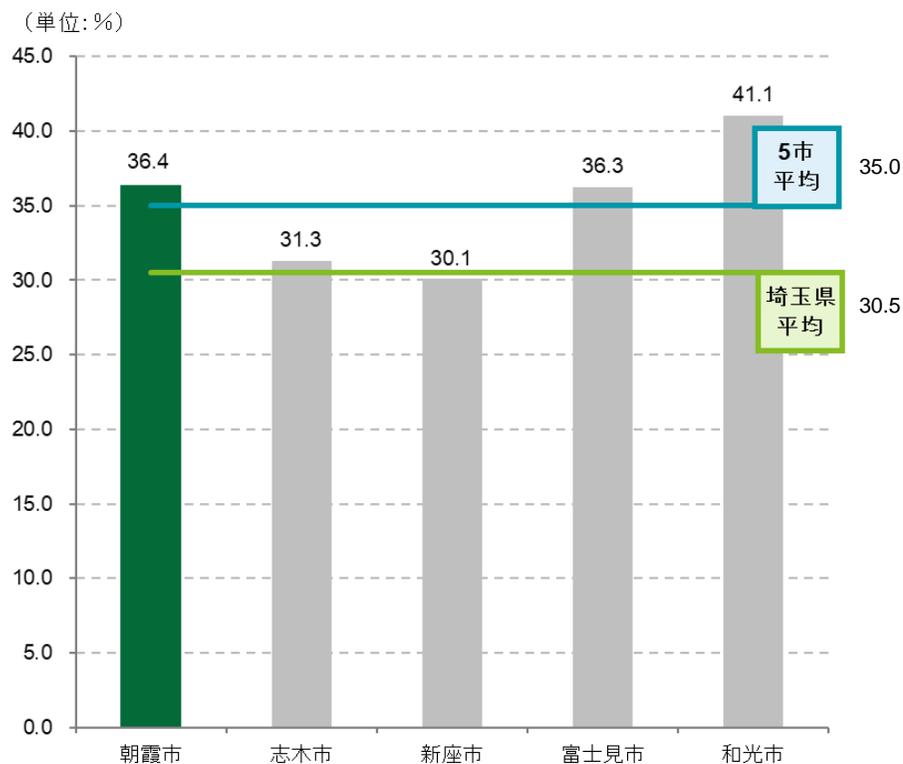


3-7-4. 単独世帯割合

全世帯に占める単独世帯の数は、比較自治体及び埼玉県平均より高い水準にあるため、朝霞市の単身者は相対的に多いと考えられる。

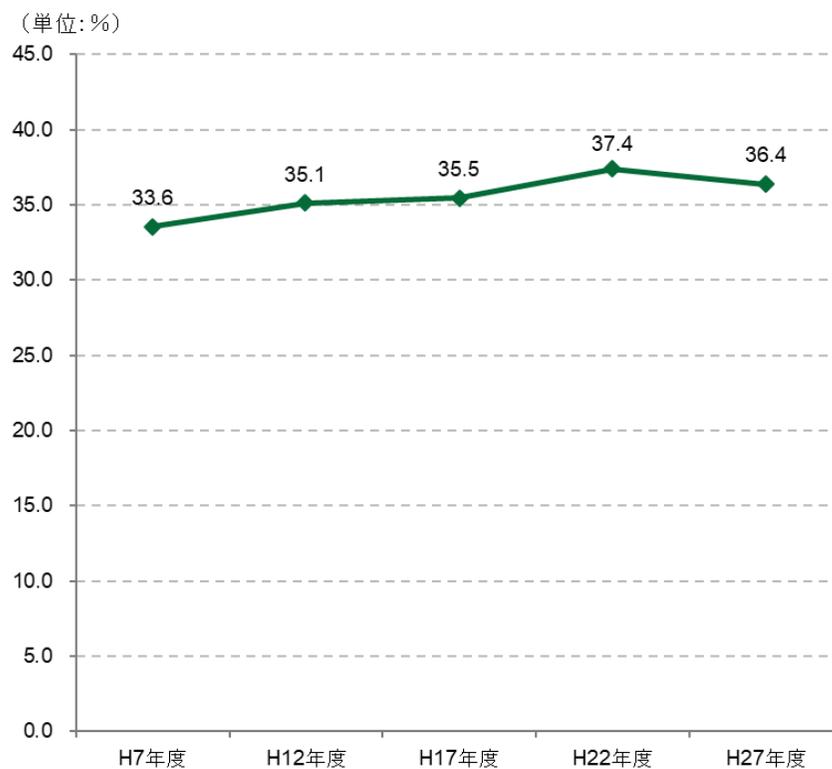
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(35.0%)、埼玉県平均(30.5%)をともに上回っている。



経年比較

- 平成22年度まで増加傾向で推移していたが、平成27年度には減少している。

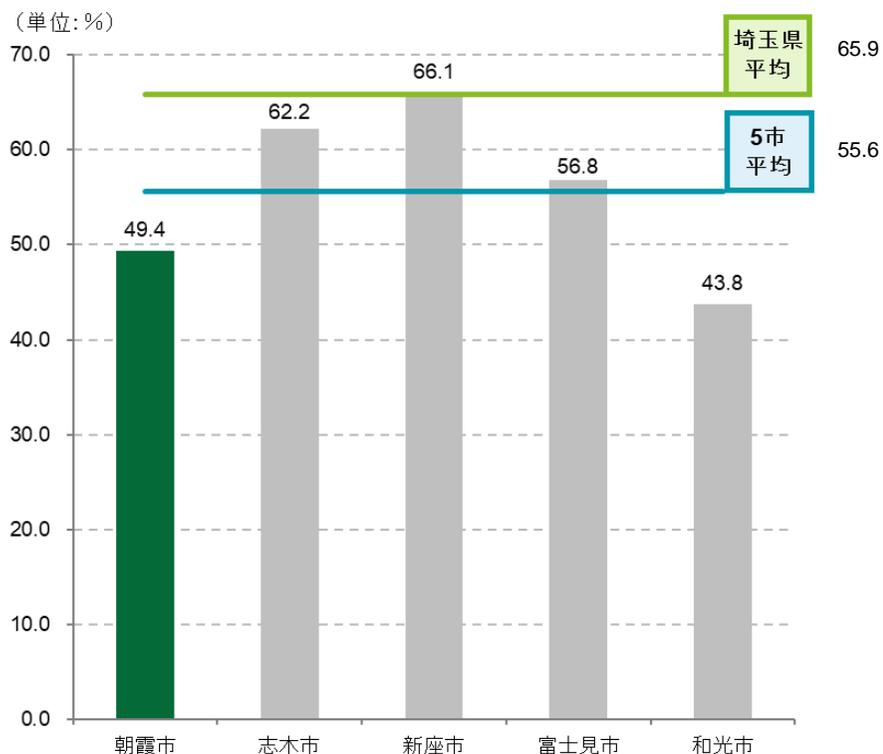


3-7-5. 持ち家比率

住宅数(空き家を除く)に占める持ち家の数は、比較自治体及び埼玉県平均より低い水準にあるため、朝霞市内で家を持っている人は、埼玉県において相対的に少ないと考えられる。

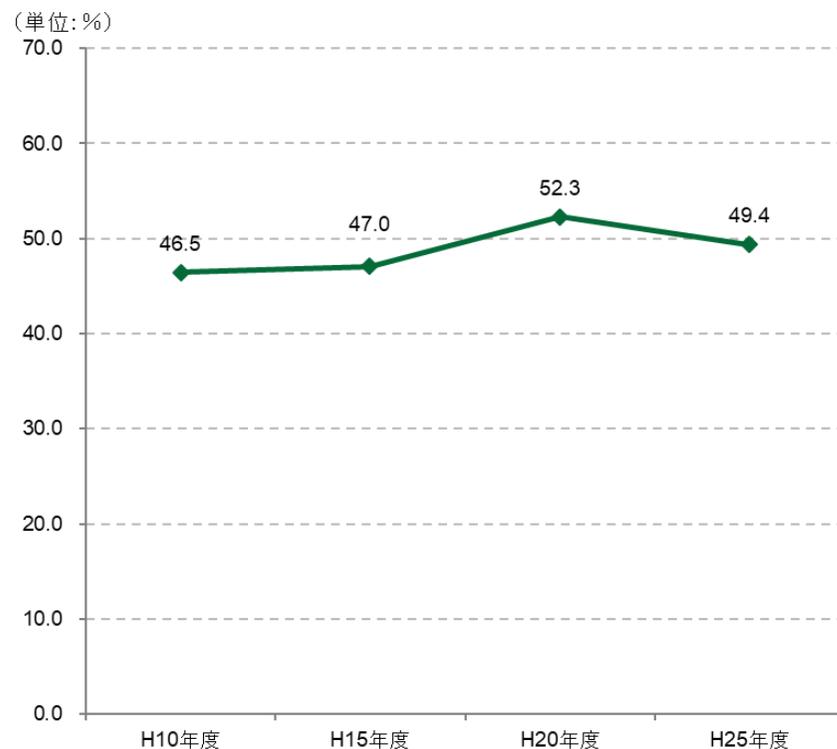
自治体間比較(平成25年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(55.6%)、埼玉県平均(65.9%)をともに下回っている。



経年比較

- 平成20年度まで増加傾向で推移していたが、平成25年度には減少している。



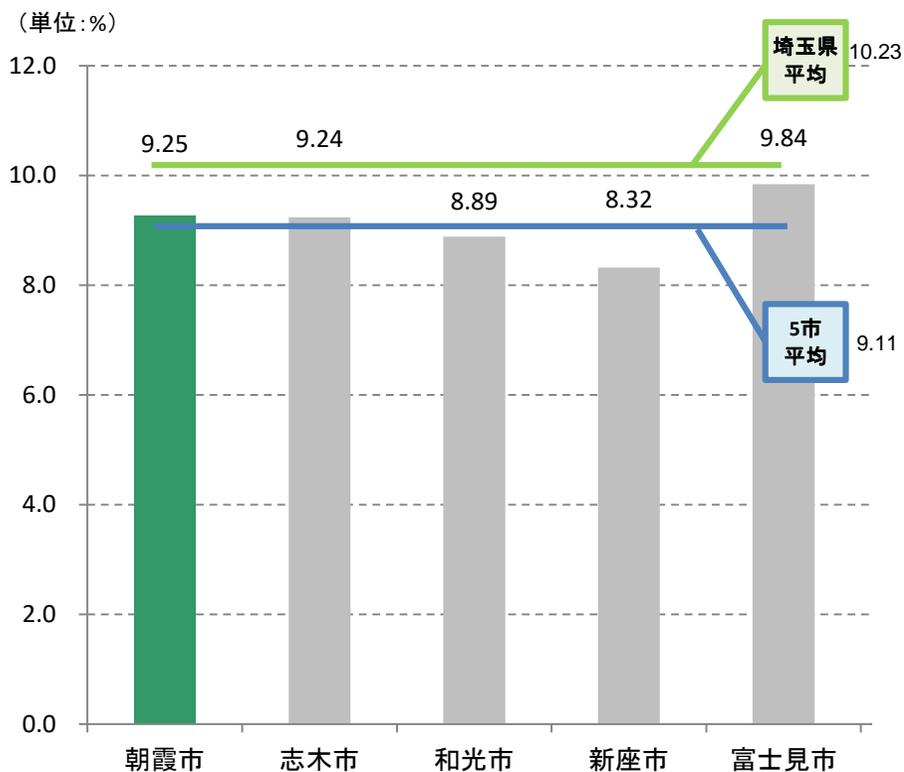
3-7-6. 空き家率(総数)

総住宅数に占める空き家の数は、比較自治体の平均を上回るもの埼玉県平均を下回る水準にある。

※空き家(総数)とは空き家の4つの区分(二次的住宅、賃貸用の住宅、売却用の住宅、その他の住宅)について全て積算した数値

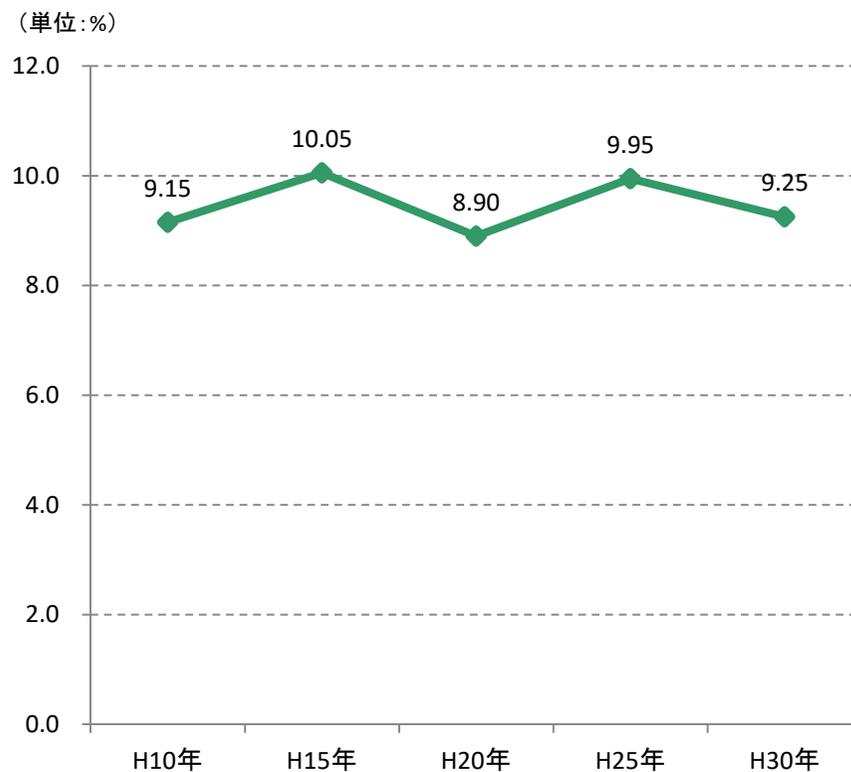
自治体間比較(平成30年)

- 朝霞市は富士見市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(9.11%)を上回っているが、埼玉県平均(10.23%)を下回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、横ばいを続けている。



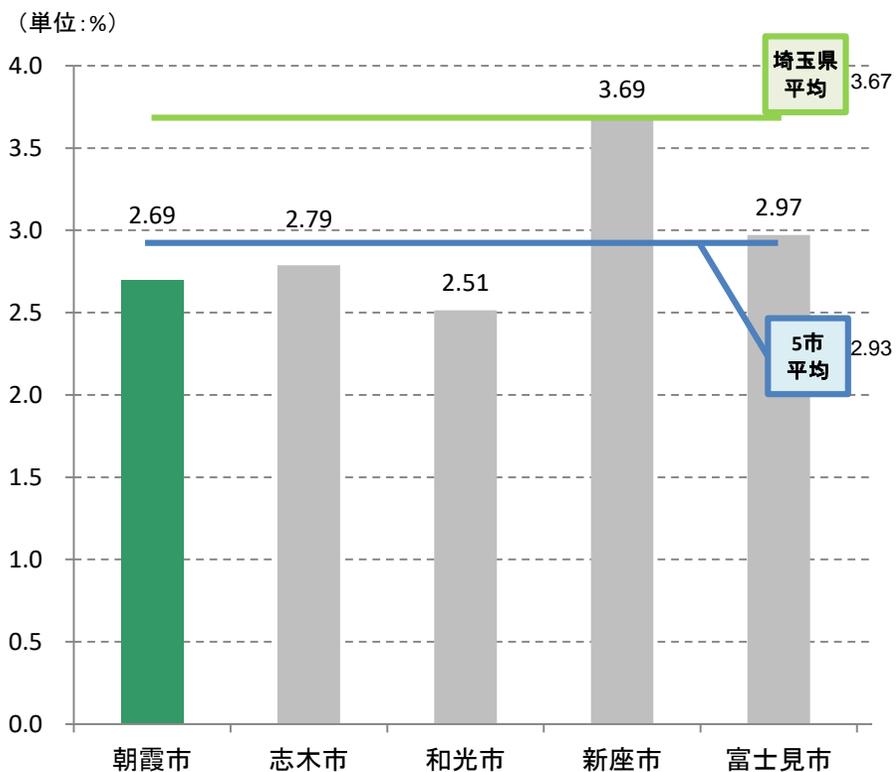
3-7-7. 空き家率(その他の住宅)

総住宅数に占める空き家(その他の住宅)の数は、比較自治体及び埼玉県平均を下回る水準のため、朝霞市の空き家率は、埼玉県において相対的に低いと考えられる。

※ 空き家の4つの区分(二次的住宅、賃貸用の住宅、売却用の住宅、その他の住宅)のうち、「その他の住宅」に分類される空き家は放置されている可能性があり、空き家対策においてはその数を減らしていくことが求められている。

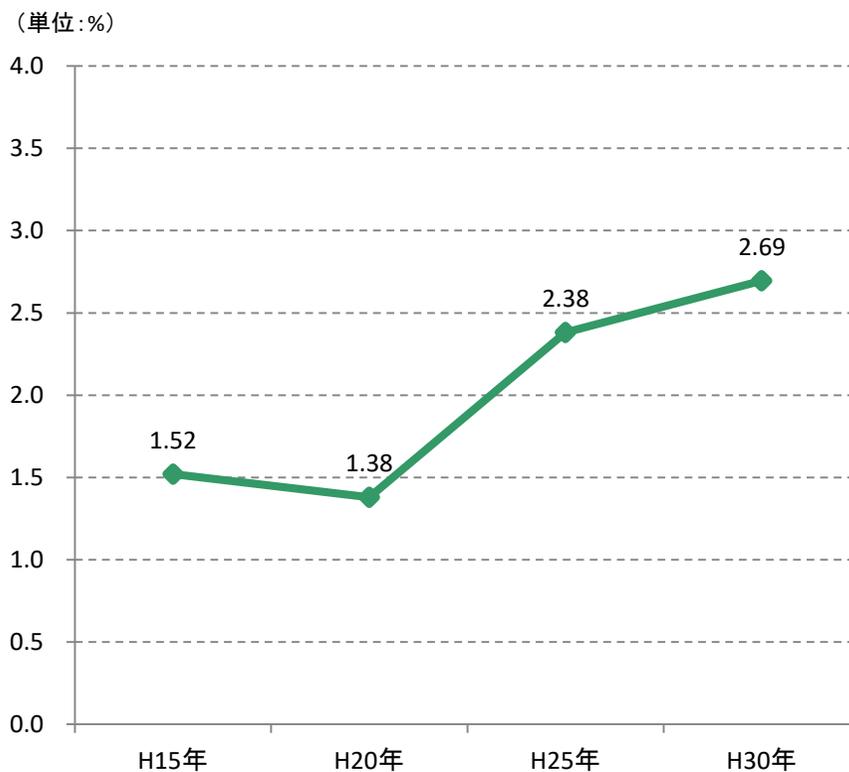
自治体間比較(平成30年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(2.93%)、埼玉県平均(3.67%)をとともに下回っている。



経年比較

- 過去4回分を比較すると、増加傾向で推移している。



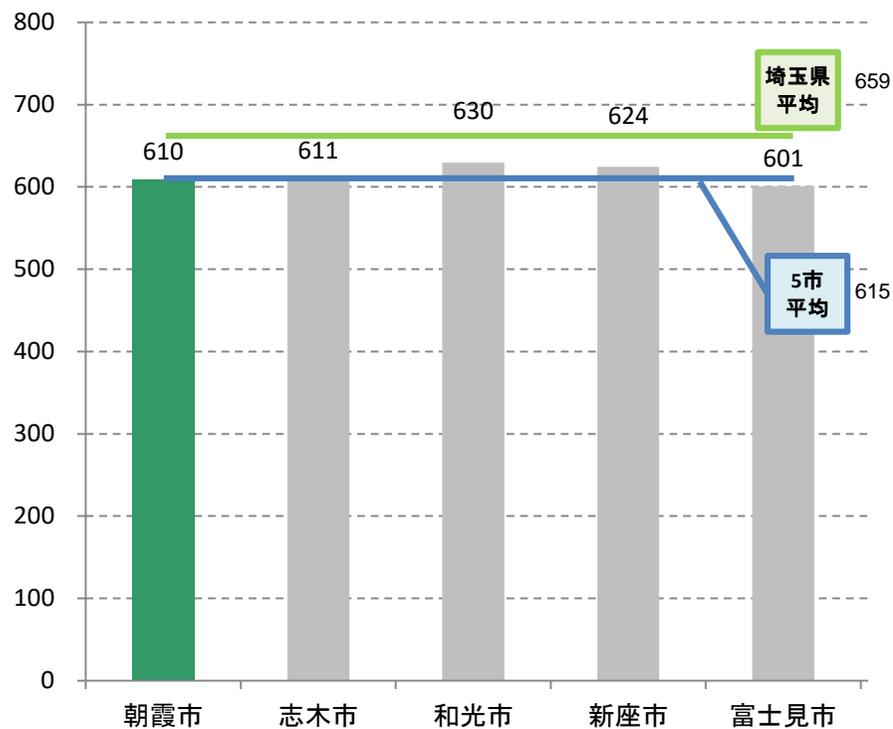
3-7-7.人口1人1日あたり生活系ごみ排出量

人口1人1日あたり生活系ごみ排出量は、埼玉県平均を下回る水準にあるため、朝霞市のごみの排出量は、埼玉県において少ないと考えられる。

自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は富士見市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(615g/人日)、埼玉県平均(659g/人日)をともに下回っている。

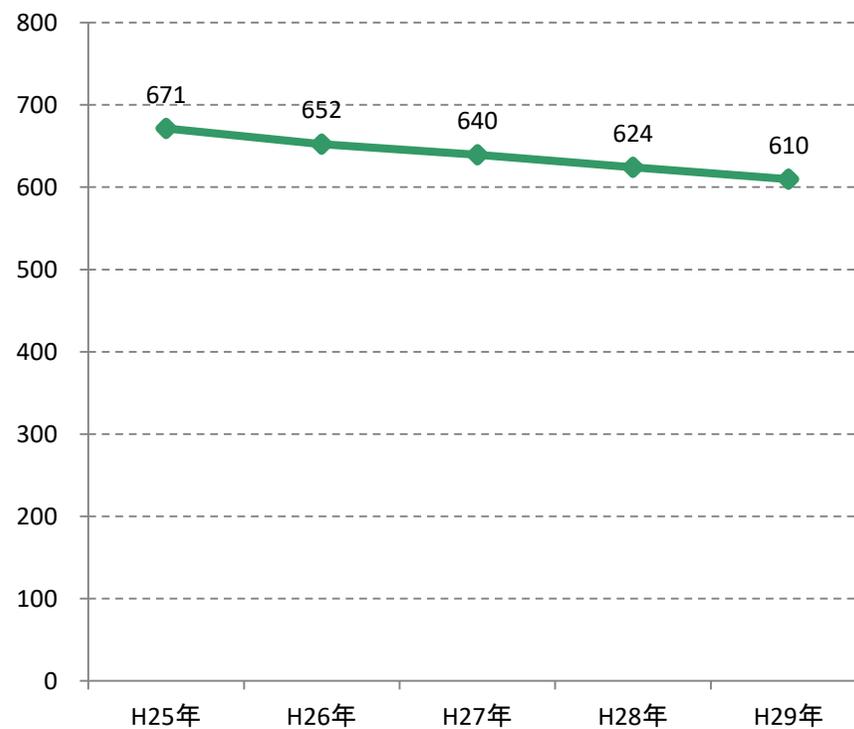
(単位:g/人日)



経年比較

- 過去5回分を比較すると、減少傾向で推移している。

(単位:g/人日)



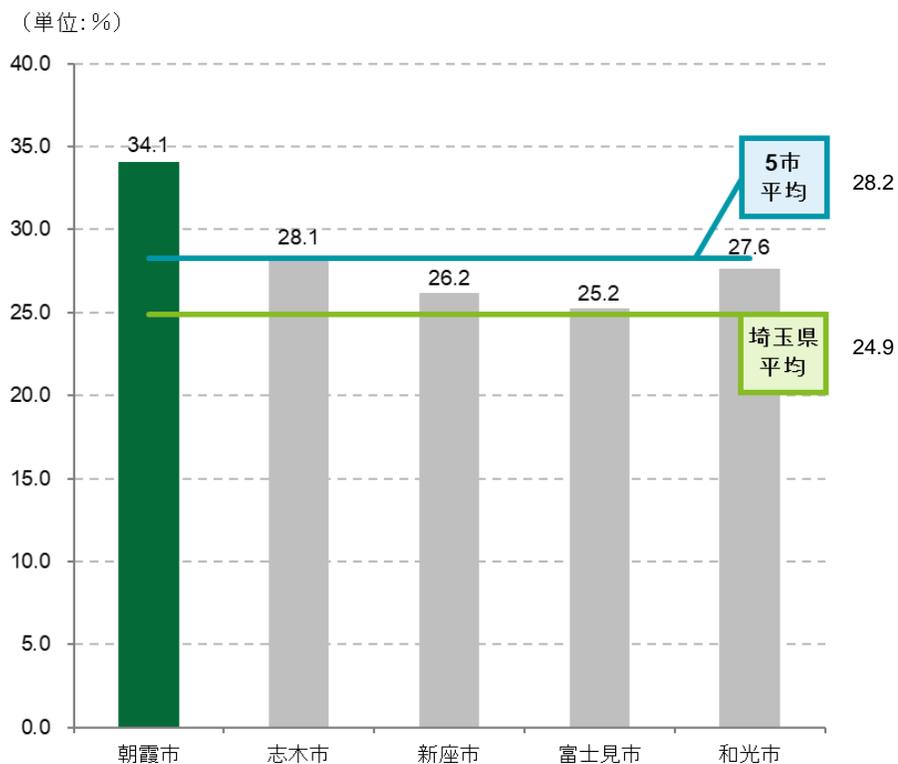
出所:環境省「一般廃棄物処理実態調査」

3-7-8. リサイクル率

朝霞市のリサイクル率は、比較自治体及び埼玉県平均を上回っており、またごみの総排出量も減少傾向にあるため(前頁参照)、リサイクルの取り組みが効果をあげていると考えられる。

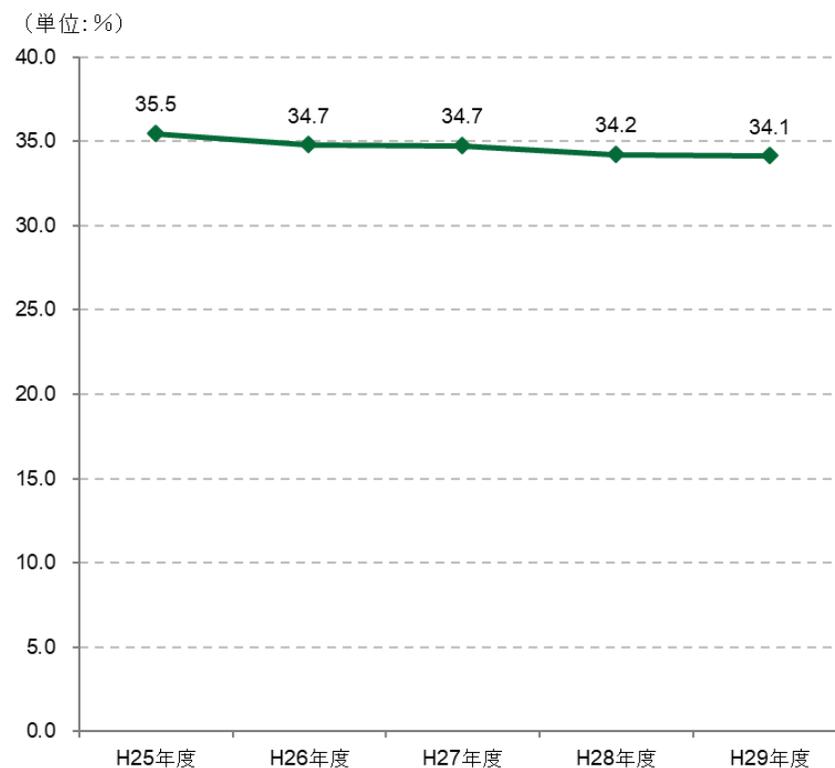
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は最も高い水準にある。
- 5市平均(28.2%)、埼玉県平均(24.9%)をともに上回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、減少傾向で推移している。



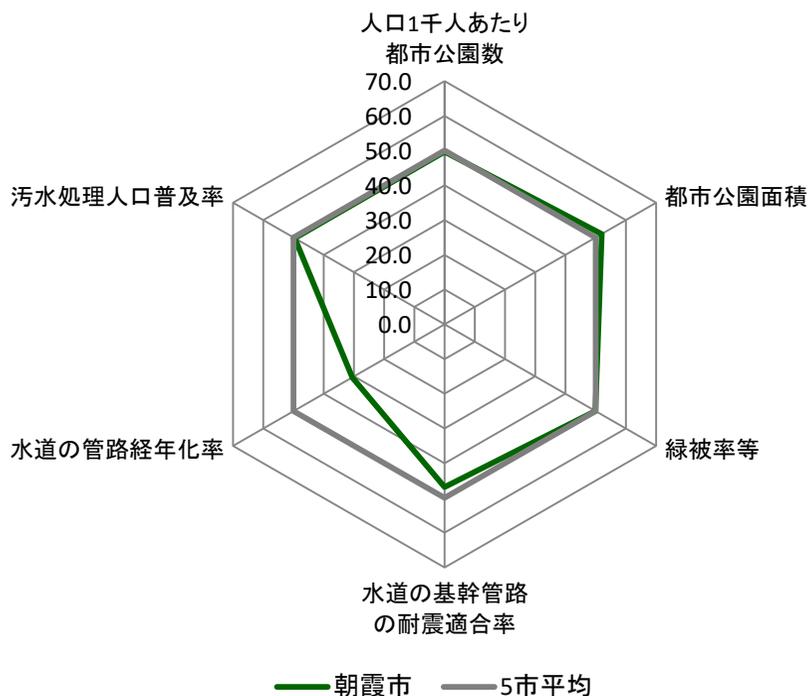
3-8. 都市基盤

分析結果総論

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	和光市	新座市	富士見市
1	人口1千人あたり都市公園数	箇所		0.287	0.291	2	49.7	0.270	0.149	0.268	0.482
2	都市公園面積	m ²		301,883	281,452	3	52.0	325,768	116,625	263,494	399,490
3	緑被率等	%		37.5	37.6	3	49.9	31.0	37.6	17.2	64.8
4	水道の基幹管路の耐震適合率	%		44.5	48.4	4	46.9	52.5	67.3	28.7	48.8
5	水道の管路経年化率	%	※	21.44	7.35	5	30.6	4.6	1.5	6.6	2.7
6	汚水処理人口普及率	人		98.2	98.3	4	49.6	99.6	99.1	95.6	98.8

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

レーダーチャート



分析コメント

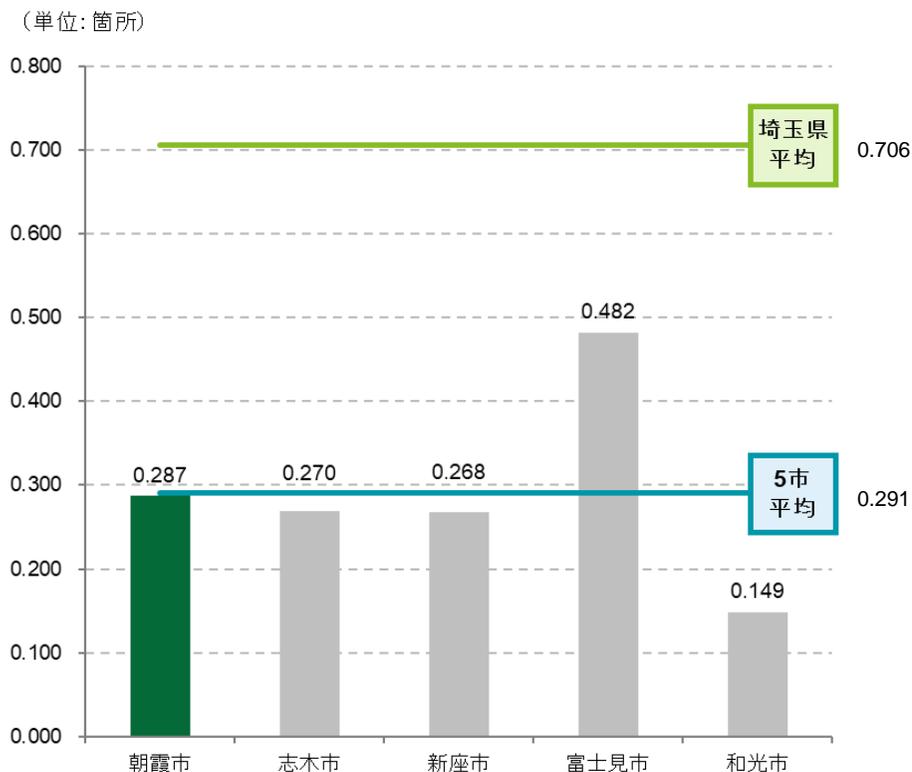
- 「都市公園面積」の偏差値は比較自治体の平均よりも高い。
- 「人口1千人あたり都市公園数」、「汚水処理人口普及率」、「緑被率等」の偏差値は比較自治体の平均と同程度である。
- 「水道の基幹管路の耐震適合率」、「水道の管路経年化率」の偏差値は比較自治体の平均よりも低い。
- 「水道の管路の経年化率」の数値が比較自治体の中で高く、計画的に更新することが必要と考えられる。
- 「汚水処理人口普及率」の数値は比較自治体の平均と同程度ではあるが、下水道管の整備時期は、昭和50年代のものが多く、今後更新時期を迎える管路が急増するため、計画的に更新することが必要と考えられる。

3-8-1. 人口1千人あたり都市公園数

総人口に対する都市公園数は、比較自治体平均と同じ水準にあるものの、埼玉県平均を下回る水準にあるため、朝霞市の公園の整備状況は、埼玉県において、低い水準にあると考えられる。

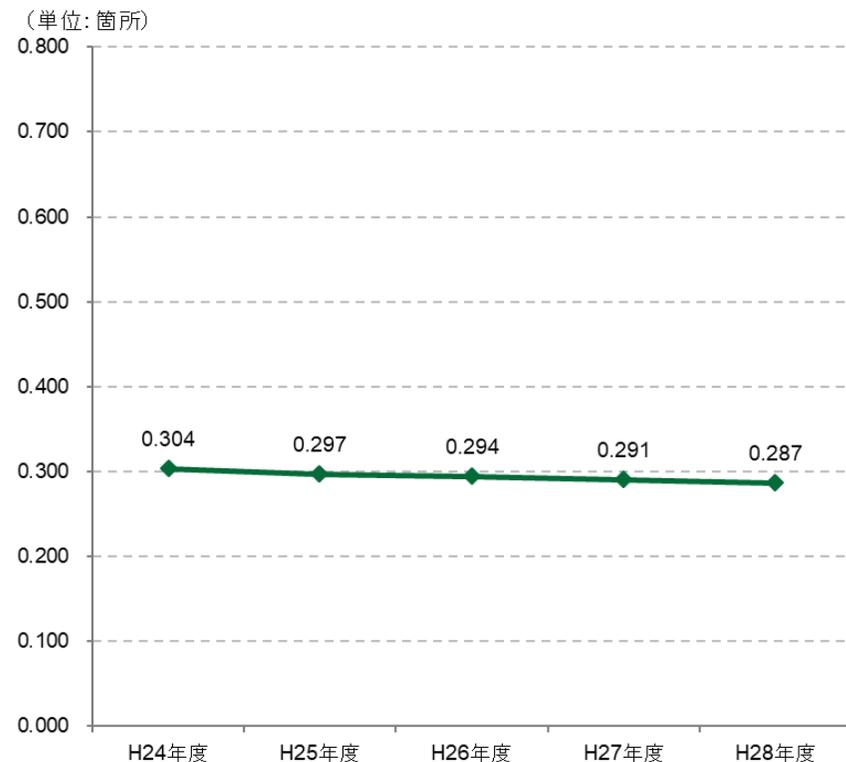
自治体間比較(平成28年)

- 朝霞市は富士見市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(0.291箇所)、埼玉県平均(0.706箇所)をともに下回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、減少傾向で推移している。



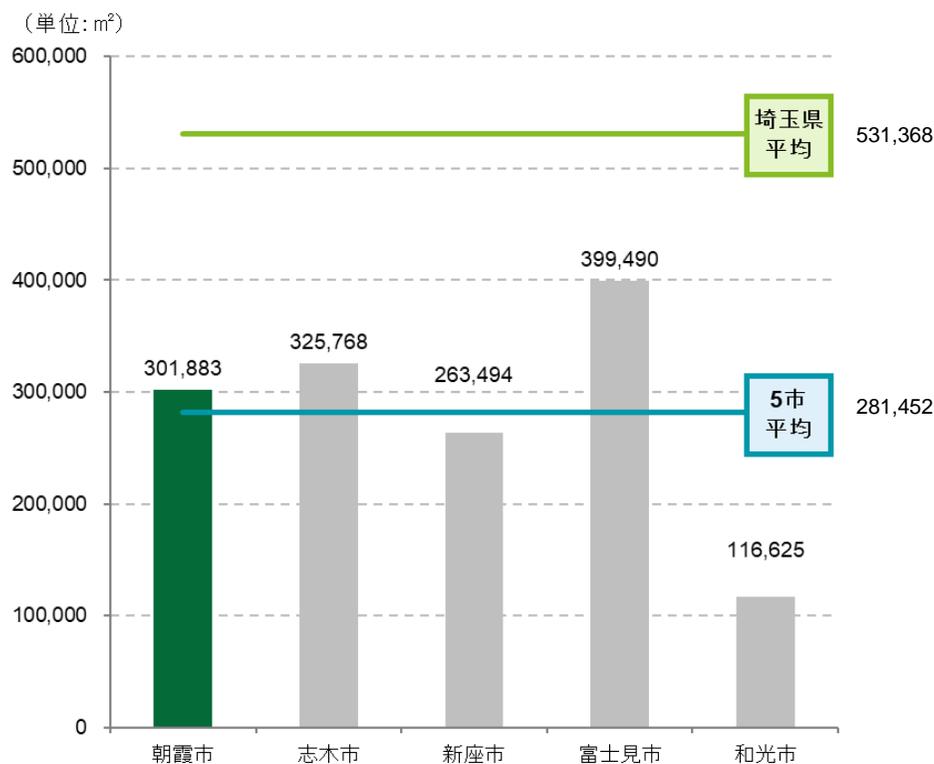
出所:総務省「公共施設状況調経年比較表」

3-8-2. 都市公園面積

都市公園面積は、比較自治体平均より高い水準にあるものの、埼玉県平均より低い水準にある。

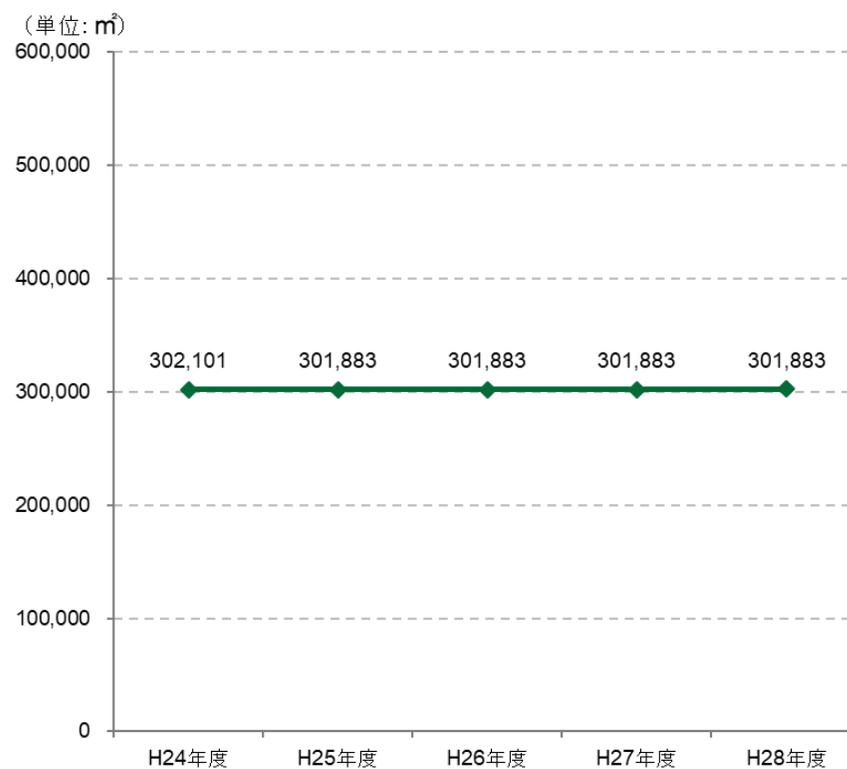
自治体間比較(平成28年)

- 朝霞市は富士見市、志木市に次いで3番目に高い水準にある。
- 5市平均(281,452㎡)を上回っているが、埼玉県平均(531,368㎡)を下回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、横ばいで推移している。



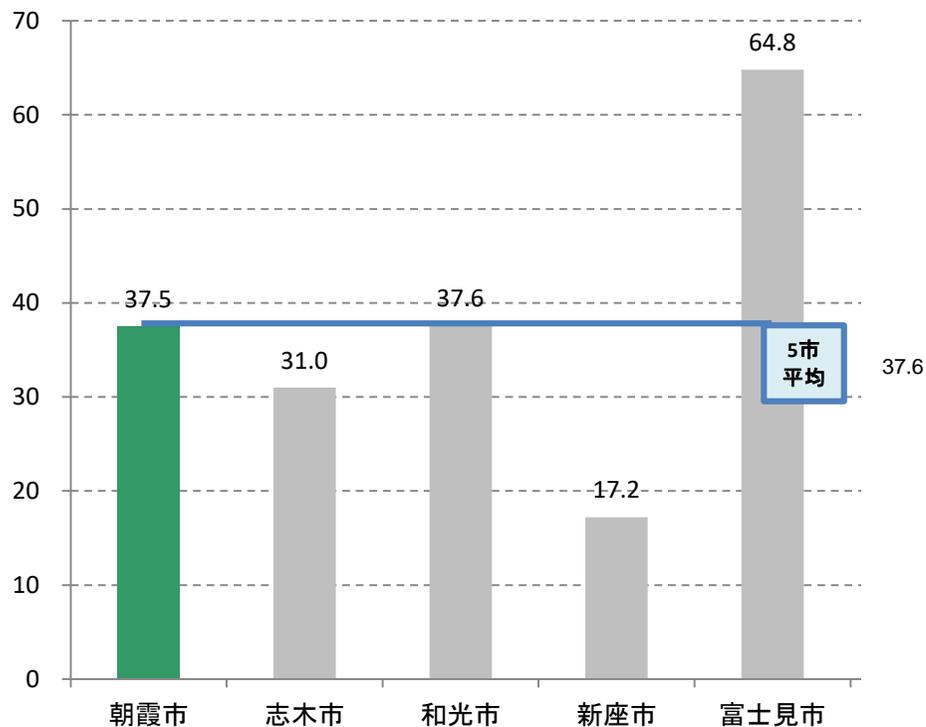
3-8-3. 緑被率等

緑被率等は、比較自治体の平均と同程度であるが、経年比較では減少傾向で推移しており、人口増加に伴う宅地需要の高まりから緑地の量が減少しているものと考えられる。

自治体間比較(平成30年)

- 他自治体と比較すると、朝霞市は富士見市、和光市に次いで3番目に高い水準にある。
- 5市平均(37.6%)とほぼ同じである。

(単位:%)

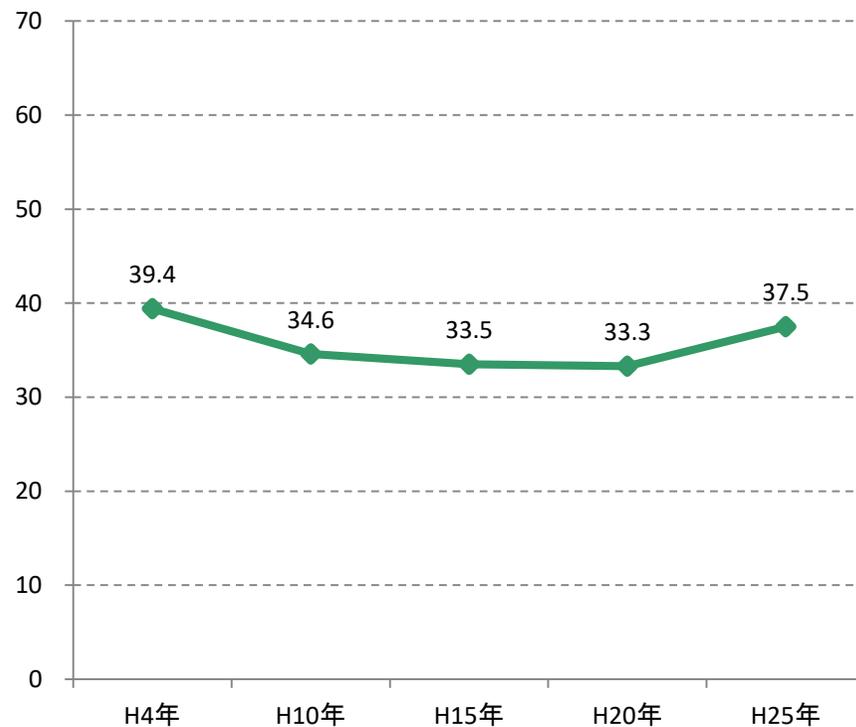


経年比較

- 過去5回分を比較すると、減少傾向で推移している。

※ 平成20年から平成25年の間については緑被率が上昇しているが、調査精度の向上が主な要因であり、実態としては緩やかな減少が続いている。

(単位:%)



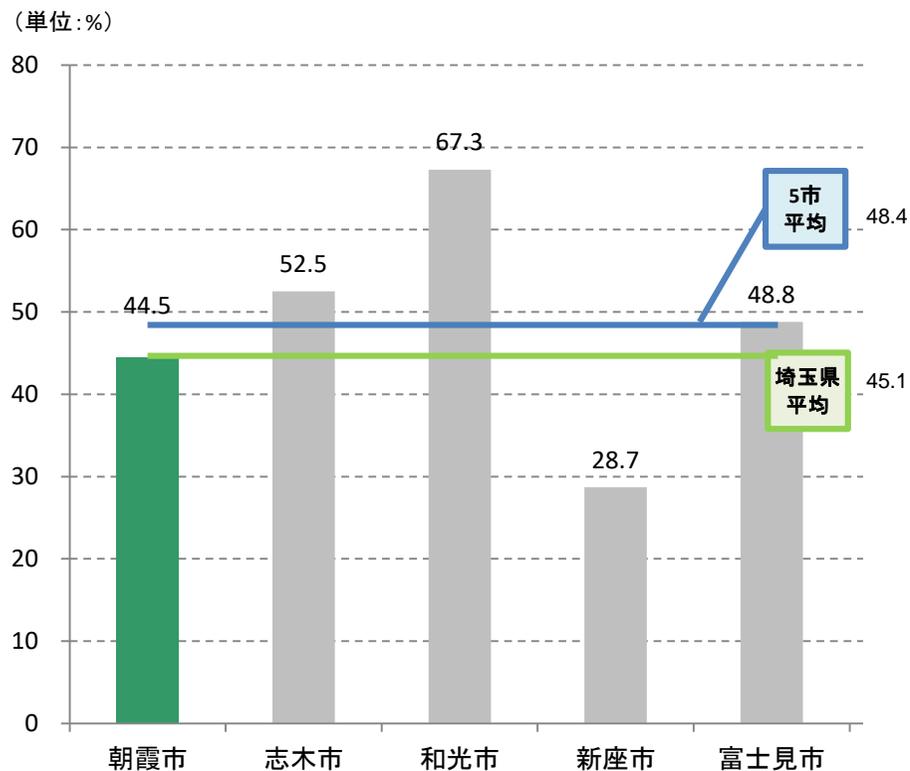
出所:朝霞市「緑被率経年変化調査」

3-8-4. 水道の基幹管路の耐震適合率

水道の基幹管路の耐震適合率は、比較自治体及び埼玉県平均より低い水準であるため、朝霞市の水道管の耐震化状況は、耐震化率向上に向けた取り組みが必要だと考えられる。

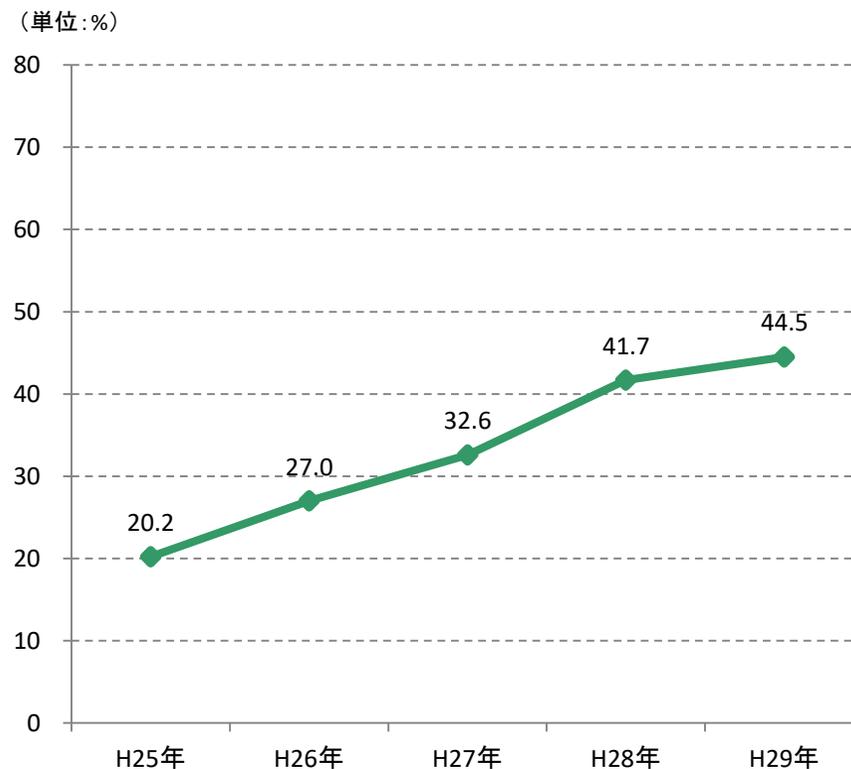
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は新座市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(48.4%)を下回っているが、埼玉県平均(45.1%)とほぼ同じ水準である。



経年比較

- 過去5年分を比較すると、増加で推移している。



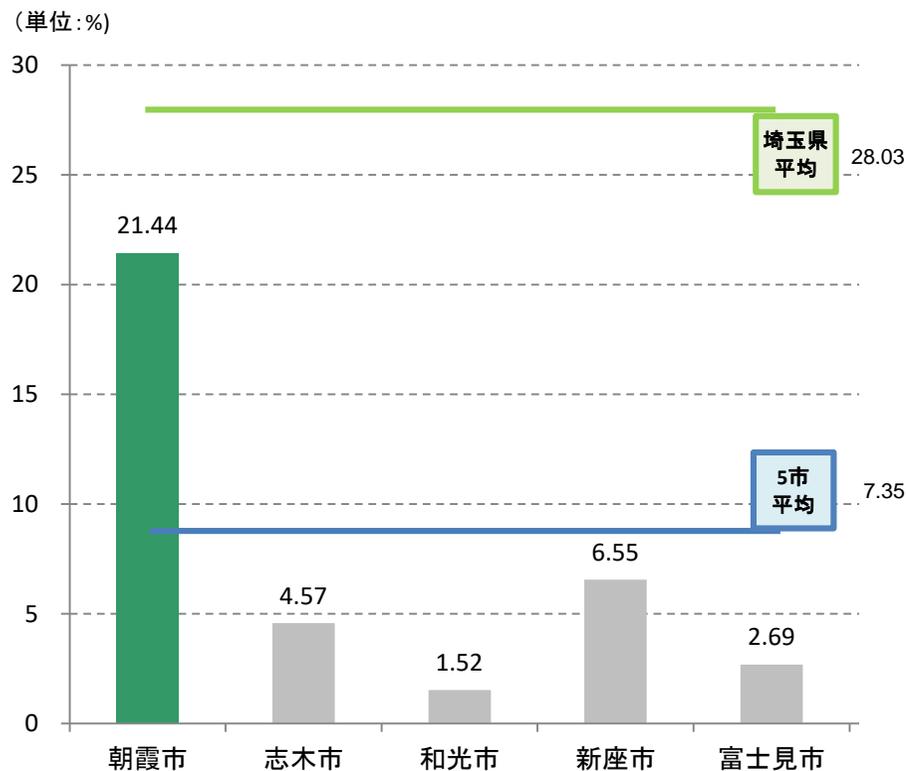
出所:厚生労働省「水道事業における耐震化の状況」

3-8-5. 水道の管路経年化率

水道の管路経年化率は比較自治体の中で最も高く、計画的に管路を更新することが課題と考えられる。

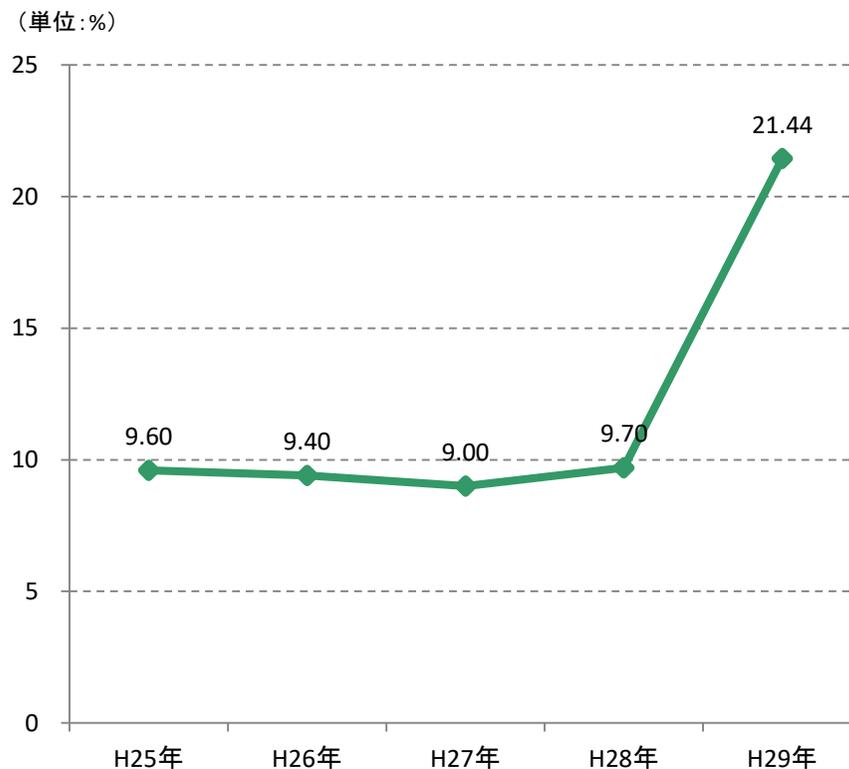
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は最も高い水準にある。
- 5市平均(7.35%)を上回っているが、埼玉県平均(28.03%)より下回っている。



経年比較

- 過去5年分を比較すると、横ばいから増加の傾向を示している。



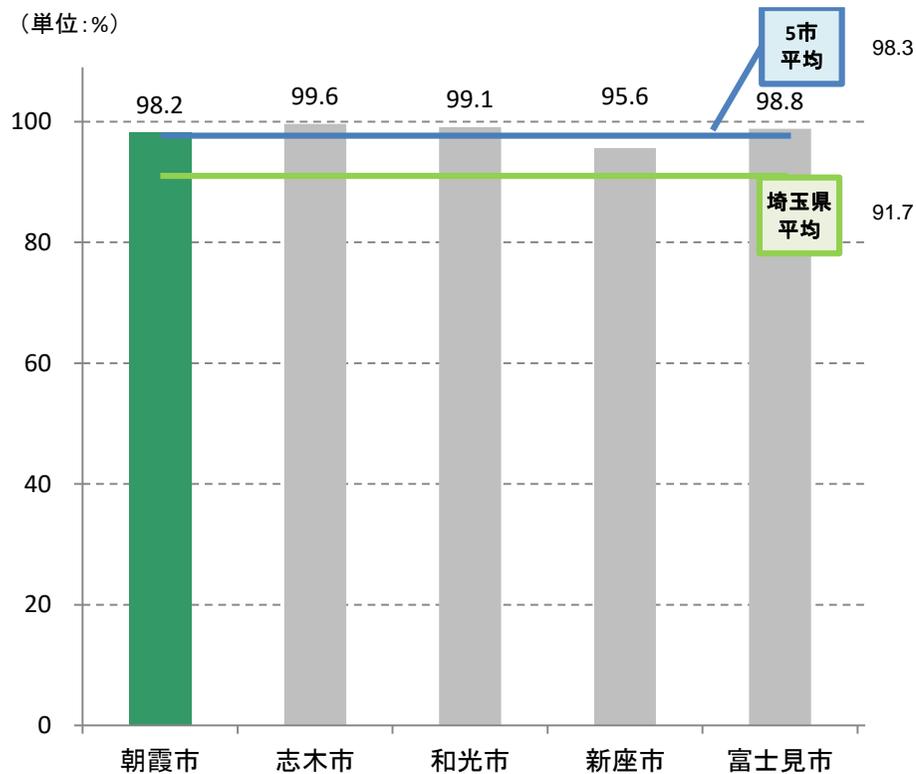
出所:埼玉県「経営比較分析表」

3-8-6. 汚水処理人口普及率

汚水処理人口普及率は増加傾向にあり、埼玉県平均より高い水準にあるものの、比較自治体の平均と同じ水準にある。今後は旧暫定逆線引き地区の整備に併せて、下水道管の整備を進める必要がある。

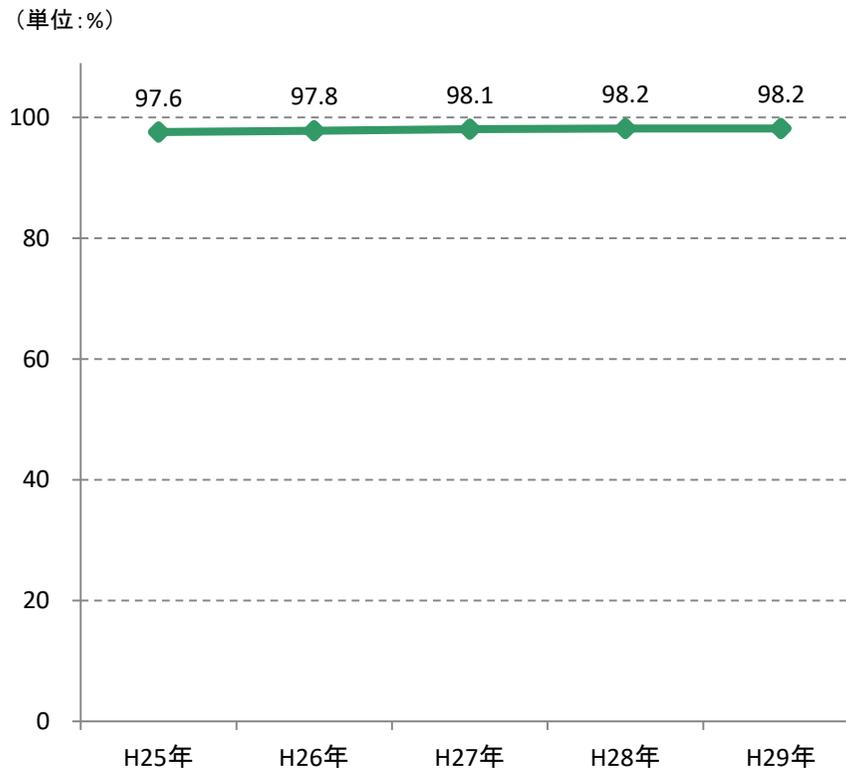
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は新座市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(98.3%)と同程度であるが、埼玉県平均(91.7%)を上回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、増加傾向で推移している。



出所:環境省「汚水処理人口普及状況」

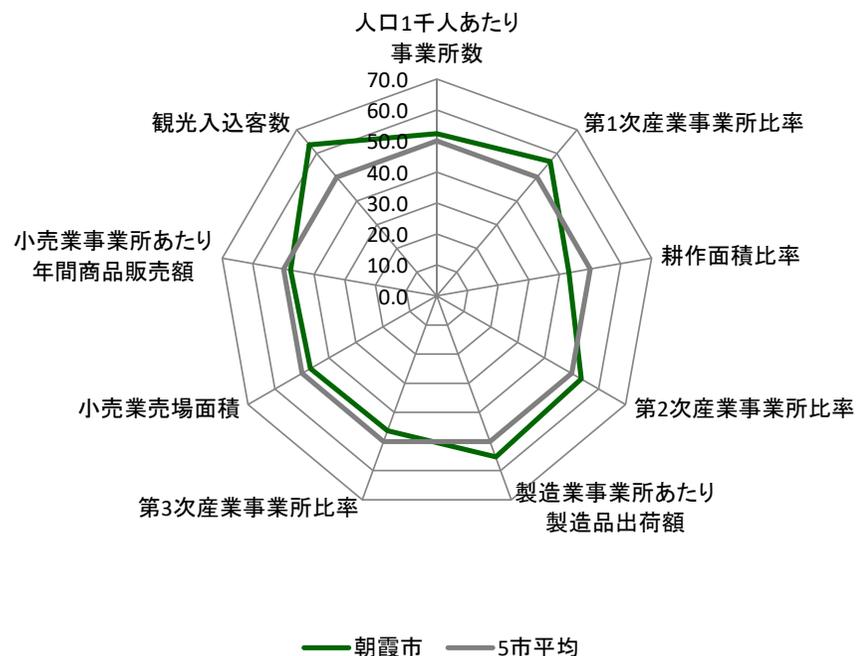
3-9. 産業

分析結果総論

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	和光市	新座市	富士見市
1	人口1千人あたり事業所数	事業所		28.3	27.6	3	52.4	29.2	23.1	31.0	26.2
2	第1次産業事業所比率	%		0.16	0.14	2	56.6	0.19	0.11	0.12	0.11
3	耕作面積比率	%		9.1	14.6	4	43.1	12.5	9.0	14.2	28.2
4	第2次産業事業所比率	%		24.5	23.1	2	53.6	23.0	23.1	27.9	17.1
5	製造業事業所あたり製造品出荷額	百万円		500.6	430.8	2	55.3	234.8	460.7	581.7	376.1
6	第3次産業事業所比率	%		75.3	76.7	4	46.3	76.8	76.8	72.0	82.7
7	小売業売場面積	m ²		54,151	66,740	2	46.8	50,614	48,470	136,988	43,475
8	小売業事業所あたり年間商品販売額	百万円		175	186	3	47.7	169	264	196	126
9	観光入込客数	人		806,500	426,911	1	63.7	147,000	252,102	625,756	303,196

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

レーダーチャート



分析コメント

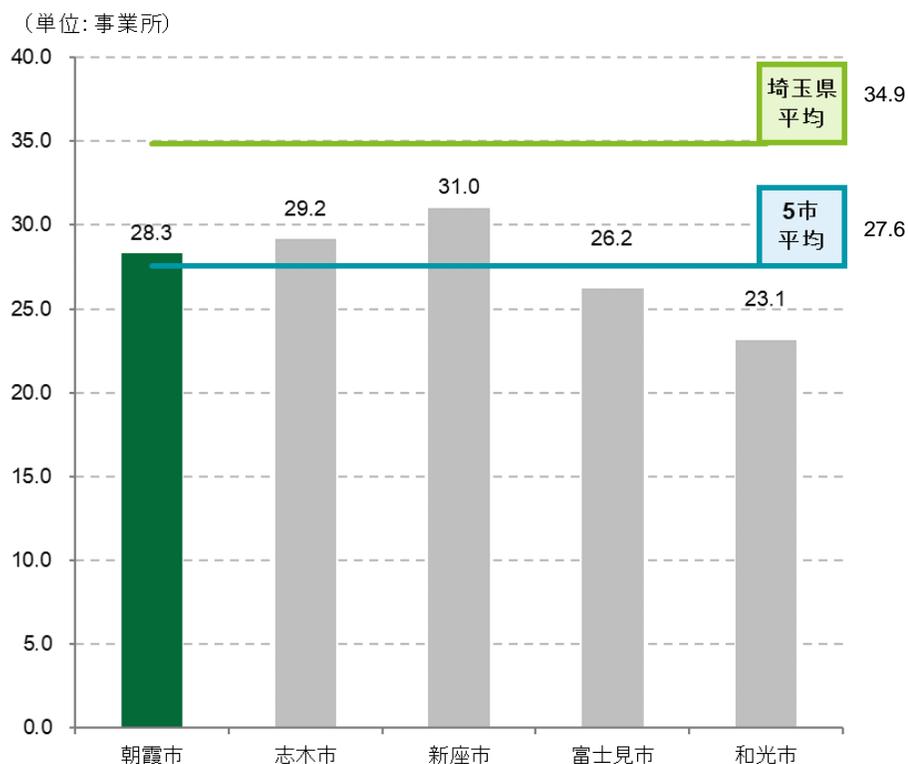
- 「人口1千人あたり事業所数」、「第1次産業事業所比率」、「第2次産業事業所比率」、「製造業事業所あたり製造品出荷額」、「観光入込客数」の偏差値は比較自治体よりも高く、特に「観光入込客数」の数値は比較自治体の中で最も高い水準となっている。
- 「耕作面積比率」、「第3次産業事業所比率」、「小売業売場面積」、「小売業事業所あたり年間商品販売額」の偏差値は比較自治体の平均よりも低い。
- 市内事業所数は減少傾向にあり、特に第2次産業においては産業全体から見る事業者比率の内訳としても減少傾向にあることから、減少の傾向が顕著であることがうかがえる。

3-9-1. 人口1千人あたり事業所数

総人口に対する事業所数は、比較自治体平均を上回っているが、経年比較では減少傾向で推移しており、人口規模に対して朝霞市内の雇用の受け皿が減少している。

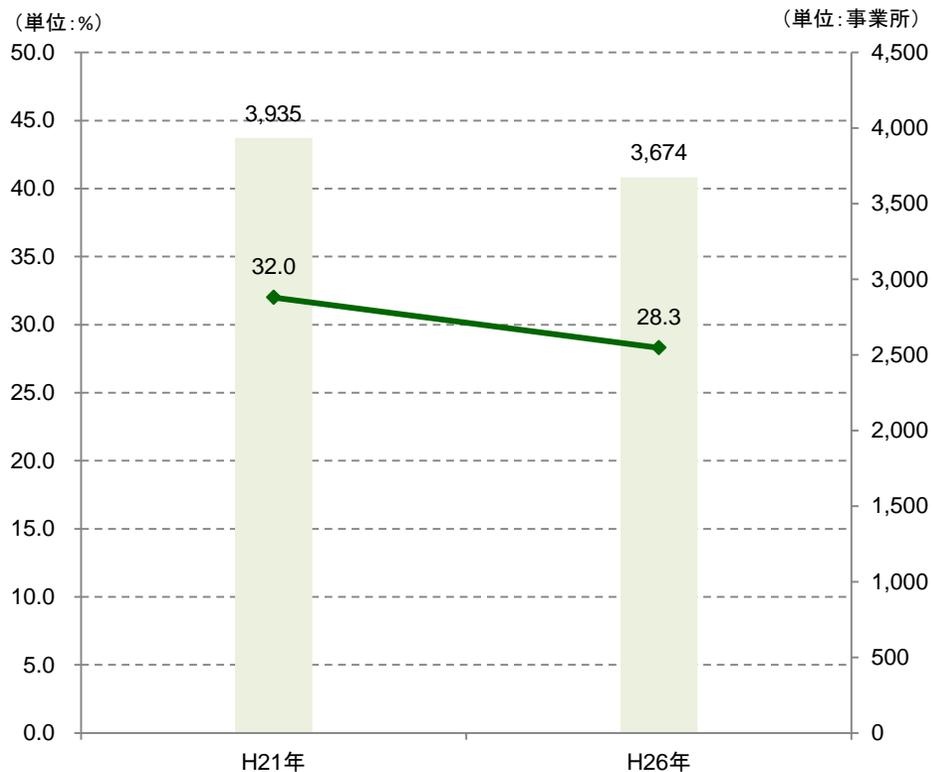
自治体間比較(平成26年)

- 朝霞市は新座市、志木市に次いで3番目に高い水準にある。
- 5市平均(27.6事業所)を上回っているが、埼玉県平均(34.9事業所)を下回っている。



経年比較

- 過去2回分を比較すると、減少傾向で推移している。



出所:総務省「経済センサス-基礎調査」

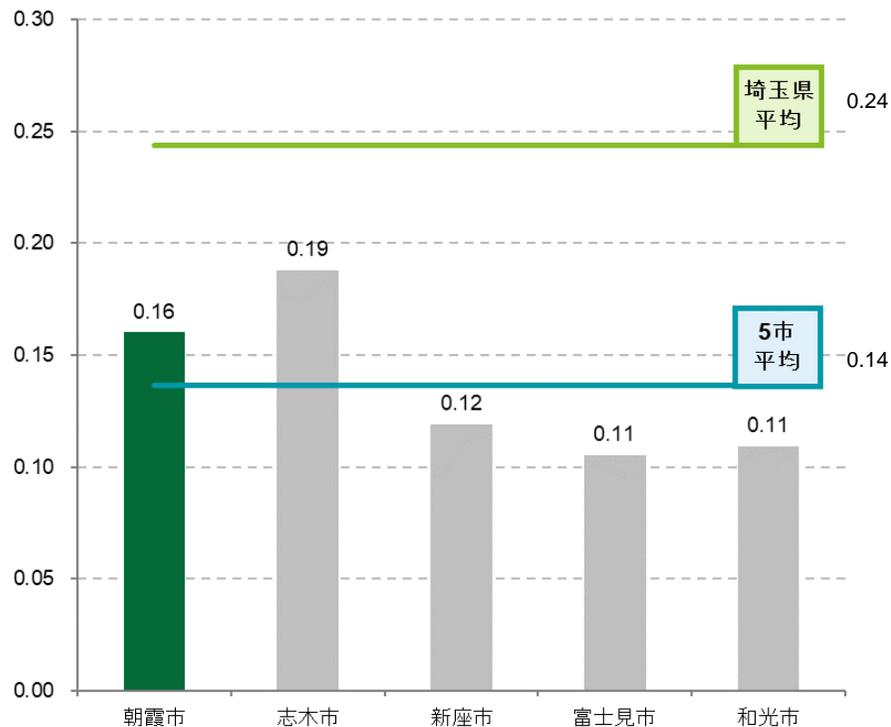
3-9-2. 第1次産業事業所比率

全事業所に占める第1次産業事業所の数は、比較自治体平均を上回る水準だが、埼玉県平均を下回る水準となっており、埼玉県においては第1次産業事業所が少ない自治体である。

自治体間比較(平成26年)

- 朝霞市は志木市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(0.14%)を上回っているが、埼玉県平均(0.24%)は下回っている。

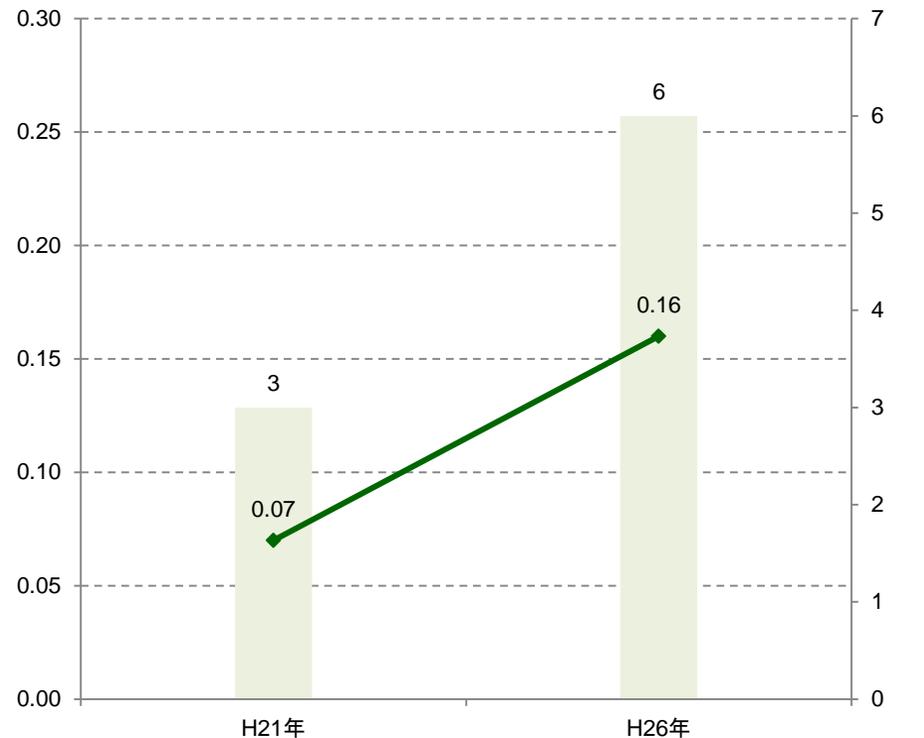
(単位: %)



経年比較

- 過去2回分を比較すると、増加傾向で推移している。

(単位: %)

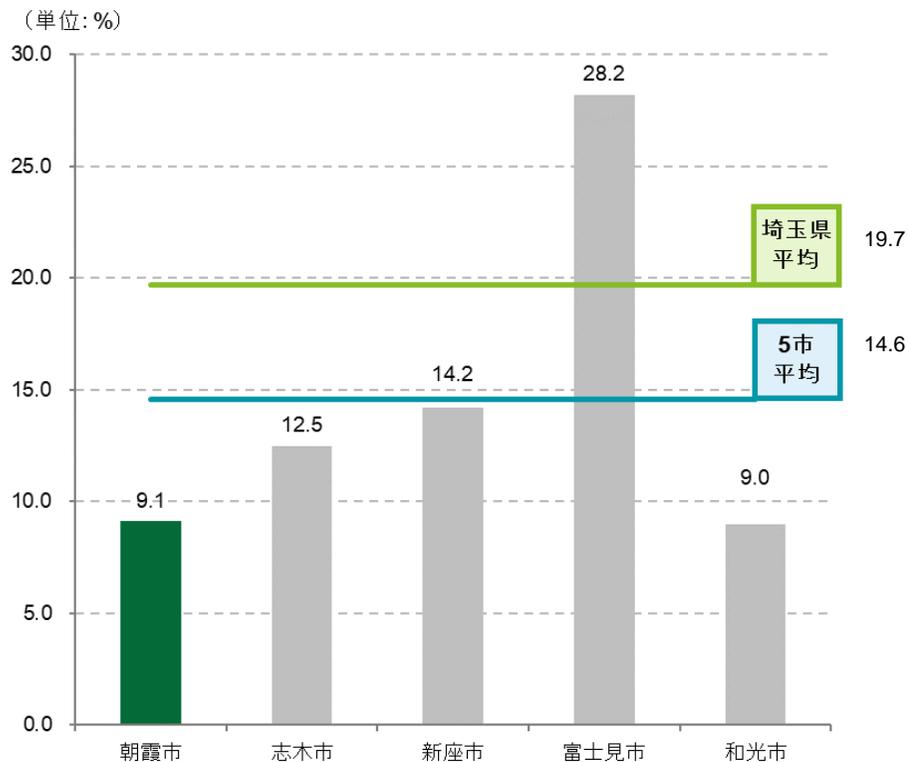


3-9-3. 耕作面積比率

総面積に占める耕作面積は、比較自治体及び埼玉県平均を下回る水準であり、朝霞市の農業の規模は、埼玉県において相対的に小さいと考えられる。

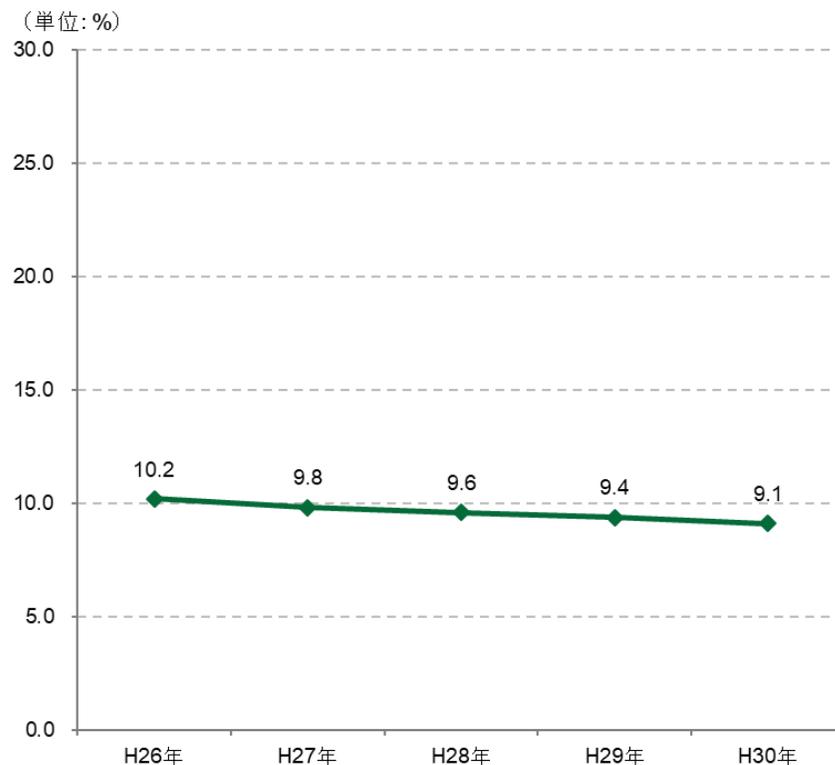
自治体間比較(平成30年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(14.6%)、埼玉県平均(19.7%)をともに下回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、減少傾向で推移している。

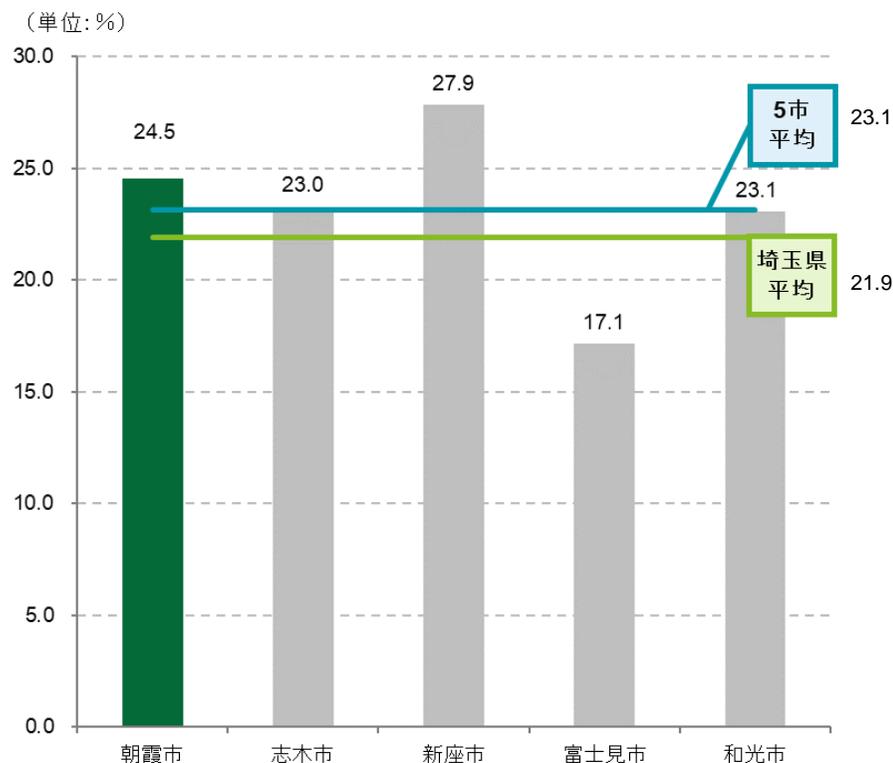


3-9-4. 第2次産業事業所比率

全事業所数に占める第2次産業事業所の比率は、比較自治体及び埼玉県平均と比べて高い水準にあり、朝霞市の建設・製造業は、埼玉県内において相対的に盛んであると考えられる。

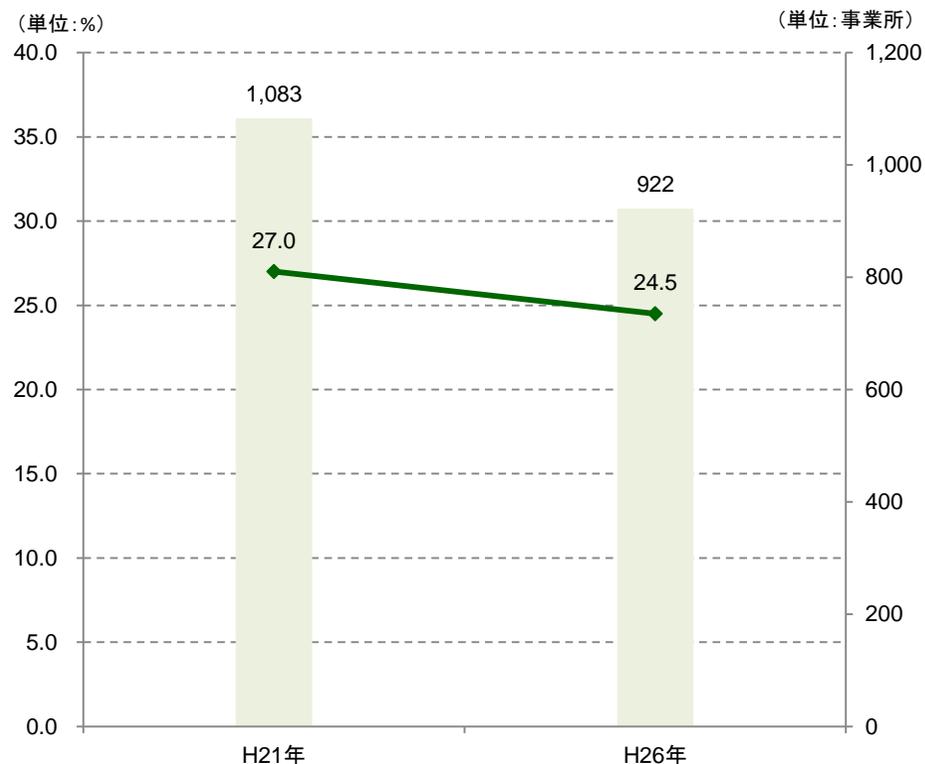
自治体間比較(平成26年)

- 朝霞市は新座市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(23.1%)、埼玉県平均(21.9%)をともに上回っている。



経年比較

- 過去2回分を比較すると、減少傾向で推移している。



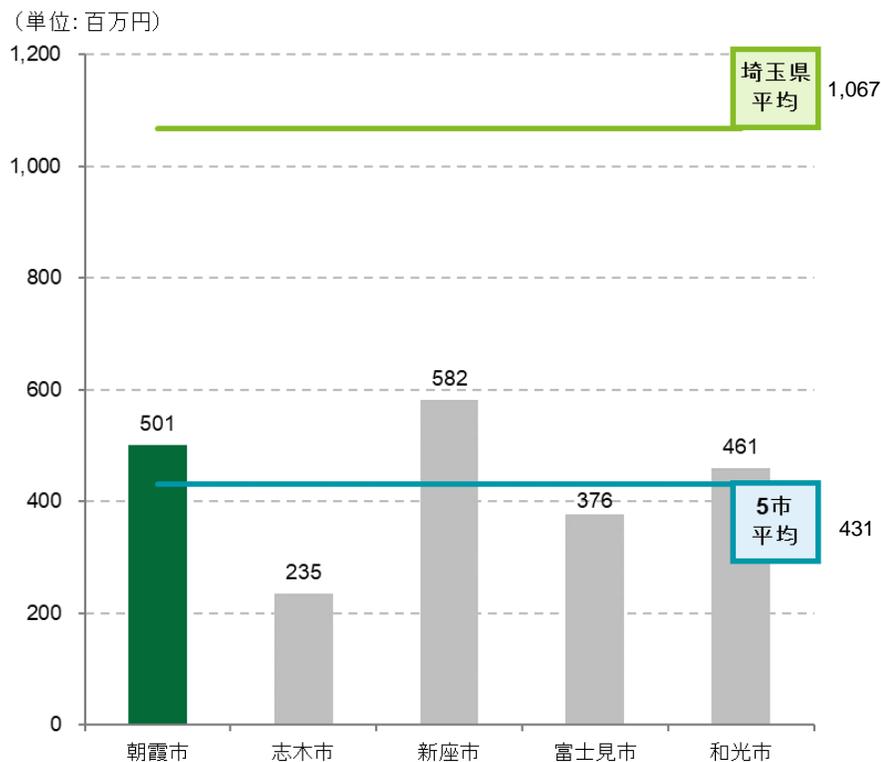
出所:総務省「経済センサス-基礎調査」

3-9-5. 製造業事業所あたり製造品出荷額

1 製造事業所あたりの製造品出荷額は、比較自治体平均を上回っており、経年比較においても増加傾向にある。

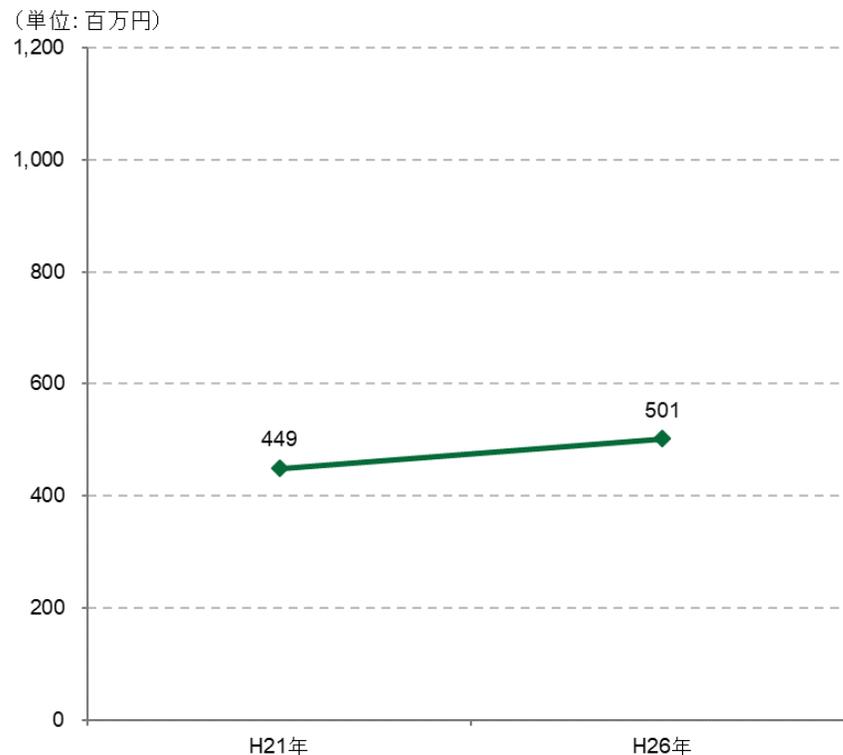
自治体間比較(平成26年)

- 朝霞市は新座市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(431百万円)を上回っているが、埼玉県平均(1,067百万円)を下回っている。



経年比較

- 過去2回分を比較すると、増加傾向で推移している。



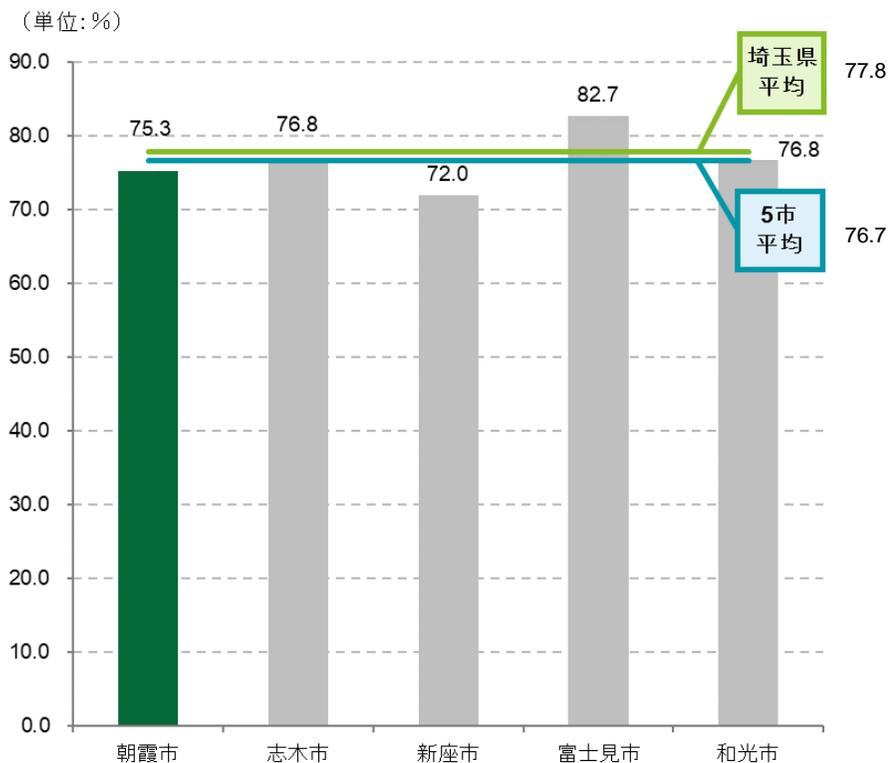
出所:総務省「経済センサス-活動調査」

3-9-6. 第3次産業事業所比率

全事業所に占める第3次産業事業所の比率は、比較自治体及び埼玉県平均と同程度の水準にあり、経年比較では増加傾向で推移している。

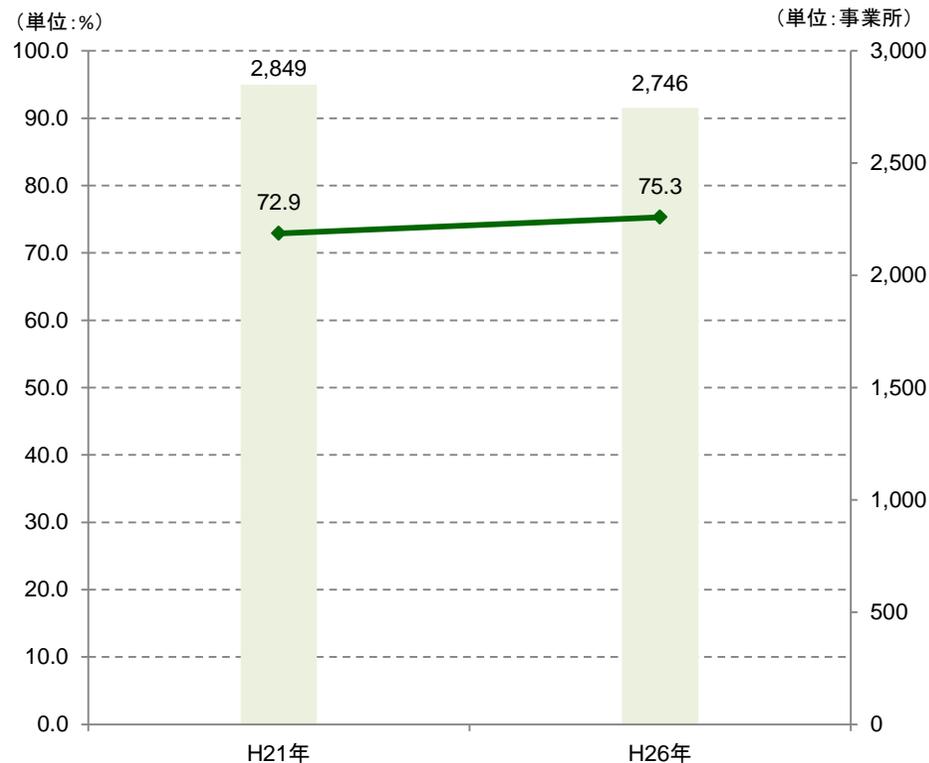
自治体間比較(平成26年)

- 朝霞市は富士見市、志木市、和光市に次いで4番目に高い水準にある。
- 5市平均(76.7%)、埼玉県平均(77.8%)をともに下回っている。



経年比較

- 過去2回分を比較すると、増加傾向で推移している。

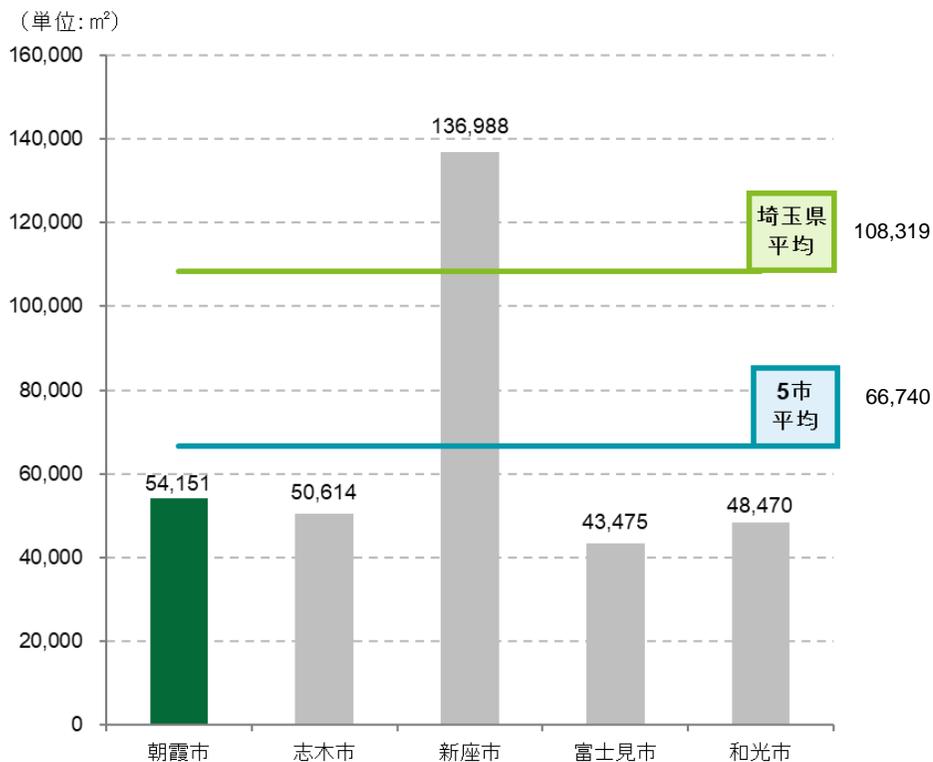


3-9-7. 小売業売場面積

小売業の売り場面積は、比較自治体及び埼玉県平均をいずれも下回っており、経年比較でも減少傾向にある。

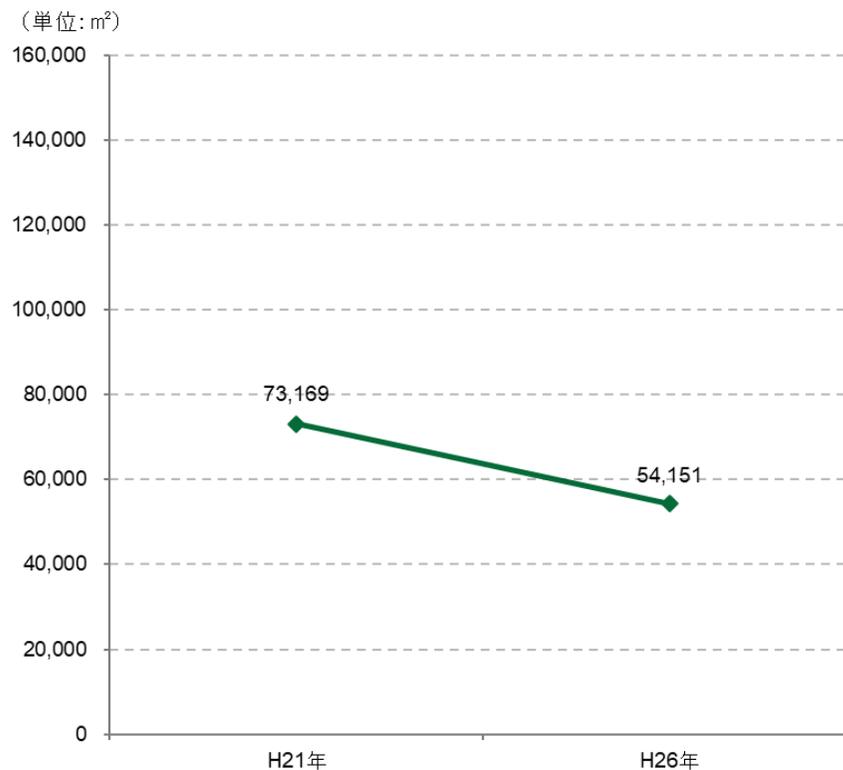
自治体間比較(平成26年)

- 朝霞市は新座市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(66,740㎡)、埼玉県平均(108,319㎡)をともに下回っている。



経年比較

- 過去2回分を比較すると、減少傾向で推移している。



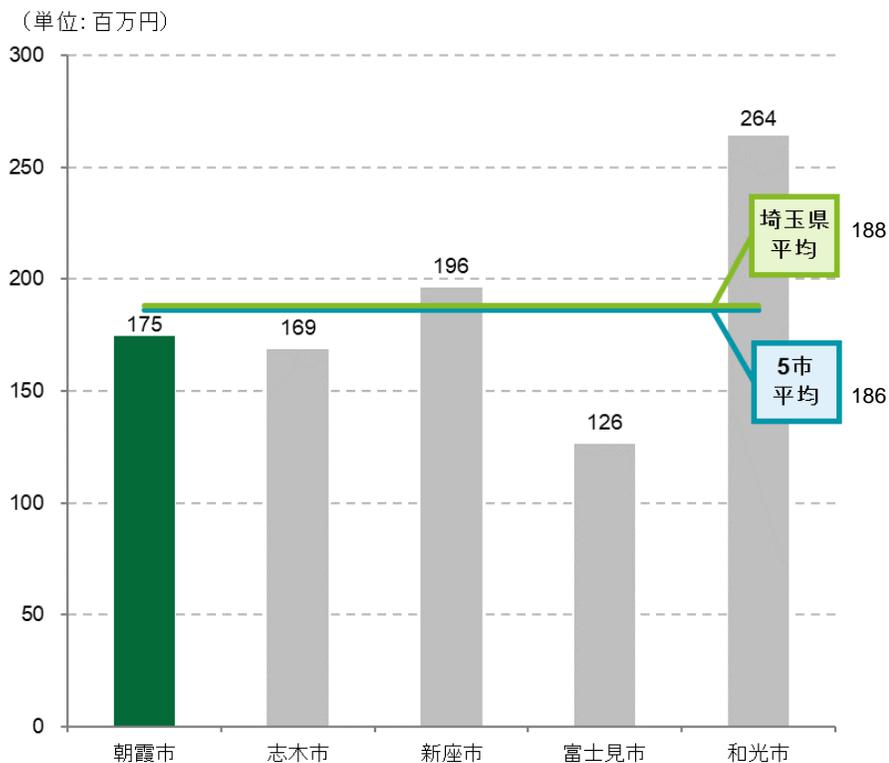
出所: 総務省「経済センサス-基礎調査」

3-9-8. 小売業事業所あたり年間商品販売額

1 小売業事業所あたりの年間商品販売額は、比較自治体及び埼玉県平均と同程度の水準にあり、経年比較では増加傾向で推移している。

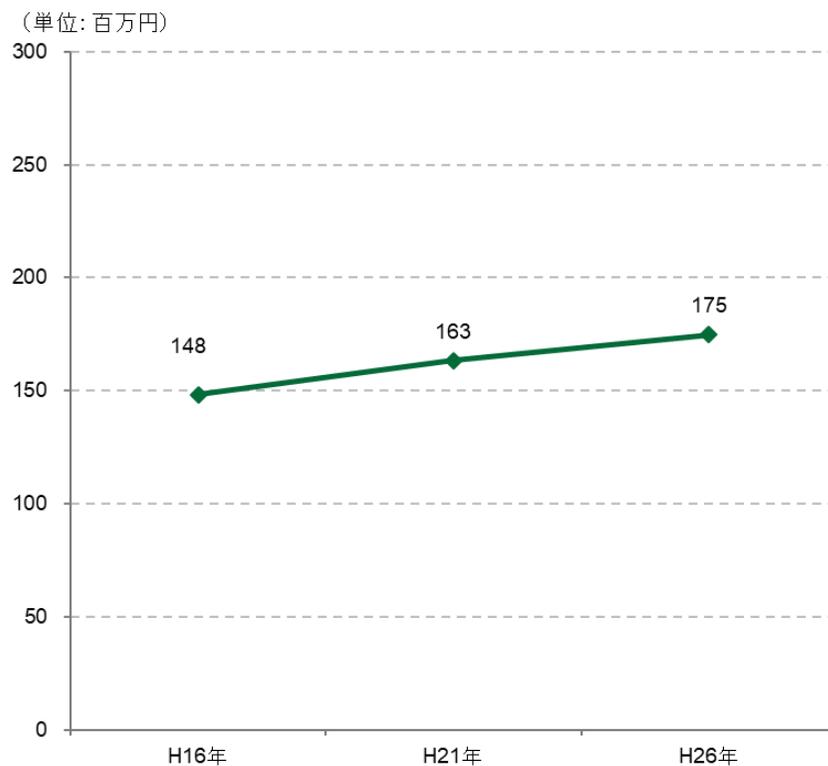
自治体間比較(平成26年)

- 朝霞市は和光市、新座市に次いで3番目に高い水準にある。
- 5市平均(186百万円)、埼玉県平均(188百万円)をともに下回っている。



経年比較

- 過去3回分を比較すると、増加傾向で推移している。

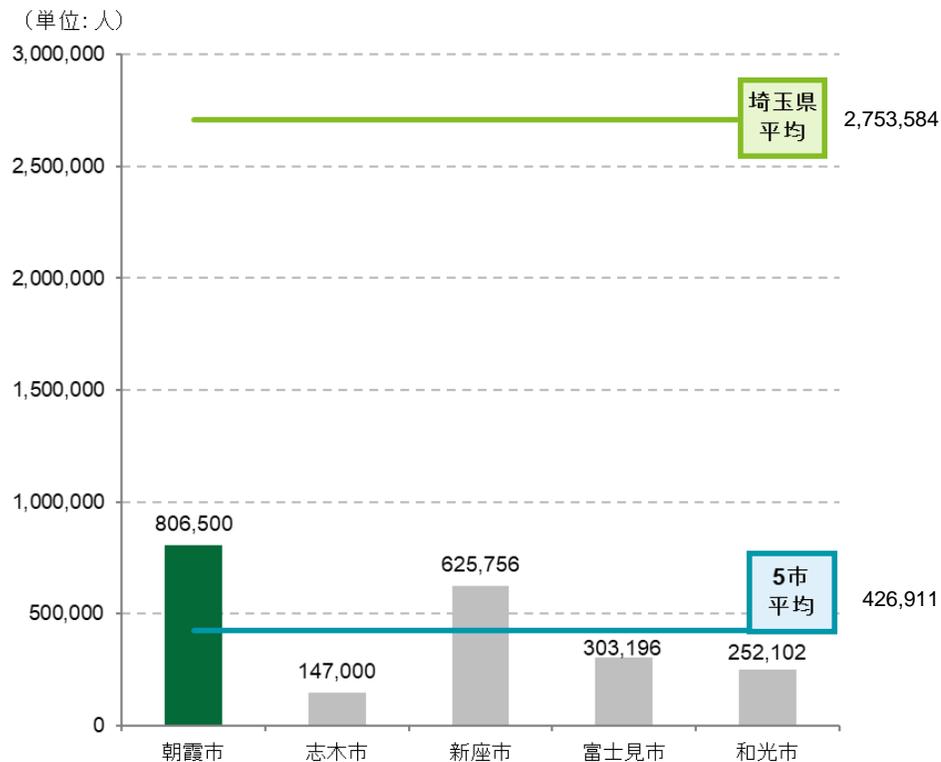


3-9-9. 観光入込客数

観光入込客数は、比較自治体の中で高い水準にあるが、埼玉県平均を大きく下回っているため、朝霞市の観光客の数は、埼玉県において相対的に少ないと考えられる。

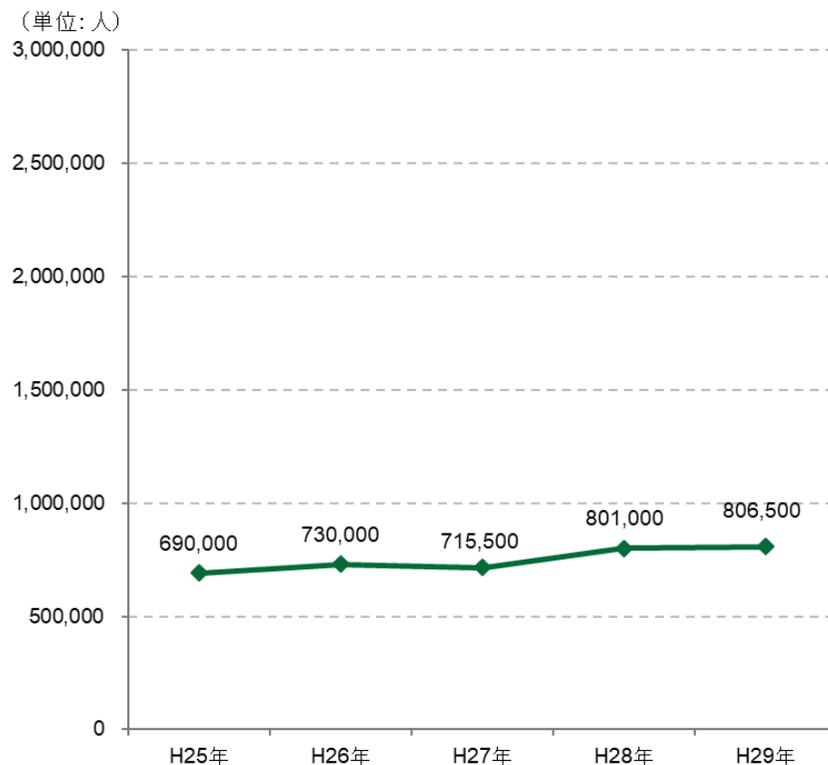
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は最も高い水準にある。
- 5市平均(426,911人)を上回っているが、埼玉県平均(2,753,584人)を下回っている。



経年比較

- 平成27年に減少したものの、平成28年には増加している。



出所: 埼玉県「埼玉県観光入込客統計」

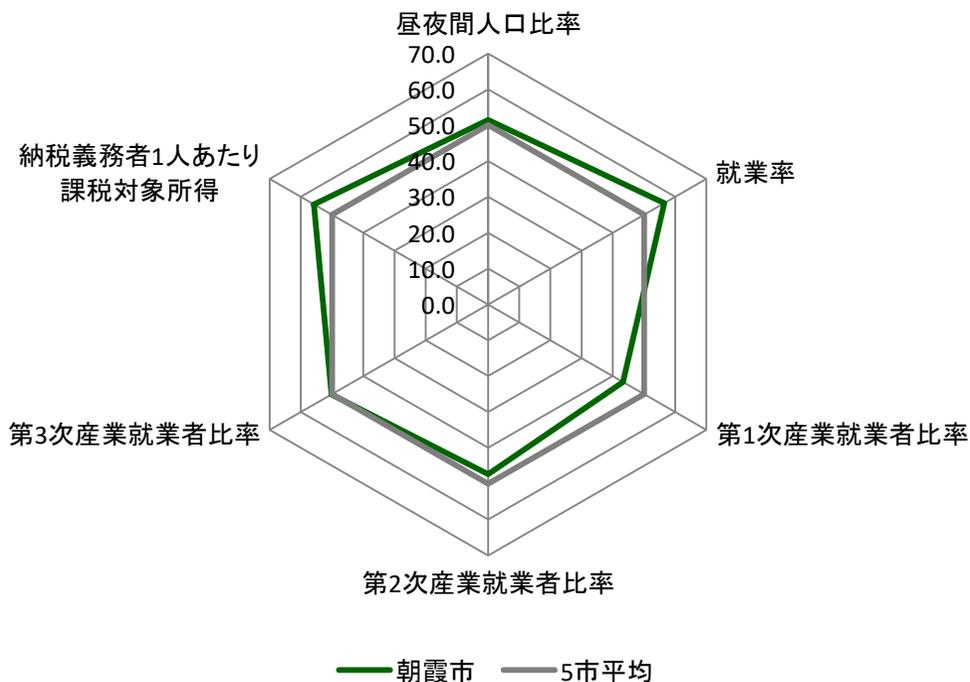
3-10. 就業環境

分析結果総論

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	和光市	新座市	富士見市
1	昼夜間人口比率	%		82.6	81.7	3	51.5	79.1	87.3	85.7	74.0
2	就業率	%		57.9	56.9	2	56.5	54.7	58.9	56.6	56.2
3	第1次産業就業者比率	%		0.67	0.87	4	43.3	0.56	0.77	1.04	1.29
4	第2次産業就業者比率	%		18.6	19.2	4	47.4	20.3	15.0	21.4	20.8
5	第3次産業就業者比率	%		70.2	70.2	3	50.2	70.3	72.8	68.7	68.9
6	納税義務者1人あたり課税対象所得	千円		3,645	3,544	2	55.8	3,636	3,726	3,367	3,345

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

レーダーチャート



分析コメント

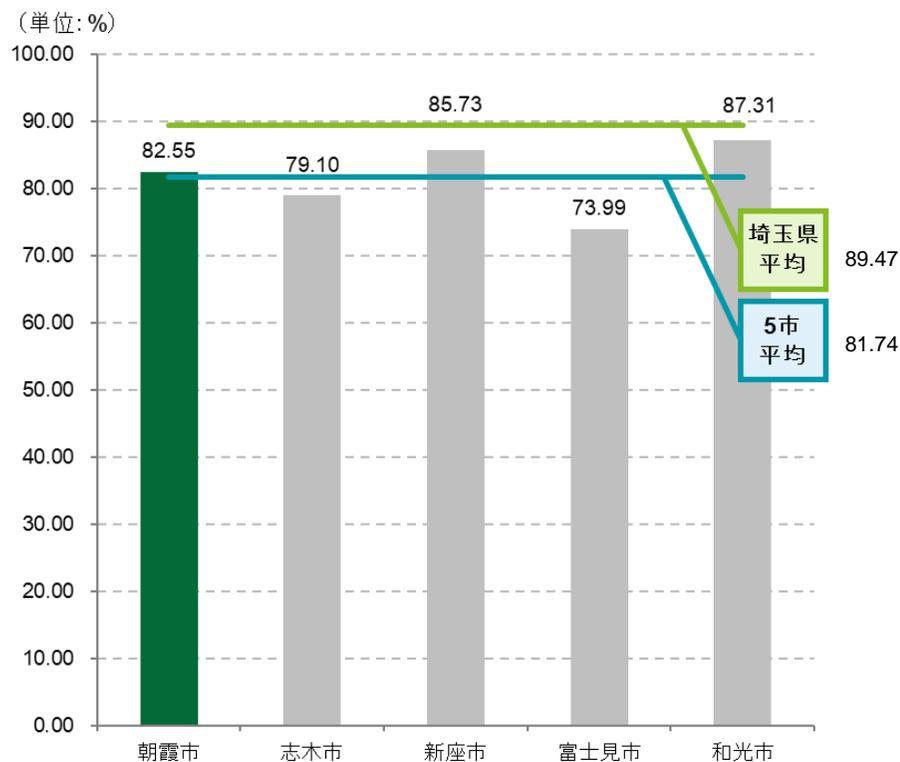
- 「昼夜間人口比率」、「就業率」、「納税義務者1人あたり課税対象所得」の偏差値は比較自治体の平均よりも高い。
- 「昼夜間人口比率」、「第3次産業就業者比率」の偏差値は比較自治体の平均と同程度である。
- 「第1次産業就業者比率」、「第2次産業就業者比率」の偏差値は比較自治体の平均よりも低い。
- 「昼夜間人口比率」の数値が低いことから、通勤や通学で昼間に市外に出る市民が多く、市内での雇用の受け皿が少ない可能性がある。

3-10-1. 昼夜間人口比率

総人口に対する昼夜間人口比率は、比較自治体と同水準であるものの、埼玉県平均より低い水準であるため、朝霞市の昼間人口は、埼玉県において、相対的に低い水準にあると考えられる。

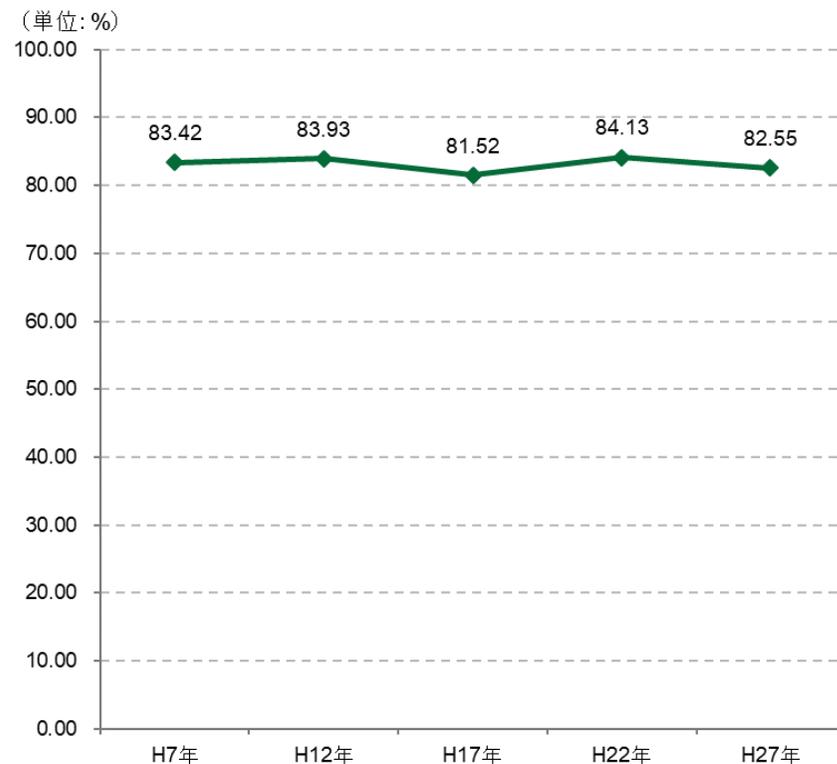
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は和光市、新座市に次いで3番目に高い水準にある。
- 5市平均(81.74%)を上回っているが、埼玉県平均(89.47%)を下回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、横ばいで推移している。

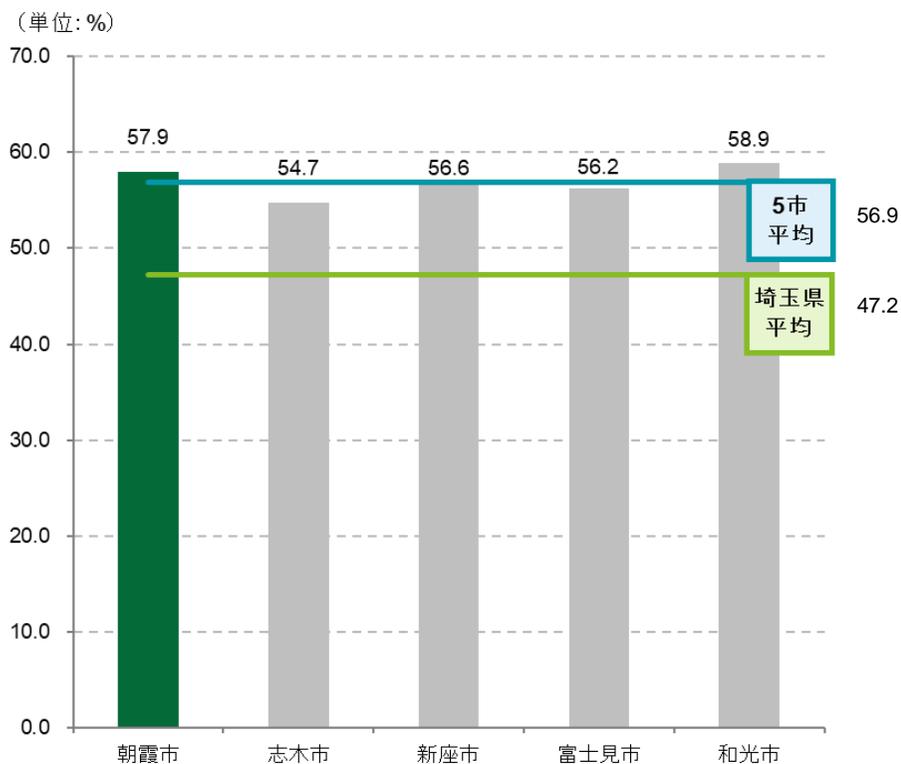


3-10-2. 就業率

15歳以上人口に占める全就業者数の比率は、比較自治体及び埼玉県平均より高い水準であるため、朝霞市の働いている人の割合は、埼玉県において相対的に高い水準にあると考えられる。

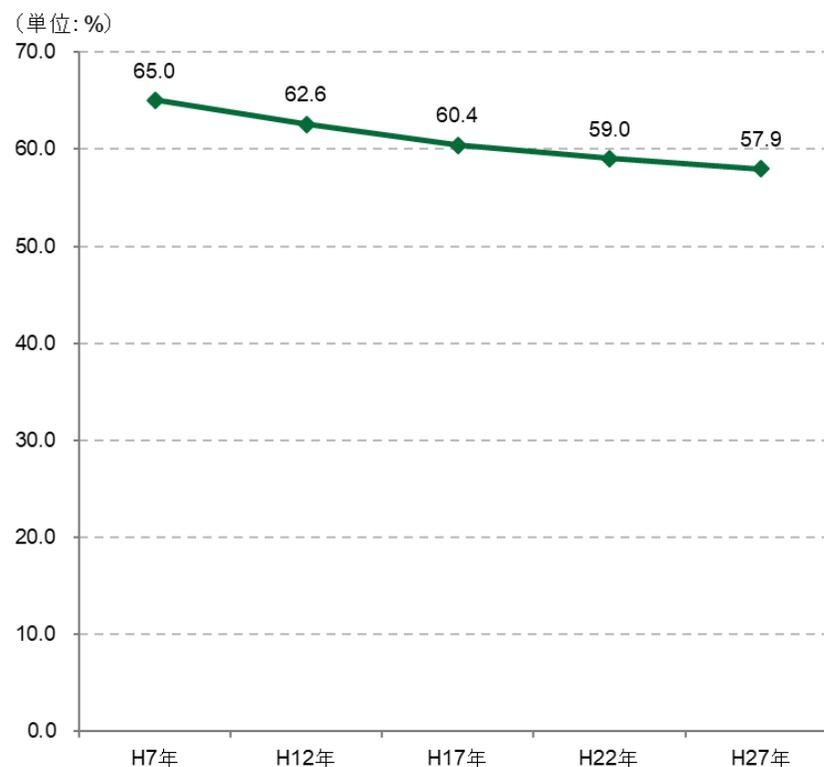
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(56.9%)、埼玉県平均(47.2%)をともに上回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、減少傾向で推移している。

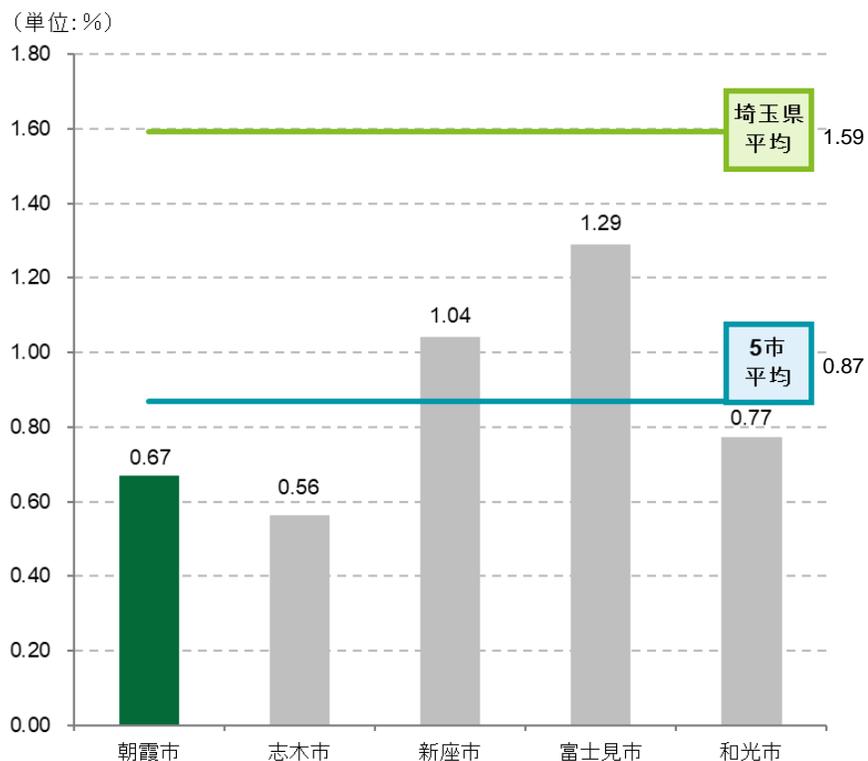


3-10-3. 第1次産業就業者比率

全就業者に占める第1次産業就業者の数は、比較自治体及び埼玉県平均をとともに下回っているため、朝霞市の農林業に従事している就業者数は、埼玉県において相対的に少ないと考えられる。

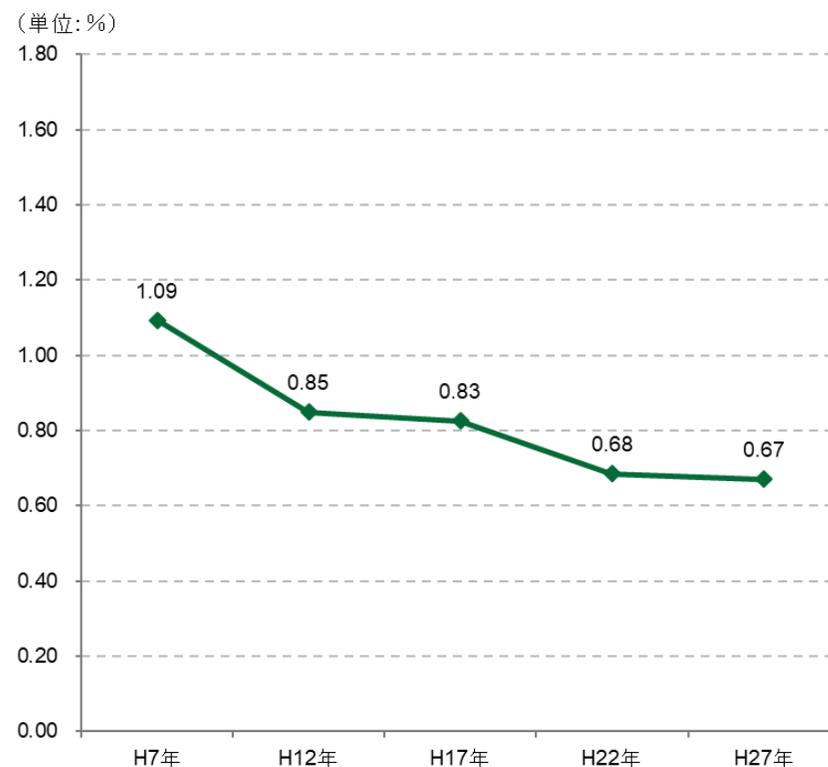
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は志木市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(0.87%)、埼玉県平均(1.59%)をとともに下回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、減少傾向で推移している。

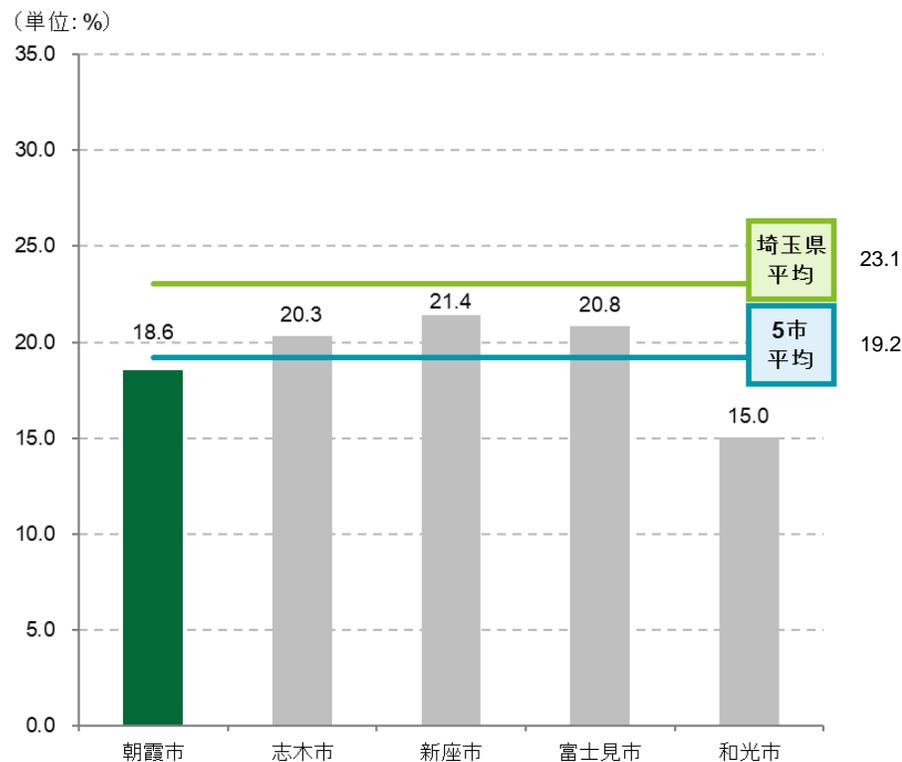


3-10-4. 第2次産業就業者比率

全就業者に占める第2次産業就業者の数は、比較自治体及び埼玉県平均をとともに下回っているため、朝霞市の建設・製造業に従事する就業者数は、埼玉県において相対的に少ないと考えられる。

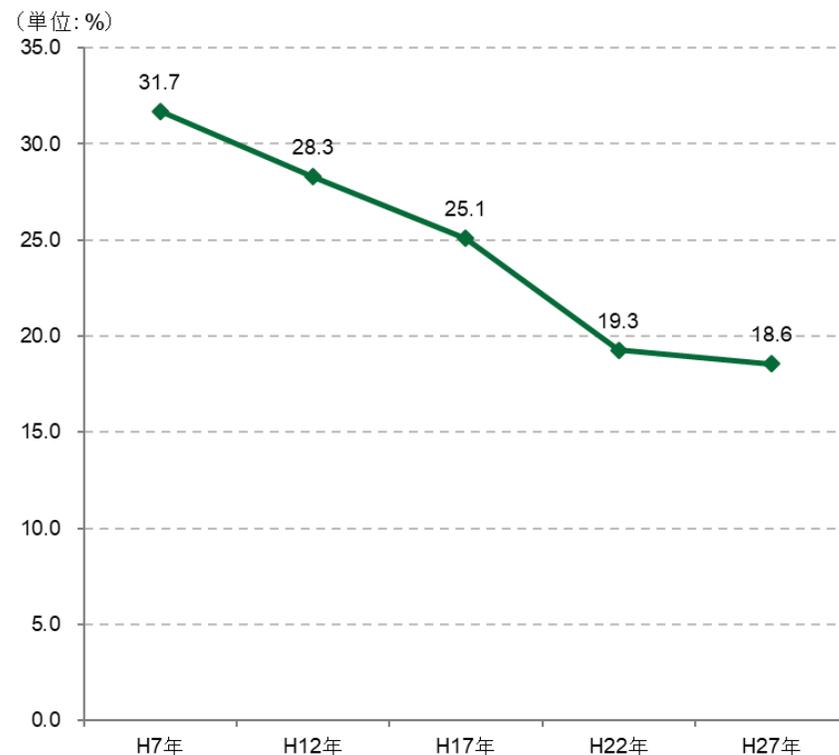
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(19.2%)、埼玉県平均(23.1%)をとともに下回っている。



経年比較

- 過去5回分を比較すると、減少傾向で推移している。



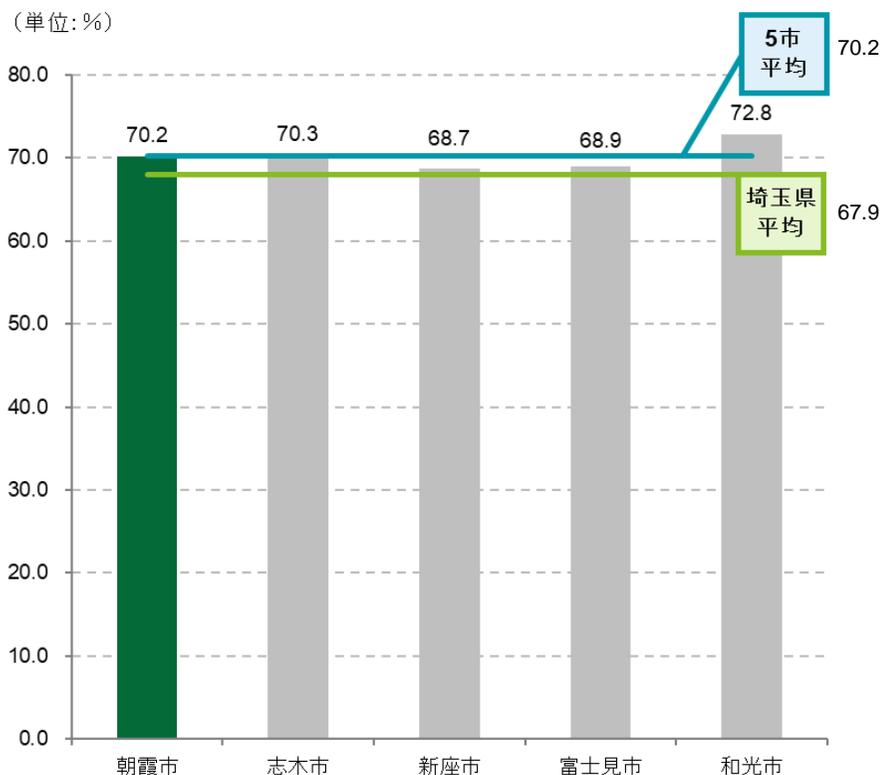
出所:総務省「国勢調査」

3-10-5. 第3次産業就業者比率

全就業者数に占める第3次産業就業者の数は、比較自治体及び埼玉県平均と同程度の水準のため、朝霞市の小売業・サービス業などに従事している就業者数は、埼玉県において標準的な水準にあると考えられる。

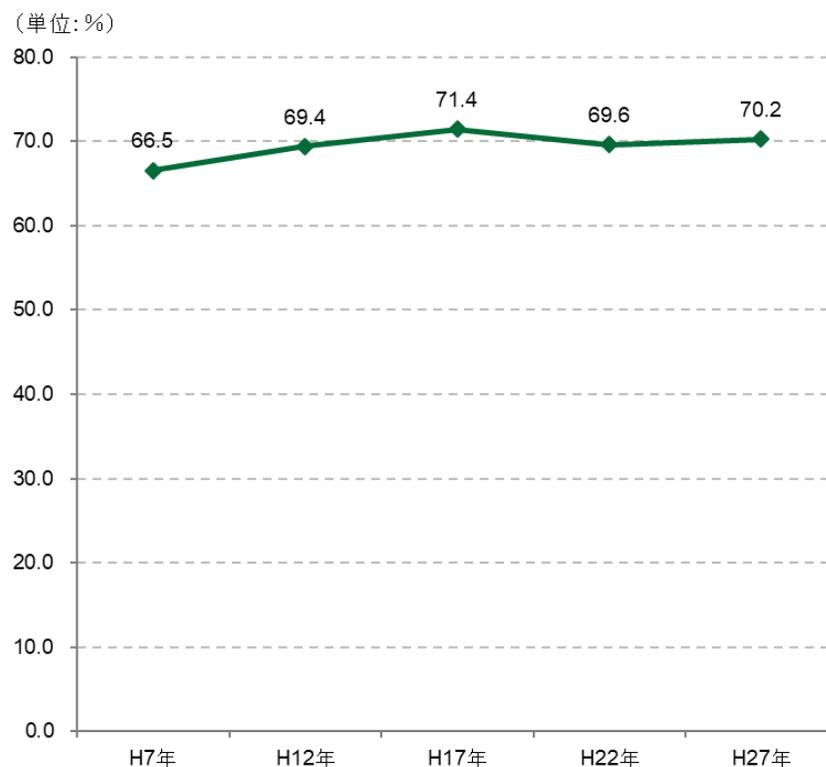
自治体間比較(平成27年)

- 朝霞市は和光市、志木市に次いで3番目に高い水準にある。
- 5市平均(70.2%)と同じだが、埼玉県平均(67.9%)を上回っている。



経年比較

- 平成22年に減少したものの、平成27年には増加している。



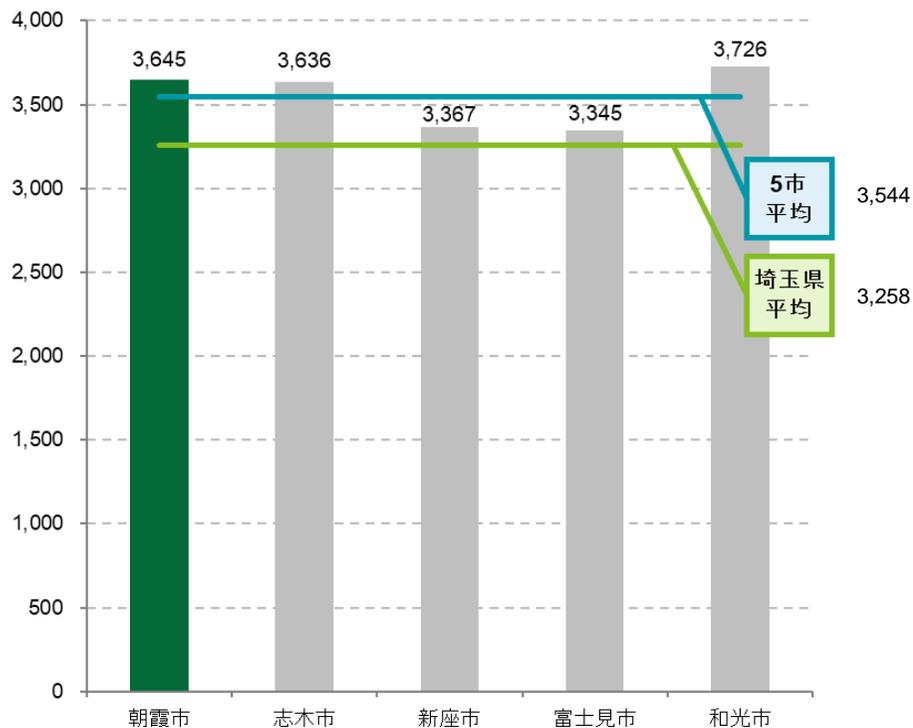
3-10-6. 納税義務者1人あたり課税対象所得

納税義務者に対する課税対象所得の額は、比較自治体及び埼玉県平均と比較して高い水準にあるため、朝霞市の所得水準は、埼玉県において相対的に高いと考えられる。

自治体間比較(平成28年)

- 比較自治体の中では朝霞市は和光市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(3,544千円)、埼玉県平均(3,258千円)をともに上回っている。

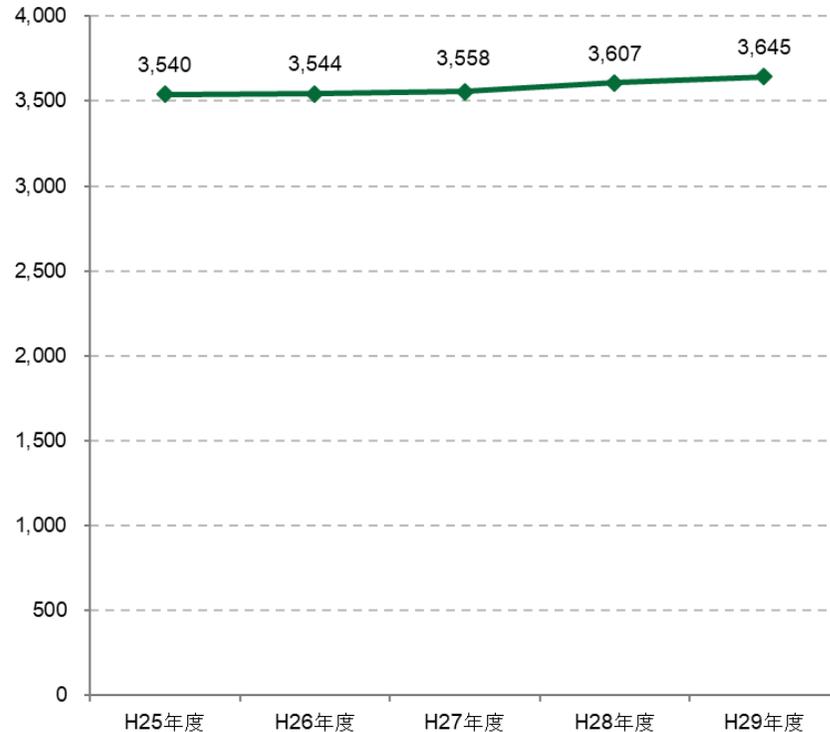
(単位: 千円)



経年比較

- 過去5回分を比較すると、横ばいで推移している。

(単位: 千円)



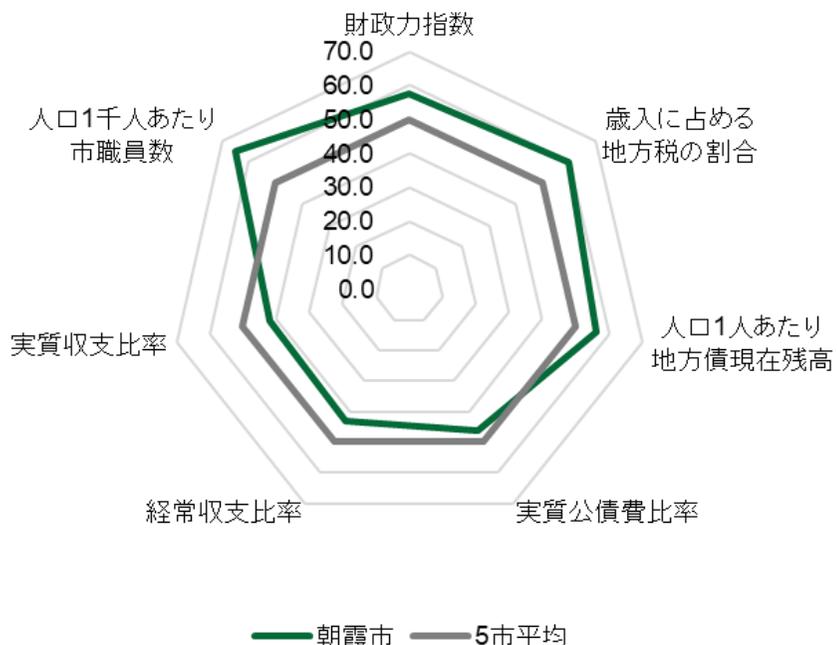
3-11. 行財政

分析結果総論

No.	指標	単位	注	朝霞市	5市平均	朝霞市 順位	偏差値	比較自治体			
								志木市	新座市	富士見市	和光市
1	財政力指数	-		0.98	0.91	2	57.5	0.85	0.91	0.80	1.02
2	歳入に占める地方税の割合	%		53.2	47.5	2	59.9	46.2	40.0	44.7	53.4
3	人口1人あたり地方債現在高	円	※	203,735	230,126	1	56.1	210,360	306,524	209,435	220,574
4	実質公債費比率	%	※	4.1	3.4	4	46.2	1.0	6.0	3.2	2.7
5	経常収支比率	%	※	93.8	92.1	4	43.1	93.0	94.7	89.7	89.5
6	実質収支比率	%		4.3	7.4	4	41.7	12.9	8.3	3.6	7.9
7	人口1千人あたり市職員数	人		5.01	4.68	1	65.3	4.67	4.42	4.72	4.58

※ 値が低い方が望ましい指標については、値が低いと順位及び偏差値が高くなるように設定している。

レーダーチャート



分析コメント

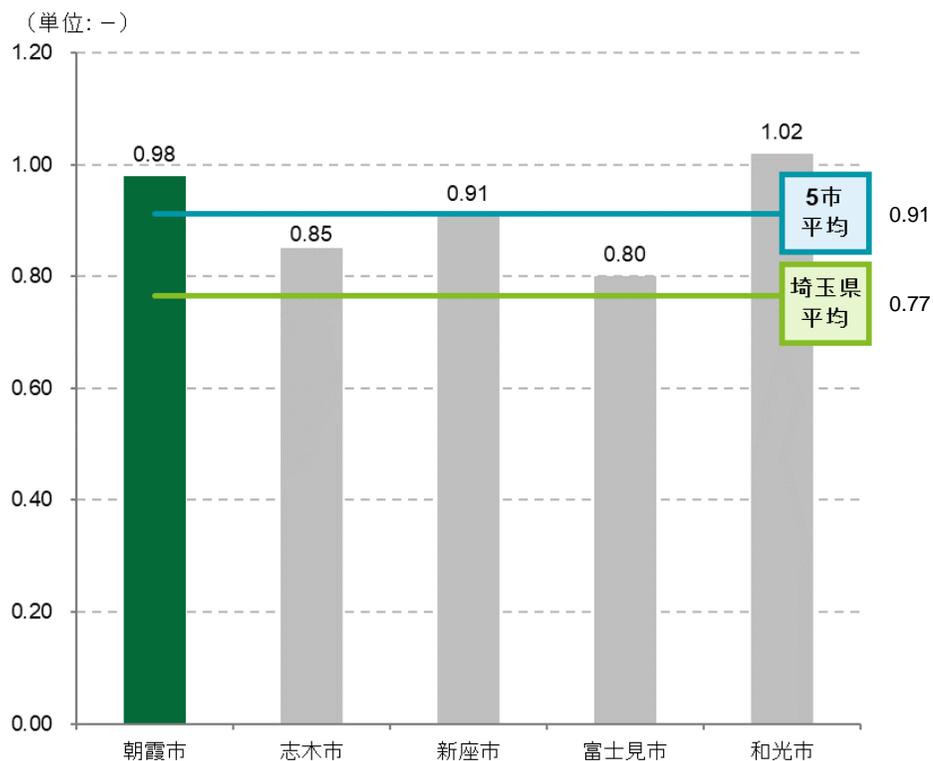
- 「財政力指数」、「歳入に占める地方税の割合」、「人口1千人あたり市職員数」は比較自治体の平均を上回っている。また、「人口1人あたり地方債現在高」は比較自治体の中で最も低い水準となっている。
- 「実質公債費比率」、「経常収支比率」は比較自治体の平均を上回っている。
- 「経常収支比率」が比較自治体に比べ高いことから、より一層の財政運営の効率化が必要である。

3-11-1. 財政力指数

財政力指数は、横ばいで推移しており、比較自治体及び埼玉県平均より高い水準である。

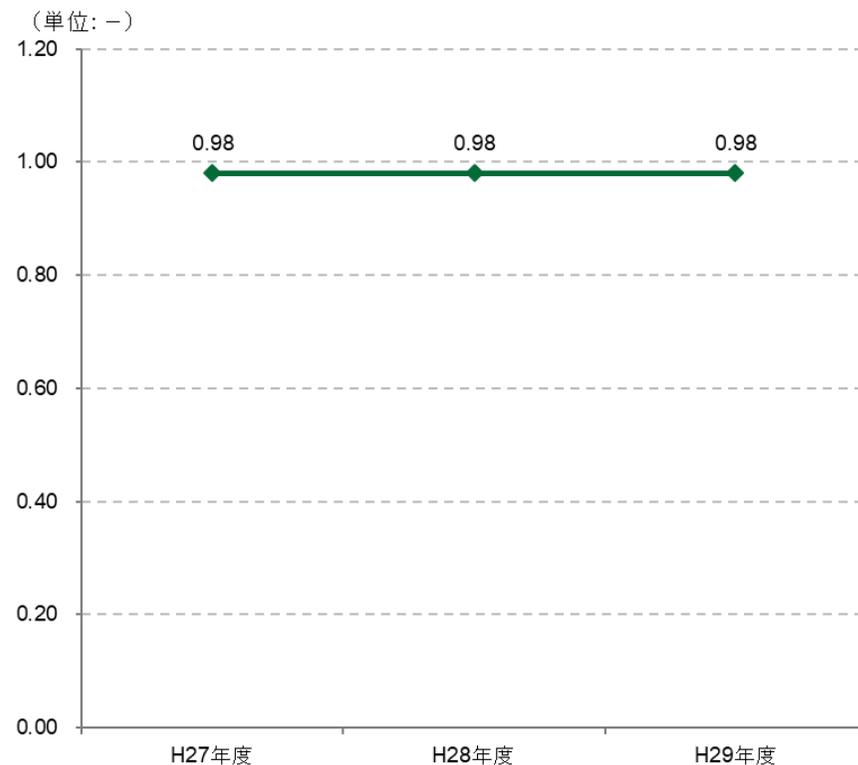
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(0.91)、埼玉県平均(0.77)をとともに上回っている。



経年比較

- 過去3回分を比較すると、横ばいで推移している。



出所:総務省「決算カード」

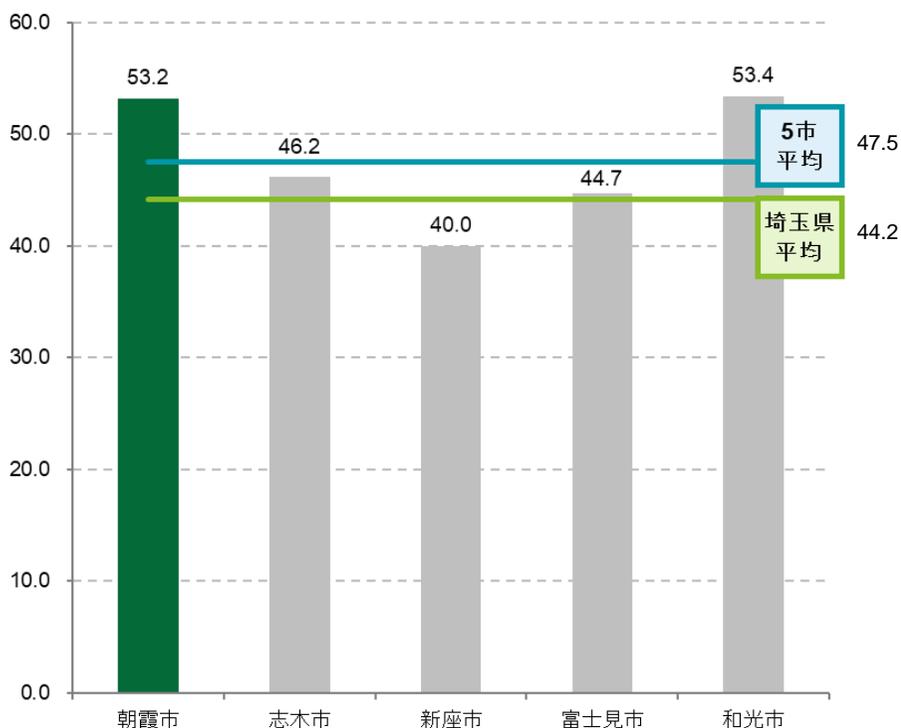
3-11-2. 歳入に占める地方税の割合

歳入総額に占める地方税の割合は、比較自治体及び埼玉県を上回る水準であるが、減少傾向にある。

自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は和光市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(47.5%)、埼玉県平均(44.2%)をともに上回っている。

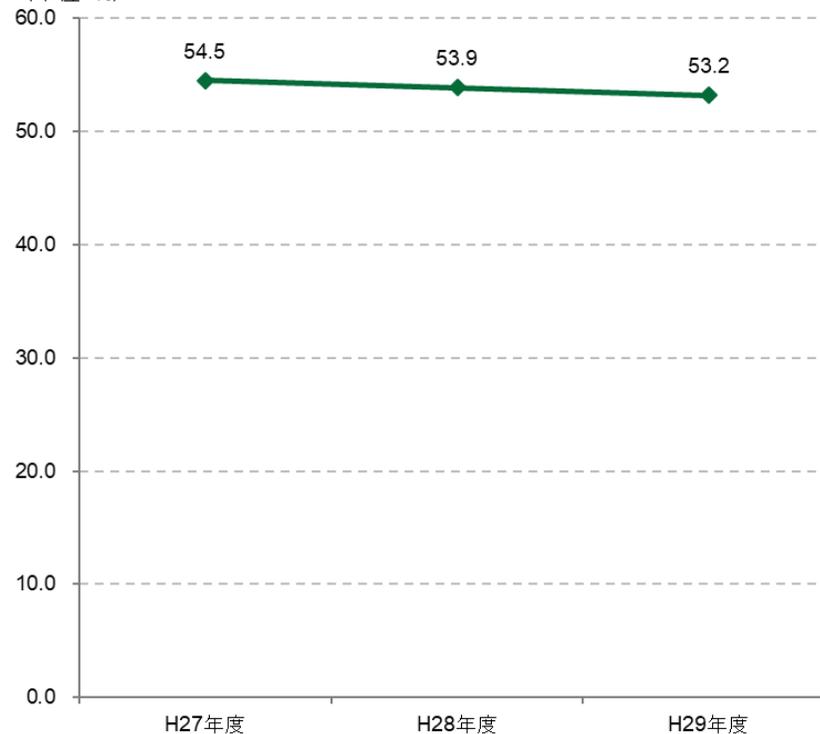
(単位: %)



経年比較

- 過去3回分を比較すると、減少傾向で推移している。

(単位: %)



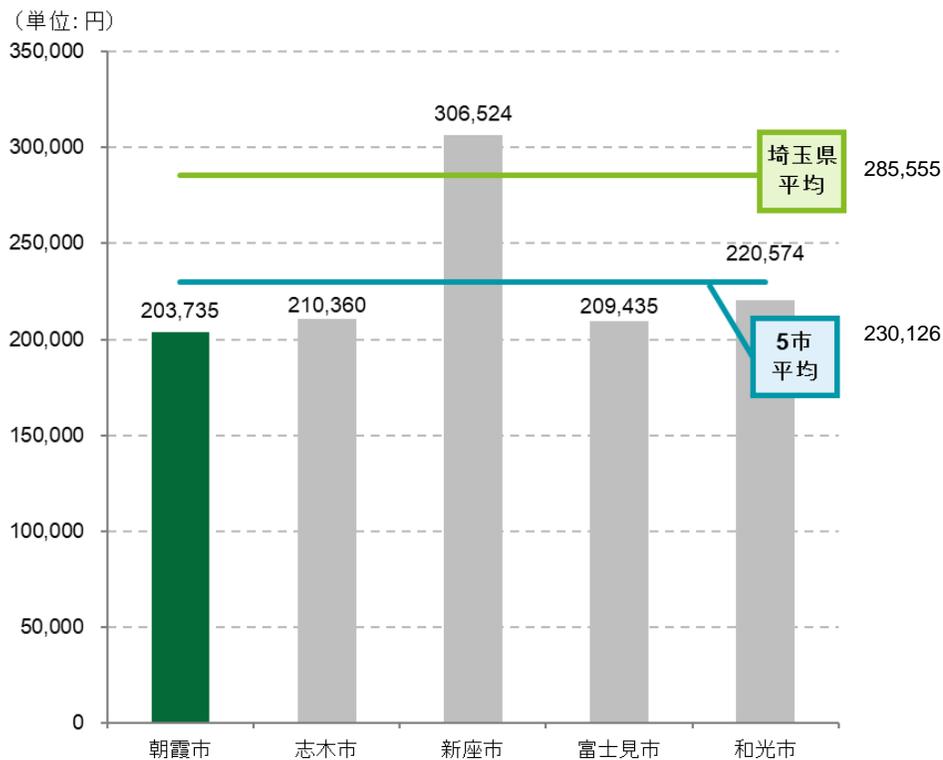
出所:総務省「決算カード」

3-11-3. 人口1人あたり地方債現在高

総人口に対する地方債現在高は、比較自治体の中で最も低い水準にあり、かつ減少傾向で推移している。

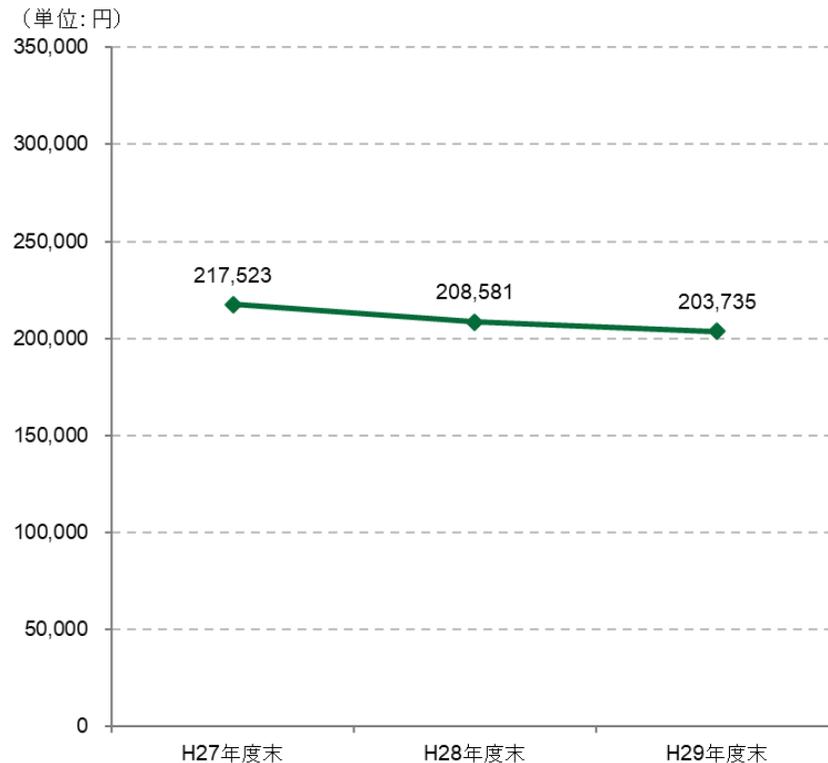
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は最も低い水準にある。
- 5市平均(230,126円)、埼玉県平均(285,555円)をともに下回っている。



経年比較

- 過去3回分を比較すると、減少傾向で推移している。



出所:総務省「決算カード」

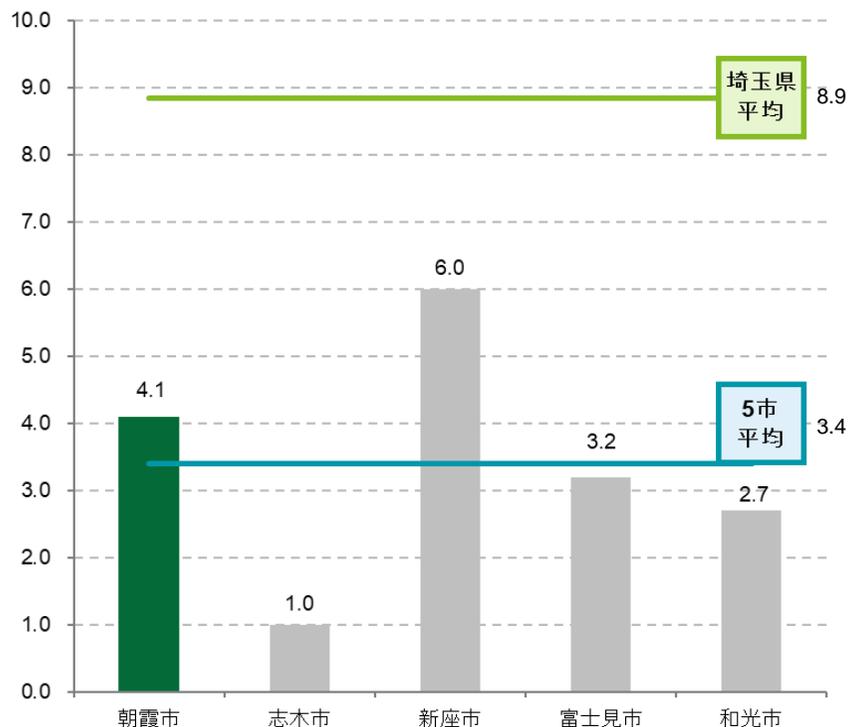
3-11-4. 実質公債費比率

実質公債費比率は、埼玉県平均を大きく下回る水準にあり、朝霞市の財政規模に対する地方債返済額の比率は、埼玉県において相対的に低い水準にある。

自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は新座市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(3.4%)は上回っているが、埼玉県平均(8.9%)は下回っている。

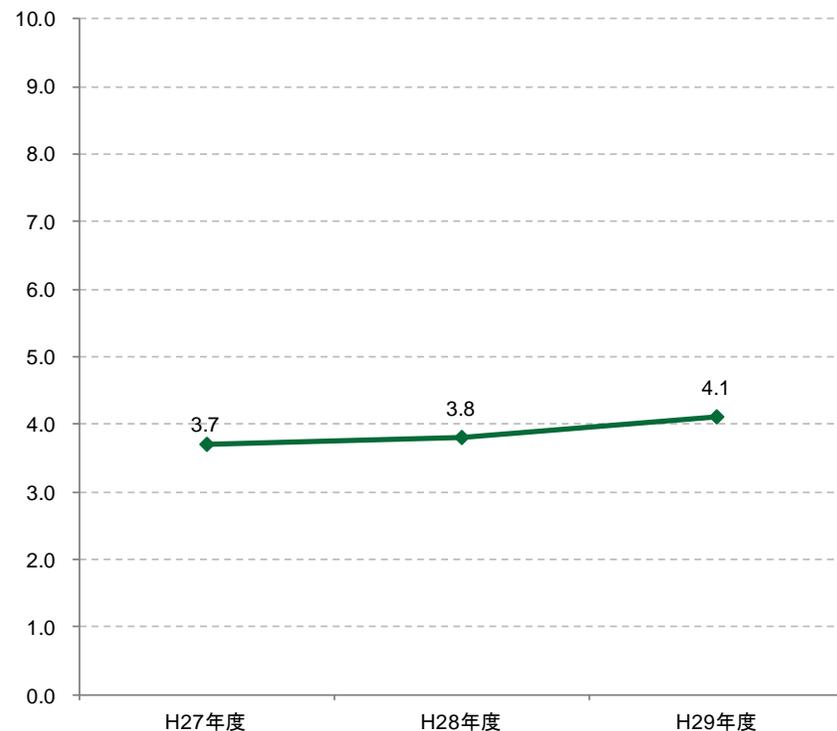
(単位:%)



経年比較

- 過去3回分を比較すると、増加傾向で推移している。

(単位:%)



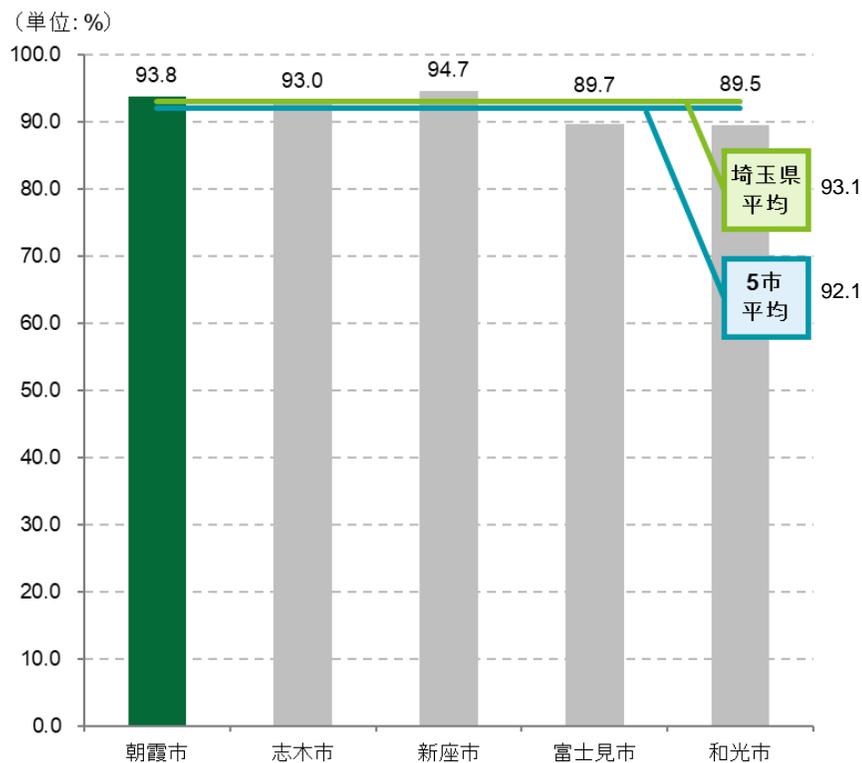
出所:総務省「決算カード」

3-11-5. 経常収支比率

経常収支比率は、比較自治体及び埼玉県平均と同じ水準にあるが、90%を超えており、朝霞市の財政は、硬直化の傾向にある。

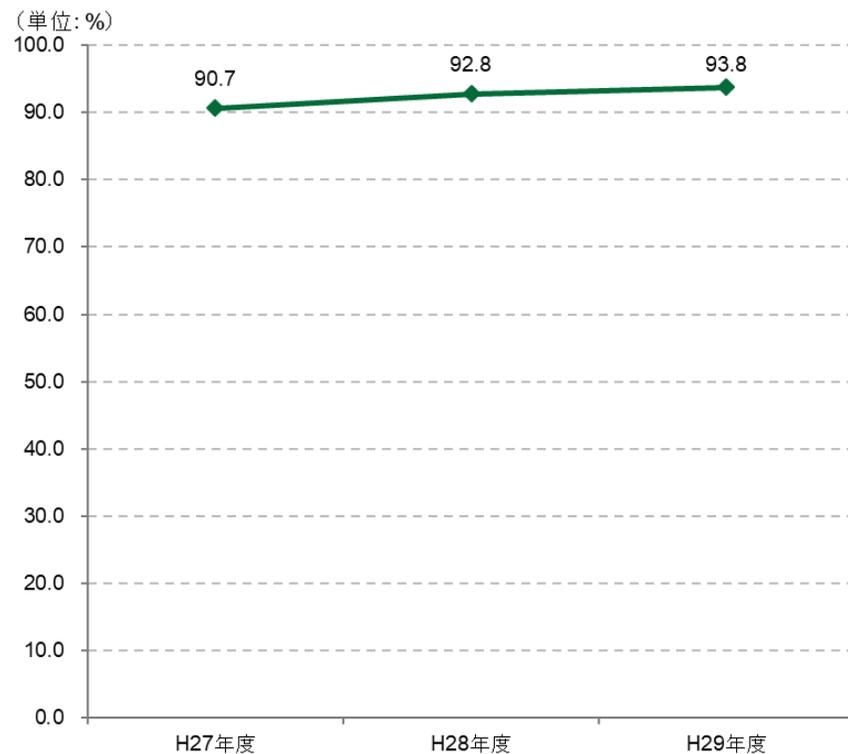
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は新座市に次いで2番目に高い水準にある。
- 5市平均(92.1%)、埼玉県平均(93.1%)をともに上回っている。



経年比較

- 過去3回分を比較すると、増加傾向で推移している。



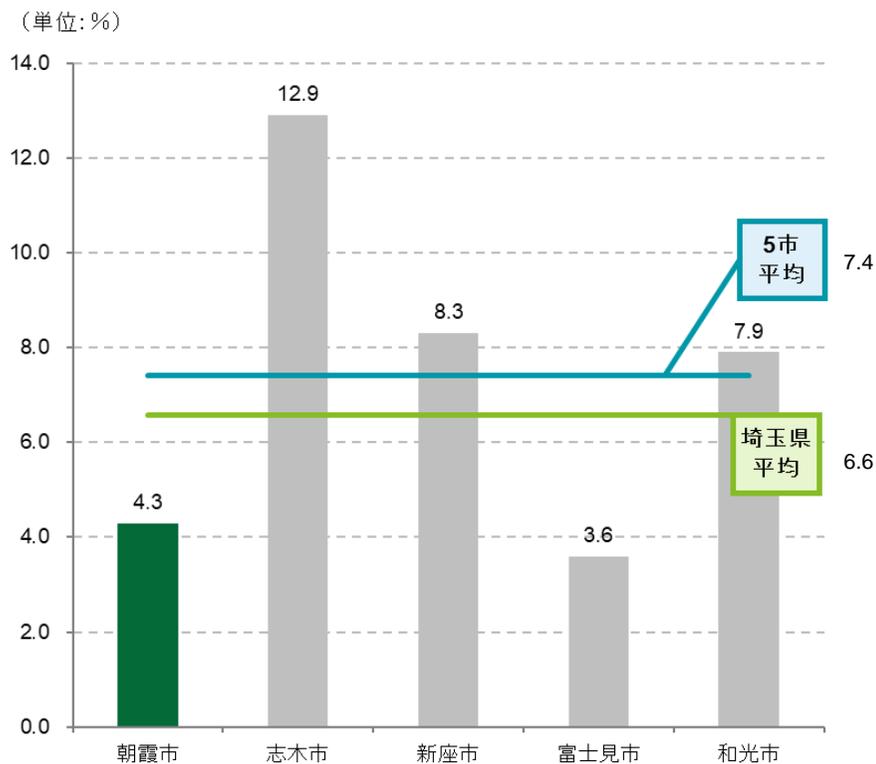
出所:総務省「決算カード」

3-11-6. 実質収支比率

実質収支比率は、比較自治体及び埼玉県平均を下回る水準にあるが、経年で安定して推移している。

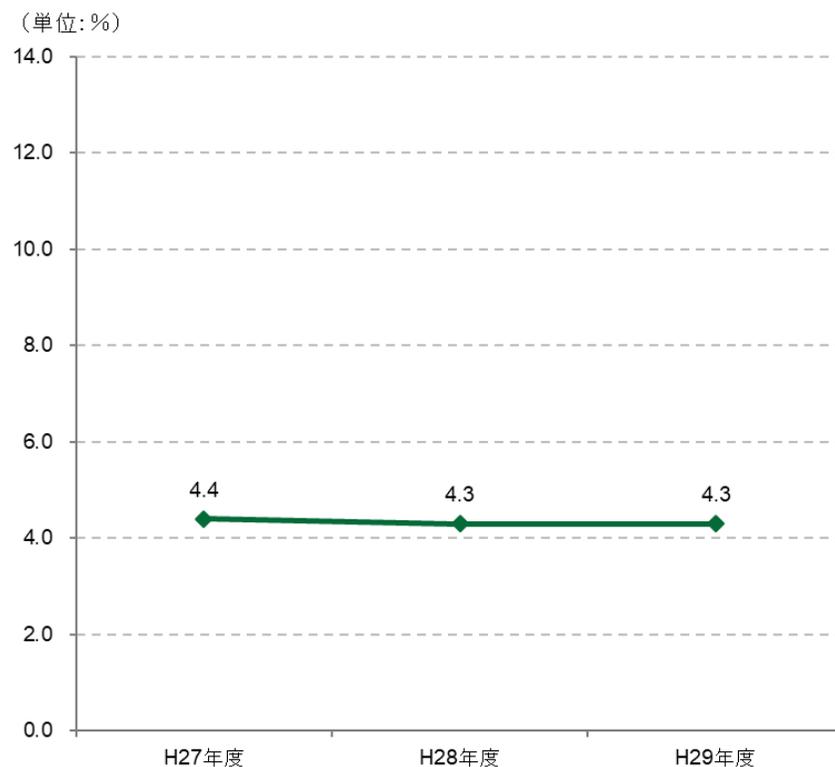
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は富士見市に次いで2番目に低い水準にある。
- 5市平均(7.4%)、埼玉県平均(6.6%)をともに下回っている。



経年比較

- 過去3回分を比較すると、横ばいで推移している。



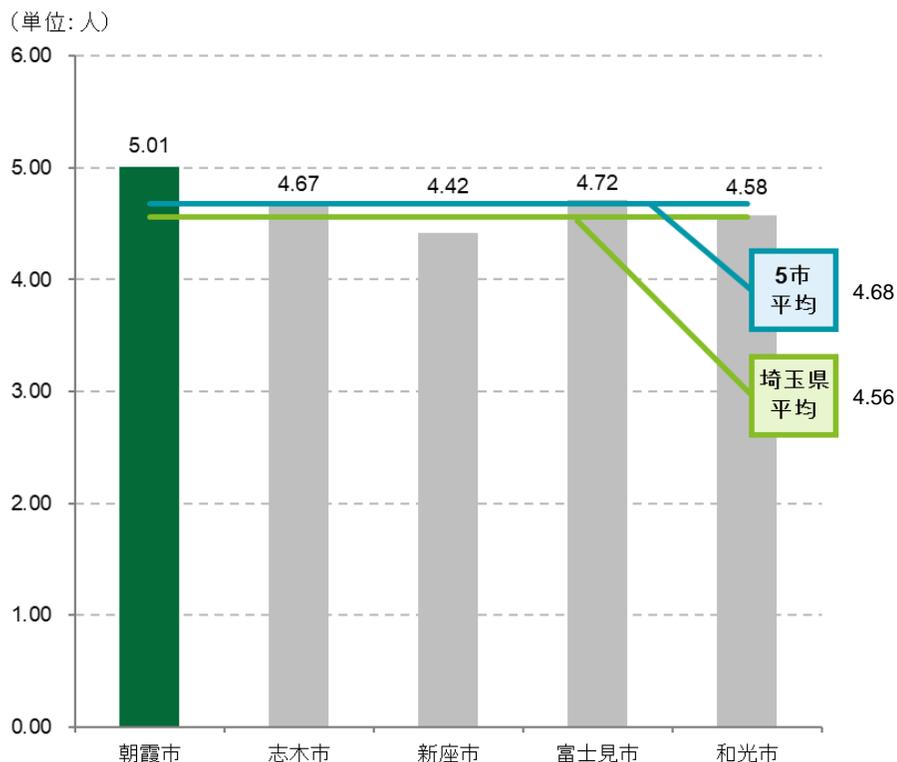
出所:総務省「決算カード」

3-11-7. 人口1千人あたり市職員数

総人口に対する市職員の数、比較自治体の中で最も高い水準にあり、比較自治体及び埼玉県平均よりも高い水準であるため、朝霞市役所の人員の規模は、埼玉県において相対的に高い水準にあると考えられる。

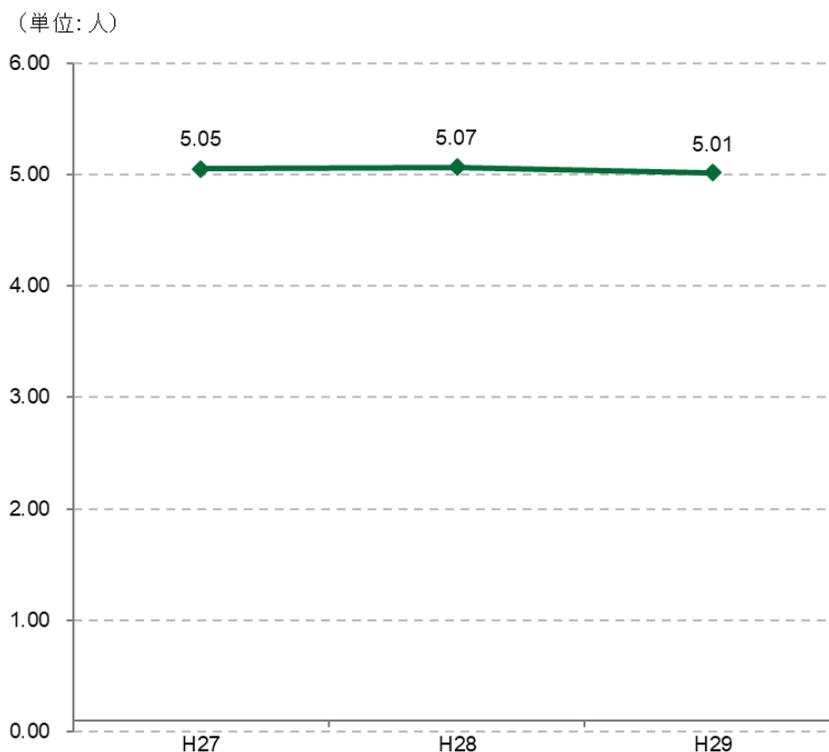
自治体間比較(平成29年)

- 朝霞市は最も高い水準にある。
- 5市平均(4.68人)、埼玉県平均(4.56人)をとともに上回っている。



経年比較

- 過去3回分を比較すると、横ばいで推移している。



出所:総務省「決算カード」